移 住 地 資 料

1 9 5 9 年 1 1 月

財団法人 日本海外協会連合会

国際協力事業団

受入月日	'84. 8. 20	600
		23.4
登録No.	13090	EA

移住地資料目次

基礎統計

ブラジル ………… 1

パラグァイ ………… 3

ボリビア ………… 6

アルゼンチン ………… 9

コロンビア ………… 11

ドミニカ ………… 13

中南米における国別在留邦人数 ………… 16

物価表

アマゾン ………… 18

リオ・デ・ジャネイロ ………… 19

サンパウロ ………… 20

パラグァイ ………… 21

ボリビア ………… 22

アルゼンチン ………… 23

コロンビア ………… 24

ドミニカ ………… 25

移住地資料

○ 北部ブラジル ………… 26

アマゾン地域各植民地の衛生状況について ………… 26

アマゾン各植民地概況 ………… 26

JICA LIBRARY
1019616[0]

入植地分布地 …… 34
入植地別家族人員土地一覧表 …… 35
各地農産物販売価格一覧表 …… 37
消費物資小売価格一覧表 …… 38
タイアーノ植民地概況 …… 40
トレーゼ・デ・セテンブロ植民地概況 …… 46
ベラビスタ植民地概況 …… 51
マナオス郊外植民地概況 …… 57
モンテ・アレグレ植民地概況 …… 60
グワマ植民地概況 …… 65
マタピー植民地概況 …… 72
ファゼンジニア植民地概況 …… 76
マザゴン植民地概況 …… 79
モンテ・アレグレ種苗園概況 …… 83
マラニオン州ロザリオ入植地概況 …… 87

中部ブラジル ……

ピウン植民地の概要 …… 100

南部ブラジル ……

リオ・グランデ・ド・スール州と日本人移住者 …… 106
リオ・グランデ・ド・スール州の農業 …… 108
リオ・グランデ・ド・スール州内入植地営農状況 …… 114

パラグァイ国

チャベス・フラム入植地の営農状況 …… 134

C.A.F.E 耕地入植地営農状況 …… 150

カピタンバード入植候補地調査報告 …… 156

ボリビア国

サンタ・クルス地域における農業の状況 …… 172

サン・ファン移住地の概況 …… 180

ドミニカ国

コンスタンサ入植地営農状況 …… 196

ハラバコア入植地営農状況 …… 208

アグアネグラ入植地について …… 221

基礎統計

I ブラジル

1) 面　積　8,513,844 平方キロ

2) 人　口　62,725,000 人（1958 年推定）

3) 貿　易　1957 年度

イ) 輸　出　1,391,607 千ドル

主要輸出品目

原材料（原綿, カルナウバ・ワックス, 大豆, 原毛）

食　料（砂糖, ココア, コーヒー, ココア・バター）

ロ) 輸　入　1,488,826 千ドル

主要輸入品目

食　料（小麦等）

燃　料（石炭, ガソリン, 原油）

原材料（銅, 鉄鋼等）

製　品（車輛, 材料器具）

4) 主要農産物　（1957 年度　単位 トン）

コーヒー	1.939.000
籾　米	4.076.000
小　麦	1.199.000
マンジオカ	15.822.000
甘　庶	46.576.000

ベレン

	平均気温	雨量
1月	25.6	193
2	25.2	339
3	25.4	431
4	25.6	453
5	26.0	300
6	26.0	230
7	25.9	59
8	26.0	72
9	26.0	15
10	26.4	12
11	26.6	16
12	26.3	67
全年	25.9	2,187

リオ・デ・ジャネイロ

	平均気温	雨量
1月	25.1	124
2	25.4	123
3	24.7	133
4	23.4	108
5	21.9	80
6	20.9	58
7	20.2	42
8	20.7	44
9	21.2	67
10	21.5	82
11	23.0	105
12	24.5	136
全年	22.7	1099

サンパウロ

	平均気温	雨量
1月	20.5	196
2	20.6	222
3	20.0	142
4	18.1	57
5	15.8	64
6	14.8	56
7	14.4	44
8	15.0	51
9	16.4	82
10	17.2	119
11	18.6	184
12	20.0	217
全年	17.6	1,428

Ⅱ パラグァイ

1) 面　積　　406.752 平方キロ

2) 人　口　　1.638.000人（1959年6月現在）

3) 貿　易　　（1957年度　単位 万ドル）

イ) 輸　出　　25.615千ドル

主要輸出品目

原材料（綿花，煙草葉）

ロ) 輸　入　　20.569千ドル

主要輸入品目

食　料（白とうもろこし，綿花，マテ茶）

綿製品

車輌農業機械等

4) 主要農産物（1957年度，単位トン）

トウモロコシ	130.000
甘蔗	490.000
綿花	32.600
マテ茶	12.052
煙草	5.000
落花生	10.800
キャッサバ	972.800

5) 気　象

アスンシオン

	気温			雨量
	最高	最低	平均	
1月	34.3	23.1	28.7	138.9
2	33.1	21.8	27.4	129.4
3	31.7	18.5	25.1	151.5
4	27.7	16.9	22.3	120.5
5	25.6	15.1	20.3	111.2
6	22.7	13.9	18.3	74.4
7	22.7	15.0	18.8	47.3
8	25.3	16.8	21.0	31.2
9	26.8	18.4	22.6	78.9
10	28.9	20.2	24.5	124.1
11	31.0	22.4	26.7	126.6
12	33.3	18.8	26.0	121.8
全年	28.6	18.8	23.7	1255.8

エンカルナシオン

	気温			雨量
	最高	最低	平均	
1月	32.3	19.3	25.8	138.4
2	31.6	19.6	25.6	130.9
3	29.6	17.7	23.6	172.1
4	26.4	13.6	20.0	155.6
5	24.0	12.6	18.3	188.2
6	21.2	10.5	15.8	143.5
7	21.6	9.8	15.7	97.1
8	24.2	11.3	17.7	68.3
9	25.0	12.9	18.9	126.2
10	26.5	14.2	20.3	126.3
11	29.2	16.0	22.6	165.7
12	31.8	17.8	24.8	114.1
全年	27.0	14.6	20.8	1626.4

Ⅲ ボリビア

1) 面　積　　1,098,581 平方キロ

2) 人　口　　3,273 千人（1957年）

3) 貿　易　　（1952年）

イ) 輸　出　　143,000 千ドル

主要輸出品目

錫，マンガン，鉛，アンチモニー，銅，亜鉛，金

ロ) 輸　入　　総額 64,000 千ドル

主要輸入品目

生牛，米

砂糖，棉花

小麦，食糧

其の他　木材，石油，羊毛，綿，織物，機械類付属品

4) 主要農産物　（単位 トン）

ゴム　4,350

ユカ　3,700

綿花　90,000 ポンド

鉱産物

錫　30,000 トン

石油（原油）1億リットル

銀　46,000 トン

5）気　象

ボリビア

ラ・パス

	気温			雨量
	最高	最低	平均	
1月	18	6	10.2	135
2	18	6	10.2	91
3	18	5	10.0	61
4	19	4	9.1	22
5	19	2	8.7	13
6	16	2	7.1	3
7	16	1	6.4	6
8	17	2	7.9	12
9	17	3	9.6	28
10	18	4	10.0	29
11	19	5	11.0	42
12	18	6	10.8	97
全年			9.3	542

サンタ・クルス

	気温			雨量
	最高	最低	平均	
1月	31.1	22.0		93 (1953年)
2	29.2	20.7		35
3	30.5	21.2		144
4	28.6	17.4		52
5	26.8	16.6		141
6	18.8	12.0		22
7	26.0	15.8		0
8	29.1	16.4		0
9	24.6	17.2		49
10	28.4	18.8		89
11	29.5	19.7		243
12	32.0	20.5		80
全年	27.9	18.2		952

(注) 気温 — 1952年度

雨量 — 1953年度

Ⅳ. アルゼンチン

1) 面　積　　2,778.412 平方キロ

2) 人　口　　19,868,000人　(1957 年推定)

3) 貿　易　　(1957 年度)

　イ) 輸　出　　974.821 千ドル

　　主要輸出品目

　　　原材料　(羊毛, 皮革)

　　　食　料　(穀類, 小麦粉)

　ロ) 輸　入　　1.310.443 千ドル

　　主要輸入品目

　　　金属素材　銅, アルミニューム, すず

　　　　　　　銑鉄, ビルット, スラブ, 石綿, 薬品原料

　　　　　　　生フィルム

4) 主要農産物　(1957 年度, 単位トン)

小　麦	5,250,000
甘　蔗	9,810,000
トウモロコシ	4,810,000
大　麦	1,008,000
燕　麦	972,000
ライ麦	644,000
亜　麻	605,000
綿　花	524,200
米	206,000

5) 気　象

ブエノス・アイレス

	平均気温	雨　量
1月	23.3	78
2	22.7	71
3	20.6	98
4	17.0	122
5	13.1	71
6	9.9	52
7	9.6	54
8	10.5	56
9	13.0	74
10	15.4	85
11	18.9	101
12	21.7	102
全年	16.3	964

Ⅴ コロンビア

1) 面　積　1,138,355 平方キロ

2) 人　口　13,227,000人（1957推定）

3) 貿　易　（1957年度）

イ) 輸　出　456,000千ドル

食料品（コーヒ，バナナ）

石　油

プラチナ

皮　革

ロ) 輸　入　441,000千ドル

機　械

自車車類

金属製品

化学製品

4) 主要農産物（1956年度　単位トン）

コーヒー	416,000
砂　糖	240,000
米	300,000
トウモロコシ	741,000
ジャガイモ	545000
バナナ	161,000,000 房
小　麦	110,000

5) 気　象

ボ ゴ タ

	平均気温	雨　量
1月	14.4	58
2	14.6	66
3	15.0	101
4	14.9	146
5	14.8	113
6	14.6	62
7	14.0	51
8	14.0	56
9	14.1	62
10	14.4	160
11	14.6	119
12	14.4	66
全年	14.5	1061

Ⅵ. ドミニカ

1) 面　　積　　55,600平方キロ

2) 人　　口　　2,698,126人 (1958年推定調査)

3) 貿　　易　　(1957年)

イ) 輸　　出　　161,020千ドル

主要輸出品目

食　料 (粗糖, コーヒー豆, カカオ, 煙草)

ロ) 輸　　入　　116,480千ドル

主要輸入品目

綿製品, 食料品, 機械, 自動車, 石油, 薬品, 電気器具類, 建築材料, 紙類

4) 主要農産物　(1957年度　単位トン)

甘　蔗	3,832,844
コーヒー	35,847
ココア	30,800
米	74,443
落花生	45,057
トウモロコシ	93,600
タバコ	20,721
ジャガイモ	2,868
サツマイモ	97,571

5) 気　象

シウダー・トルヒーリョ　(1954年)

	気温(℃)			雨量(mm)
	最高	最低	平均	
1月	29.1	18.3	23.7	38.6
2	28.0	17.8	22.9	89.7
3	29.8	19.4	24.6	28.1
4	29.6	19.0	24.3	78.8
5	30.6	21.2	25.9	121.2
6	30.5	20.9	25.7	169.1
7	31.1	21.7	26.4	120.1
8	31.7	21.7	26.7	157.6
9	31.0	21.3	26.2	240.0
10	29.4	20.5	25.0	342.6
11	31.1	19.5	24.8	70.0
12	29.2	17.9	23.5	38.4
全年	30.1	19.9	25.0	1,494.2

コンスタンサ　（1,954年）

	気温			雨量
	最高	最低	平均	
1月	22.1	8.3	15.2	9.6
2	20.6	9.7	17.6	137.1
3	20.8	9.5	15.1	30.1
4	22.0	11.0	16.2	53.6
5	25.0	12.2	18.6	302.1
6	28.8	11.8	20.3	168.1
7	28.3	11.8	20.0	100.1
8	28.4	12.5	20.5	29.9
9	26.7	11.3	19.0	66.1
10	25.3	11.4	18.4	237.1
11	25.1	9.6	17.3	60.3
12	22.5	6.7	14.6	13.4
全年	24.6	10.5	17.6	1,207.4

中南米に於ける国別邦人移住在留者数

中南米は地域が広く届出も厳密に行われず調査の手も行きわたらないので正確な数は分らない。ブラジルに40万人、中南米全体で47万人といったりするが、少数の例外を除き大ざっぱな推計である。

内　訳

国名	人数	国名	人数
ブラジル	404,630人	キューバ	700人
ペルー	40.000	コロンビア	558
アルゼンチン	14,530	ドミニカ	990
メキシコ	5.619	チリー	500
パラグアイ	4388	ベネズエラ	176
ボリビア	2.427	ウルグアイ	177

以上のうちブラジル404,630人の内訳

区域	家族数	男	女	計
パラナ州	9.292	33.966人	31941人	65,907人
ミナス・ゼライス	381	1.118	1073	2.191
マット・グロッソ	1.199	4.288	3.758	8.046
リオ・デ・ジャネイロ	951	2.796	2.580	5.376
ゴヤス	287	918	884	1.802
リオグランデ・ド・スル	147	396	305	701

区　　　域	家族数	男	女	計
リオグランデ・ド・ノルテ	14	30人	21人	51
バ　イ　ア	47	141	123	264
ペルナンブーコ	29	57	71	128
エスピリト・サント	10	20	12	32
サンタ・カタリナ	14	31	19	50
アマゾン地域	1206	3,459	2,952	6,411

物価表

アマゾン　1969.8月現在

1ドル＝160クルゼイロ.

	品名	単位	価格	邦貨換算（約）
農産物	米	1kg	25.00 Cr$	56円
	とうもろこし	〃	8.00	18
	馬鈴薯	〃	45.00	100
	ファリーニャ	〃	17.00	38
食品嗜好品	牛肉	〃	200.00	450
	卵	1ダース	96.00	216
	バター	1kg	320.00	720
	小麦粉	〃	45.00	100
	塩（岩塩）	〃	8.00	18
	砂糖	〃	30.00	68
	食用油(オリーブ油)	1ℓ	280.00	630
衣料雑貨品	背広	上下	8,000.00	18000
	靴下		160.00	360
	石けん	1コ	50.00	110
	石油ランプ	〃	2,700.00	6,100
	ガソリン	1ℓ	9.08	20
	鍋	〃	390.00～490.00	880～1,100
その他	1日の労働賃	グアマ	80.00～120.00	180～270
	〃 仲仕	ベレン	300.00～450.00	675～1000
	一般人夫	〃	70.00～100.00	160～225

リオデジャネイロ　　1959.8月現在

1ドル＝160クルゼイロ

	品名	単位	価格	邦貨換算（約）
農産物	米	1K	Cr$ 32.00〜35.00	円 70〜80
	トウモロコシ	〃	36.00	80
	馬鈴薯	〃	25.00	55
	キャベツ	〃	20.00	45
	トマト	〃	16.00	35
	フェジョン	〃	53.00〜60.00	120〜135
食品・嗜好品	牛肉	〃	85.00	190
	卵	〃	58.00	130
	バター	〃	174.00〜224.00	390〜500
	小麦粉	〃	22.50	50
	塩	〃	18.00	40
	砂糖	〃	21.00	45
	食用油	〃	74.00	165
衣料雑貨品	背広		4,000.00〜7,000.00	9000〜16,000
	靴下		50.00〜150.00	110〜340
	石油ランプ	1台	500.00〜2500.00	1,125〜5,600
	ガソリン	1ℓ	9.50	21
	鍋	1コ	160.00	360
その他	労働者1日分労賃	リオ	200.00〜300.00	450〜675

サンパウロ（ポルト.アレグレ）　1959.8月現在

1ドル＝160クルゼイロ

	品名	単位	価格	邦貨換算（約）
農産物	米	1K	28.00 Cr$	60円
	とうもろこし	〃	10.00	20
	馬鈴薯	〃	35.00	80
	フェイジョン	〃	45.00～52.00	100～120
	甘蔗	〃	10.00	20
	玉ねぎ	〃	30.00	70
食品・嗜好品	牛肉	〃	60.00～80.00	135～180
	卵	1ダース	35.00	80
	バター	1K	150.00	340
	小麦粉	〃	24.00	55
	塩	〃	14.00	30
	砂糖	〃	21.50	50
	食用油	〃	85.00	190
衣料雑貨品	背広（中級）	1着	3,000.00～4,000.00	6,750～9,000
	靴下		18.00～52.00	40～120
	石けん	1コ	9.00～15.00	20～35
	石油ランプ	〃	120.00	270
	ガソリン	1ℓ	8.00	18
	鍋		280.00	630
その他	労務者1日の労賃	市内	130.00	290
		農村	80.00	180

パラグァイ　　　　1959.8月現在

1ドル ＝ 120グワラニー

	品名	単位	価格	邦貨換算(約)
農産物	米	1瓩	15～17 G.S	45～50円
	とうもろこし	〃	5	15
	馬鈴薯	〃	20～22	60～65
	玉ねぎ	〃	25	75
食品・嗜好品	牛肉	〃	22	65
	卵	1ダース	36	110
	塩		8	25
	砂糖		18	25
	小麦粉		17	50
衣料雑貨品	背広	上(普通)	2,500	7,500
	靴下		100	300
	石けん	1コ	15	45
	石油ランプ	〃	120	360
	ガソリン	1ℓ	12	36
	鍋	1コ	350	1,050
その他	労働者1日労賃		120	360

ボリビア　　1959.8月現在

1ドル＝12.000ボリビアーノ

	品名	単位	価格	邦貨換算
農産物	米	25ポンド	12,000ボリビアーノス	360円
	とうもろこし	〃	5.500	165
	馬鈴薯	〃	1.000	30
食品・嗜好品	牛肉	1kg	2500	75
	卵	1コ	400	12
	バター	1ポンド	9.000	270
	小麦粉	〃	750	22
	塩	〃	2.500	75
	砂糖	〃	1.440	45
	食用油	1ℓ	5.000	150
衣料雑貨	作業衣		50.000	1.500
	タオル		5.000	150
	靴下		3.000	90
その他	日給	1日	8,000.	240

アルゼンチン　　　　1959.8月現在

1ドル＝85ペソ

	品名	単位	価格	邦貨換算(約)
食品	米	1kg	20ペソ	85円
	砂糖	〃	14.5	60
	肉	〃	40〜50	170〜210
	塩	〃	6	25
	パン	〃	8.10	35
	魚	〃	25	105
	ミカン	〃	7	30
	リンゴ	〃	7	30
	バナナ	1打	12	50

コロンビア　1959.8月現在

1ドル＝7.10ペソ

	品名	単位	価格	邦貨換算(約)
農産物	米	1kg	2.48ペソ センターボス	125円
	馬鈴薯	〃	0.68	35
食・嗜好品	卵	1ダース	12.26	620
	塩	1kg	0.35	18
	砂糖	〃	0.90	45
	牛肉	〃	5.14	260
衣料雑貨品	背広	着(中級)	150.00	7.600
	オーバー		280.00	14.200
	Yシャツ		30.00	1.520
	靴下		3.50	180
	石けん	1コ	1.30	65
	石油ランプ	〃	85.00	4.300
	ガソリン	1ガロン	0.96	50

ドミニカ　　1959.8月現在

1ドル = 1ペソ

	品名	単位	価格	邦貨換算(約)
農産物	米	1ポンド	15仙	54円
	甘蔗	〃	5仙	18
食品・嗜好品	牛肉	〃	70仙	252
	卵	1ダース	72仙	260
	バター	1ポンド	1ペソ	360
	小麦粉	〃	16仙	58
	塩	〃	8仙	29
	砂糖	〃	12仙	43
	食用油	〃	67仙	240
衣料雑貨	背広	着	30ペソ〜60ペソ	10,800〜21,600
	靴下		70仙〜2ペソ	250〜720
	石けん	1コ	20仙〜50仙	70〜180
	ガソリン	1ガロン	50仙	180
	石油ランプ	1コ	1.50ペソ〜3ペソ	540〜1,080
	鍋	〃	国産〜輸入 1〜20ペソ	360〜7,200
その他	労働者1日分労賃		2ペソ〜5ペソ	720〜1,800

§ アマゾン地域各植民地の衛生状況について

（本文は海協連アマゾン支部の依頼により神田錬蔵博士が1958年12月から1959年2月迄の間に3回にわたって行った調査の報告概要である．）

各植民地で日本人の医師による診療が要求されているが，これは言語の差異による意志の疎通が充分でないことと，日本と異った診療方法をとる事による医療に対する懐疑心とが作用して移住者が医師に対し不安感を抱いていることに起因している．その結果簡単に解決されるべきものが精神的不安によって病気の経過を永引かせ，あるいは言語による両者の疎通がうまくゆかないために誤解があって治療面においてその効果がが出てこない有様である．

しかしながら当国の医師法，薬事法の取り決めと，植民地には担当の医療設備および機関があって医療に関してはそれによらなければならない．言語風習を習得してその解決をすることは短時日の間では不可能である。結局日本人の医師によって法にふれない範囲で健康相談および対策の指示をする必要がある。したがって今回の調査にこれをかねて行ったが，事実これによってさらによく入植者の衛生状態を詳細に知ることが出来た．

入植者は入植後半年以内に大低，健康を害するものが多く発病して大体は治癒しその後発病者が減少しているが中には完全に治癒せず慢性の経過をとって一進一退のものが相当数あることは注意しなくてはならない．その後2～3年にふたたび発病者が増加する傾向をとっている．これは勿論入植した地域，時期，一般栄

養状態，水源，休養のとり方，その他の衛生的な条件及び営農状態，経済的条件等によつて種々の様相を呈している。

入植者の間に多く見られる疾患はマラリア症，アメーバ赤痢症，単純性下痢腸炎，白癬性皮膚疾患，慢性胃炎，胃拡張症，胃潰瘍，栄養失調症，ヴィタミン欠乏症，脚気症，昆虫刺咬性皮膚炎，角膜翼状贅片トラコーマ，結膜炎等である。その他の疾患は特に別に多いとは云えない，悪性熱性疾患たとえば黄熱，シヤーガス氏病等は日本人の間には例を見ない。なお，アマゾン流域にはマラリア，アメーバ赤痢以外にこれら悪性熱性伝染病はほとんどない。

現地人の間で時に天然痘の発生，ヂフテリー，チフス性疾患，百日咳，麻疹等が発生することがある。時に不明のヴィルス性疾患と思われる熱性疾患が散発的にある地方に発生するが，すべて予後は良好で一例も死亡者を見ず完全に治癒している。寄生虫病は腸内寄生虫病として蛔虫，十二指腸虫症等が圧倒的に多いが，他の吸虫症条虫症等はまだ出ていない。フイラリア症の内，バンクロスト症，マンソネラ・オザルディイ症が風土病として現地人の間に存在するが，現在までのところ入植者の間では発生した例は少い。マラリア，アメーバ赤痢症の慢性型合併病として肝肥大症肝炎，胆嚢炎，膈腔肝膿瘍等の併発途上にあると思われるものがある。しかしながら現在は往時に見られたような悪性マラリア，黒水病等の予後不良のものは全くない。之は進歩せる抗マラリア剤の出現と，過去に行われた殺虫剤の定期的な撒布によるものである。

内地から持つて来たと考えられる病患の内で，各入植地におい

て結核患者の相当進行したものが、それぞれ2～3例見受けられた。これらは総べて入植以前に発病した既往症のものであつてほとんどが悪化している。したがつて入植者で結核の病巣をもつたもの，あるいは既往症のあるものは，入植後の各種の条件が重つて再発ないし増悪の経過をたどる危険が多く入植には全く不適当である。虫歯の再発も相当にあり，日本出発以前に該既往症のあるものはそれぞれ適当の処置を講じる必要がある。トラコーマは入植者の間に少数ではあるが蔓延し増悪して行く傾向にあるがこれも入植以前からのものと思われる。以上これら疾患の経歴のあるものはその渡航に当つて充分な検査を望むものである。特に胸部疾患に対しては、レントゲン間接又は必要により直接撮影を施行したい。

入植地に赴いて，入植者の顔を見てまず気のつく事は、入植した日本人のほとんどが栄養不良ないし失調の傾向があることで，これは日本における食生活をそのまま維持していることに原因している。日本におけると同じカロリーを摂取しても当地においてはエネルギー，蛋白，ヴィタミンの不足を来たすし、高カロリー食ならびに日本において摂取していたよりも高蛋白食を必要とする。したがつて日本式調理法及び日本食だけ，はなはなしきは米食と野菜の漬物，みそ汁だけというに至つては栄養不良ないし失調はまぬがれない。一方エネルギー不足を低カロリー食を大量に食べることで補う事になつて，胃疾患特に胃拡張症・慢性胃カタル症，さらに胃アトニー，胃酸過多症，胃潰瘍の発生を誘発し，現にこれらの疾患に相当数の入植者が悩んでいる。炭水化物を多

量に摂取するため．体内燃焼に際して多量のヴィタミン類を必要とし、さらに熱帯における開拓という重労働には体内蓄積の乳酸の処理にヴィタミンB$_1$が使用されて，その欠乏状態になるため日頃の食餌法と過労とが重って脚気やヴィタミン欠乏症に罹りさらに体力が消耗して他の内臓疾患を誘発したり、又伝染性疾患に罹り易くなっている．

この対策として栄養素ヴィタミン類等の補給のため．偏食にならない　しかも高カロリーを有する食餌を摂取する目的で．野菜を作ったり，自家供給用としての家畜の飼育や、協同屠殺による肉類の常時補給を計り又日本式調理法以外のブラジル式あるいは西洋式調理法の習得普及によつてこの問題を解決する必要がある．日本人の体格及び体力の貧弱な事は、その栄養面に大きな原因がある．

皮膚の清潔という点では入植者は誰でも一応念頭においているが．衣類が汚れやすいことと．熱帯地は「カビ」による疾患が非常に多いために白癬性疾患が多い．日本人の衣類の洗濯は非常にあっさりしておりその上に洗濯物にアイロンかけを怠る結果，衣類にしみた皮脂に「カビ」類がつきそれがアイロン等による高熱で殺菌されることなくそのまま皮膚につき．労働による汗脂．及び土壌その他のものによつて汚染されて「カビ」類の発生を促進する。

その予防としては、衣類を石鹸水に浸し．その中に消毒薬たとえばクレオリーナ．リゾホルムといつたものを滴下しよく混ぜ．1/2時間位置くのもよく、又さらにアイロンをかけるとなお良い。

入植当初，山焼等の際に結膜炎になつたり昆虫に刺されて化膿したりするのは皮膚，手指の清潔を欠くためである。入浴は皮膚を鍛錬する意味で冷水の方が好ましい。日本式に他人の入った後にそのまま入ることは不潔である。

住居に入植直後から多額の費用をかけて、理想的な設備をととのえる必要はない。又それだけの余裕があれば営農方面に向けるべきであつて，たとえそれが自家労力であるにしても日本式の住居に手間を入れるのは甚だ不経済であり，むしろ衛生的、しかも経済的，実用的な家を建てる方がよい。住居には必らず壁を付け風雨，夜風の吹きさらしにしない考慮が必要である。材料では，やしの葉で葺いたものは，せいぜい2年までで，害虫の巣窟となり衛生上不適当である。木片で葺いたものも多年を経過すると，あぶらむし，さそり，むかで，蜘蛛類，さしがめ類が棲み不適当である。従って初めはこういう物で3乃至4年を過し，経済的な余裕を作って出来得る丈早く瓦葺或はジエラルミン式のものとし，夜間等寝ていて屋根裏から落ちた毒虫，その他の害虫から刺されることのない様に，経済の許すかぎり天井を張ることが望ましい。日本人の習慣として床の上に寝床を敷くが，害虫が床に侵入したり塵埃がたったりして不潔であり、床下の乾燥しない点からも非衛生的である。昆虫、ネズミ類の侵入を防ぐために隙間とか穴を完全にふさぎ、出来れば窓に網を張る事、最少限食堂及び炊事場は網を張って蚊や，ハエ，あぶらむし、ネズミの侵入を防ぐための方策を講じなければならない。

食品，食器類は衛生的方面からも，又害虫から遠ざけたり，乾

燥と通風をよくして腐敗を防ぐためにもその棚を整備する必要がある。又隙間から、あぶらむしが侵入し易い。蜘蛛，その他の衛生害虫の侵入を防ぐために、出来れば壁や扉，天井等に，残留効果のある殺虫剤，例えばＤＤＴやデルトリン等を撒布するとよい。最近は全体にその撒布が政治的な原因から行われなくなつてきた，年２回の定期的撒布によつて、マラリアの予防に大いに効果があることは戦時中から１９５３年～１９５４年頃まで行われて来た結果から見て明らかである．これを期待出来なければ各個人で殺虫剤の塗布を行うか，経済的に許せばペンキを塗る時その中に殺虫剤を混ぜれば、さらに残留効果は長期にわたり，日本であれば３年間は確実である．当地では少くとも１年は効果がある。

住居の建設に当つて、湿度の高い熱帯地では直射日光の入らぬ様，特に西日の入らぬ様，乾燥しやすい，風通しの良い涼しい家を作ると良い。それには，床と天井を出来るだけ高くし、休息すべき所は階上にし，まわりには廊下を設ける等の方法が良い．気持よく休息でき，次の労働に対して備えることの出来るようにすることは健康維持，増進のために大切である．

植民地の便所で，衛生的であると云つて良いものは一つも無いと云える．便所は出来るだけ住居から距つた所に置き，しかも衛生害虫，動物の出入り出来ない様、とくに肥溜を完全に密閉できる様に造るべきで、浅いものは不可で少くとも２米以上深く掘り下げ，ハエの幼虫，蛆が這い上らぬ様に肥溜の壁と，便所の囲を張りめぐらすと良い．材料は、許せば漆喰，セメント等が良い．

上水源について低地では井戸を掘ることは一寸できない。之

は堆積物が有機質のところが多く、アンモニアの混合などあつて不適当である。自然河水によることになるが必ず流水を取りこれを濾過したものを飲料用とすべきである。自然水はアメーバ赤痢，寄生虫病，下痢腸炎の原因となり易い。現に自然水を飲用しているところに，アメーバ赤痢患者及びその原虫の健康保持者，慢性患者等が多い。井戸は汚れの入らない様、溝，便所から出来るだけ遠ざけ，少なくとも10米以下の地下水を使用する様に（その壁を完全にしなければならない）する必要がある。

疾病予防の内伝染病に対して，それぞれ発生の時期あるいはそのおそれのある時，予防接種の可能なものは出来得るだけ早く行うことが大切である。天然痘および黄熱病の予防接種は現在常時出来るようになつているのでその時期になつたら，それぞれ接種すべきである。天然痘は生後6ケ月に行うのがよく黄熱病は3年間の有効期間がある。伝染性疾患の発生に際して早期診断と，早期治療の出来るように，一応の応急処置後，医療機関に連絡してその指示を受けることと，その交通機関を植民地内におき治療の時期を失しない様心がけなければならない。

入植者に対する衛生知識の普及と，実践のために入植前，特に移民志願期及び航海中に必要な衛生の講習を充分に行う必要がある。

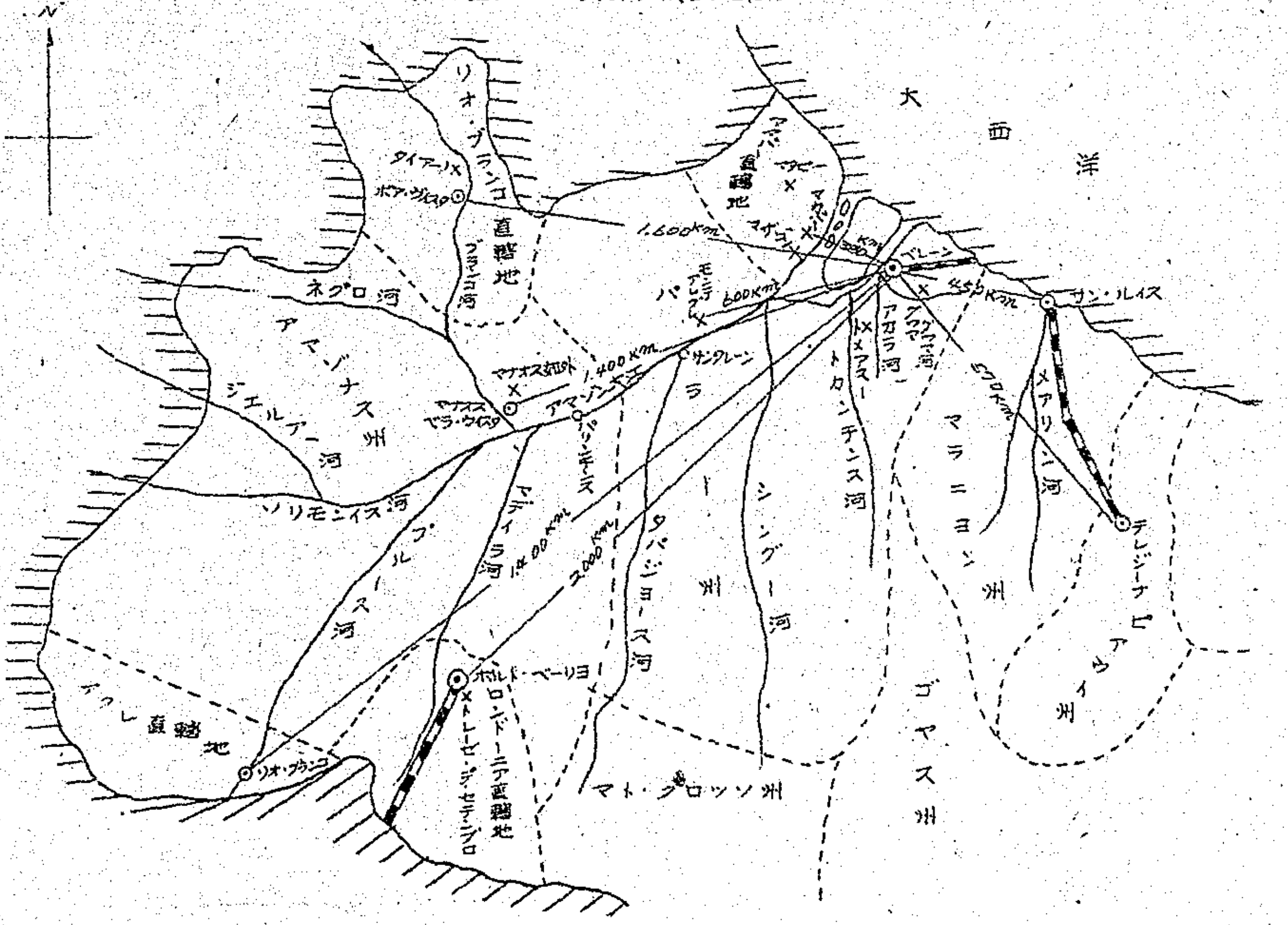
各植民地を視察して，一般に多少経済的な条件や土地等の条件が悪くても建設的な開拓意欲に燃え計画性をもつて営農を行つているところは生活も明かるく，疾病の発生率も低い。これは、原始林の伐採と、その後に植えたものに対する手入がゆきとどいて

耕地の排水もよく自然蚊の発生も少ないからである。マラリアの発生も入植時よりはずっと低くなつて来ており、栄養に対しても自然動物の捕獲ばかりでなく計画的な家畜の飼育や自給態勢が出来て普通なみに摂取出来、土地に愛着をもつ事により精神的な安定と心のゆとりが出来て健全な生活を営むということになる。これはベラ・ヴエスタ、ベレーン近郊のある地区、モンテ・アレグレのある地区において感じた。

これに対して、入植後4〜5年になるが住居は入植当初と変りなく、経済的なゆとりの無い事と営農状態の芳ばしくないために土地に対して半浮遊的な態度で不安な精神生活を送り、栄養に対しても殆んど考慮しないために病人があとを絶えない地区もある。マラリア症、アメーバ赤痢等が慢性的に発生し、あるいは原虫の健康保持者が絶えないのはこのような地区に多い。これは発病時に完全に治癒して原虫が消滅するまでに治療しないために再発者が多いことによる。マラリア症、アメーバ赤痢症の予防は個人のみの努力によつては成し遂げられるものではない。入植地区全体が協力して営農をよくし、草むら、水たまりの発生を防ぎ、必要な殺虫剤の使用と的確な医薬の使用によつて原虫保持者の撲滅に努力しなくてはならない。

§ アマゾン地域邦人入植地分布図

（海協連アマゾン支部の報告による）



§ 入植地別家族人員・土地一覧表

（海協連アマゾン支部の報告による）

（その１）　　1958年12月31日現在

所在州名		リオ・ブランコ	ロンドーニア	アマゾナス		パラー		
植民地名		タイアーノ	トレーゼ・デ・セテンブロ	ベラ・ヴイスタ	マナオス郊外	モンテ・アレグレ		
地区別						ドイス・ボーリョス	アサイザール	計
経営主体		直轄地	直轄地	INIC	州	INIC		
人員・邦人	家族数	13	24	32	17	29	35	64
人員・邦人	人員	76	145	169	118	185	207	392
人員・邦人	稼働人員	37	70	96	59	107	121	228
人員・邦人	非稼働人員	39	75	73	59	78	86	164
人員・伯人	家族数	37	24	85	—	—	—	約1,000
土地	植民地総面積	2,000	1,750	15,000	不明	—	—	360,000
土地・邦人	所有面積	340	720	750	425	1,290	2,760	4,050
土地・邦人	開墾面積	230	429	346	51	359	761	1,120
土地・邦人	利用中の面積	72	242	280	51	326	532	858
土地・邦人	1958年伐採面積	18	45	45	51	120	110	230
土地・邦人	1戸当り所有面積	30	30	30	25	44.5	42	
摘要								

（その２）

所在州名		パラー			アマパー			合計	備考
植民地名		グワマ			マタピー	マザゴン	ファゼンジーニャ		
地区別		カラパルー	ペルナンブーコ	計					
経営主体		INIC			直轄地	直轄地	直轄地		
人員・邦人	家族数	54	55	109	27	7	9	302	
人員・邦人	人員	304	295	699	141	41	35	1.716	
人員・邦人	稼働人員	187	184	371	91	25	22	999	
人員・邦人	非稼働人員	117	111	228	50	16	13	717	
人員・伯人	家族数	—	—	79	41	4	—	1,270	
土地	植民地総面積	9,830	23,680	33,510	4,875	474	不明	417,609	単位・町歩
土地・邦人	所有面積	1,120	1,080	2,200	1,170	217	50	9,922	〃
土地・邦人	開墾面積	257	145	402	794	28	27	3,427	〃
土地・邦人	利用中の面積	140	112	252	590	21	27	2,593	〃
土地・邦人	1958年伐採面積	73	134	207	52	33	0	681	〃
土地・邦人	1戸当り所有面積	20	20		30	30	10		〃
摘要									

§ 各地農産物販売価格一覧表 〔単位：クルゼイロ〕 1クルゼイロ≒3.00円

（海協連アマゾン支部の報告による）

1958年12月31日調

生産物名	単位	タイアーノ	トレーゼ・デ・セテンブロ	ベラ・ヴィスタ	モンテ・アレグレ	グワマ	マタピー	マザゴン
精米	Kg	13.30	20.00	20.00	13.50	20.00	13.00	20.00
ファリーニヤ	〃	11.00	11.00	10.00		7.00	10.00	10.00
豆	〃	40.00	20.00	20.00	17.00	20.00	34.00	34.00
マカセーラ	〃	3.00	1.30	6.00		2.00	5.00	5.00
さつま芋	〃	4.00	5.00	10.00			5.00	5.00
豚脂	〃	62.00			55.00			
バナナ	房	30.00		40.00		65.00		
とうもろこし	Kg	4.80			4.00	6.00	7.00	7.00
鶏	羽	110.00	120.00		70.00	80.00	150.00	150.00
卵	個	3.00	3.00		2.50	5.00	5.00	5.00
キャベツ	Kg		50.00	30.00	30.00	30.00	20.00	20.00
キウリ	〃		5.00	15.00		15.00	6.00	6.00
アルファセ	房		5.00	15.00	3.00	4.00	2.00	
胡椒	Kg			65.00	70.00	34.00	120.00	120.00
カフエー	〃			40.00			53.00	53.00
カカオ	〃			52.00		50.00	35.00	
アバカシー	個		7.00	15.00		8.00	12.00	
グワラナー	Kg			70.00				
煙草葉	〃						80.00	80.00

消費物資小売価格一覧表

（単位：クルゼイロ）1クルゼイロス≒3.00円

（海協連アマゾン支部の報告による）　　1958年12月31日調

（その1）

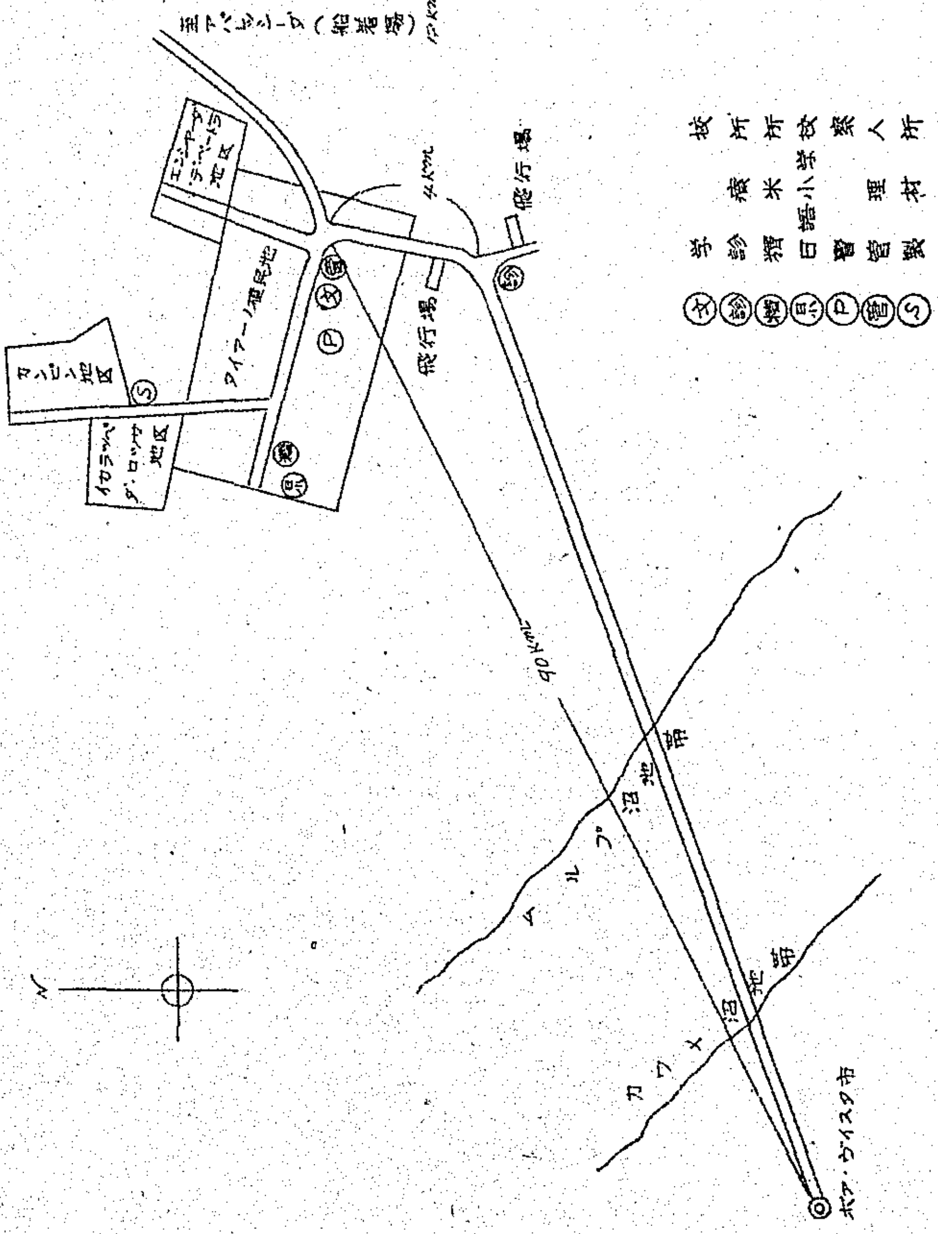
商品名 ＼ 植民地名	単位	タイアーノ	トレーゼ・デ・セテンブロ	ベラヴイスタ マナオス郊外	モンテ・アレグレ	グワマ	マタピー・マザゴン・ファゼンデニヤ
最寄都市市場		ボア・ヴイスタ	ポルトヴェーリヨ	マナオス	モンテ・アレグレ	ベレーン	マカパー
糯米	Kg	18.00	25.00	28.00	16.00	25.00	25.00
ファリーニャ	〃	18.00	25.00	15.00	15.00	12.00	15.00
豆（上）	〃	40.00	30.00	30.00	24.00	30.00	40.00
〃（並）	〃	20.00	25.00	25.00		20.00	25.00
マンジヨカ	〃						
マカセーラ	〃	5.00	2.00	10.00		7.00	8.00
馬鈴薯	〃		60.00	50.00	60.00	50.00	80.00
たまねぎ	〃		100.00	60.00	100.00	70.00	80.00
キャベツ	〃		50.00	40.00	40.00	35.00	35.00
キウリ	〃		15.00	20.00		35.00	40.00
アルファセ	房		5.00	5.00	5.00	3.00	6.00
砂糖（上）	Kg		35.00	24.00	25.00	24.00	24.00
〃（並）	〃	30.00	25.00	20.00	20.00	20.00	20.00
塩	〃	10.00	15.00	10.00	8.00	6.00	7.00
胡椒	〃	250.00	200.00	120.00	100.00		
食用油（上）	ℓ		350.00	300.00		250.00	250.00
〃（並）	〃	160.00	90.00	70.00	80.00	65.00	80.00
バター（上）	Kg		300.00	250.00	250.00	220.00	250.00
〃（並）	〃		230.00	200.00	180.00	110.00	180.00
煙草（並）	個	12.00	12.00	10.00	10.00	8.00	10.00
ビール	本	80.00	50.00	50.00	50.00	45.00	50.00

（その2）

商品名 ＼ 植民地名 / 最寄都市市場	単位	タイアーノ	トレーゼ・デ・セテンブロ	ベラ・ヴィスタ マナオス郊外	モンテ・アレグレ	グワマ	マタピー マザゴン ファゼンジニヤ
		ボア・ヴィスタ	ポルトヴェーリヨ	マナオス	モンテアレグレ	ベレーン	マカパー
グワラナー コカ・コーラ	本	20.00	14.00	10.00	14.00	8.00	11.00
マカロン	Kg	45.00	40.00		45.00	35.00	40.00
さつま芋	〃	7.00	8.00	15.00		8.00	8.00
カフエー	〃		120.00	70.00	120.00	66.00	68.00
小麦粉	〃		40.00	30.00	30.00	25.00	30.00
エンシヤーダ	丁		200.00	180.00	180.00	150.00	200.00
テルサード	〃		200.00	200.00	240.00	160.00	200.00
プランタ・マキナ	個		700.00	420.00	480.00	390.00	450.00
バナナ	房	80.00	25.00	120.00		160.00	170.00
石油	20立缶	380.00	300.00	270.00		200.00	240.00
ガソリン	ℓ		15.00	13.00		9.08	12.00
散髪		30.00	25.00	30.00	30.00	30.00	30.00
靴修理	半張		200.00	200.00	150.00	200.00	210.00
硫安	50Kg		768.00	700.00	760.00	560.00	700.00
油粕	50Kg		475.00				
燐酸	30Kg		675.00	400.00		310.00	420.00
鶏	羽	140.00	150.00	180.00	160.00	150.00	140.00
卵	個	6.00	6.00	6.00	4.00	7.00	6.00
塩肉	Kg		90.00	60.00	55.00	60.00	70.00
ピラルク	〃		85.00	45.00	45.00	60.00	60.00
牛肉（並）	〃	25.00	40.00	45.00	45.00	60.00	70.00

1. タイアーノ植民地略図

タイアーノ植民地概況（海協連アマゾン支部の報告による）



2. 所 在 地

リオ・ブランコ直轄地首都ボア・ヴイスタ市の北々東約96粁。

3. 経営主体

リオ・ブランコ直轄地政府

(備考) 本植民地はボア・ヴイスタ郡タイアーノ地方に所在するため、俗にタイアーノ植民地と称しているが正式にはコロネル・モツタ農業植民地と称する。

4. 面積・入植者数(別表一一覧表一参照)

5. 教 育

入植地内小学校一校があり、2人のブラジル人教師によって教えられている。生徒数は120名でそのうち17名が邦人である。

その他、日本人小学校(日曜学校)あり、面積6米×4米のヤシ葺木造で、邦人児童の日本語教育に主眼をおく。授業は毎日曜日、教師は日本人男子1名

6. 衛生状態

(1) 診療所 植民地より約4粁離れたバラタ部落に政府直営の診療所1棟あり。本年度植民地内に1ケ所新設される予定。

(2) 医 師 医師は不在。看護夫1名駐在するも、現在のところ不在勝ちなり。

(3) 診 療 毎月1回ボア・ヴイスタ市から医師が来診することになっているが、なかなか出張せず日

とんど診療がないものとみてよい。

(4) 治療費　薬品，治療費すべて無料。

(5) 薬品状態　薬品は常に不足勝ちで，入植者は売薬を購入常備している。

(6) 一般衛生状態　一般に良好である。

7, 道路交通

(1) 町までの距離　ボア・ヴィスタ市まで陸路90粁，水路約150粁，

(2) 道　路　道路は非常に悪く，まだ修理したことがない。途中2ヶ所に川があるが橋梁ないため，5月から9月までの4ヶ月間は交通中絶となる。この間は，水路を利用するが定期便がないので，時々通過する民間船を利用する。乗船地点まで陸路12粁あり，至極不便である。

(3) 交通機関　乾燥期の間は政府の自動車がある。他に個人所有の自動車が数台ある。

(4) 運行回数　政府トラックは不定期に毎月2，3回，個人所有トラックは週2．3回来植する。船は不定期に月1，2回程ある。

(5) 運　賃　政府トラックは乗車賃，生産物運搬共に無料。個人車は1袋に対し60クルゼイロ，乗車賃200クルゼイロ

(6) その他　小型飛行機があり，貸切り往復4,000クルゼイロ以上を要し，利用者は少い。

8．組合活動

タイアーノ農業協同組合があり，邦人27名（満18才以上の男女）の組合員を有する。

組合結成後まだ日が浅く，また入植者が少数のために充分な活動は行われず，現在海協連貸与の精米機による精米事業・教育・衛生・文化・その他入植者に必要な事項の連絡を行っている。

その他，青年会・婦人会があるが，有名無実の状態である。

9. 営農収支概算

営 農 収 支 概 算

タイアーノ　13家族の平均

収入		支出	
1.農業粗収入	クルゼイロ 87,765 (263,295) 円	1.生活費	クルゼイロ 42,395 (127,185) 円
① 永年作収入	5,270 (15,810)	食費	25,235 (75,705)
バナナ	4,540 (13,620)	衣料費	3,690 (11,070)
アバカシ	350 (1,050)	住居費	9,230 (27,690)
果物	380 (1,140)	衛生費	1,740 (5,220)
② 短期作収入	81,555 (244,665)	教育費	660 (1,980)
籾	13,530 (40,590)	娯楽交際費	230 (690)
トウモロコシ	9,050 (27,150)	雑費	1,610 (4,830)
豆	195 (585)	2.営農費	35,965 (107,895)
落花生	220 (660)	労賃	4,120 (12,360)
ゴマ	210 (630)	運搬賃	8,180 (24,540)
フアリーニヤ	7,810 (23,430)	肥料代	3,270 (9,810)
マカセーラ	540 (1,620)	種子種苗代	2,635 (7,905)
野菜	50,000 (150,000)	機械器具費	12,760 (38,280)
③ 家畜収入	940 (2,820)	付帯費	5,000 (15,000)
牛豚	590 (1,770)		
鶏卵	350 (1,050)		
2.雑収入	3,460 (10,380)		
合計	クルゼイロ 91,225 (273,675) 円	合計	クルゼイロ 78,360 (235,080) 円
差引残高	12,865 クルゼイロ (38,595 円)		

10，その他の問題点

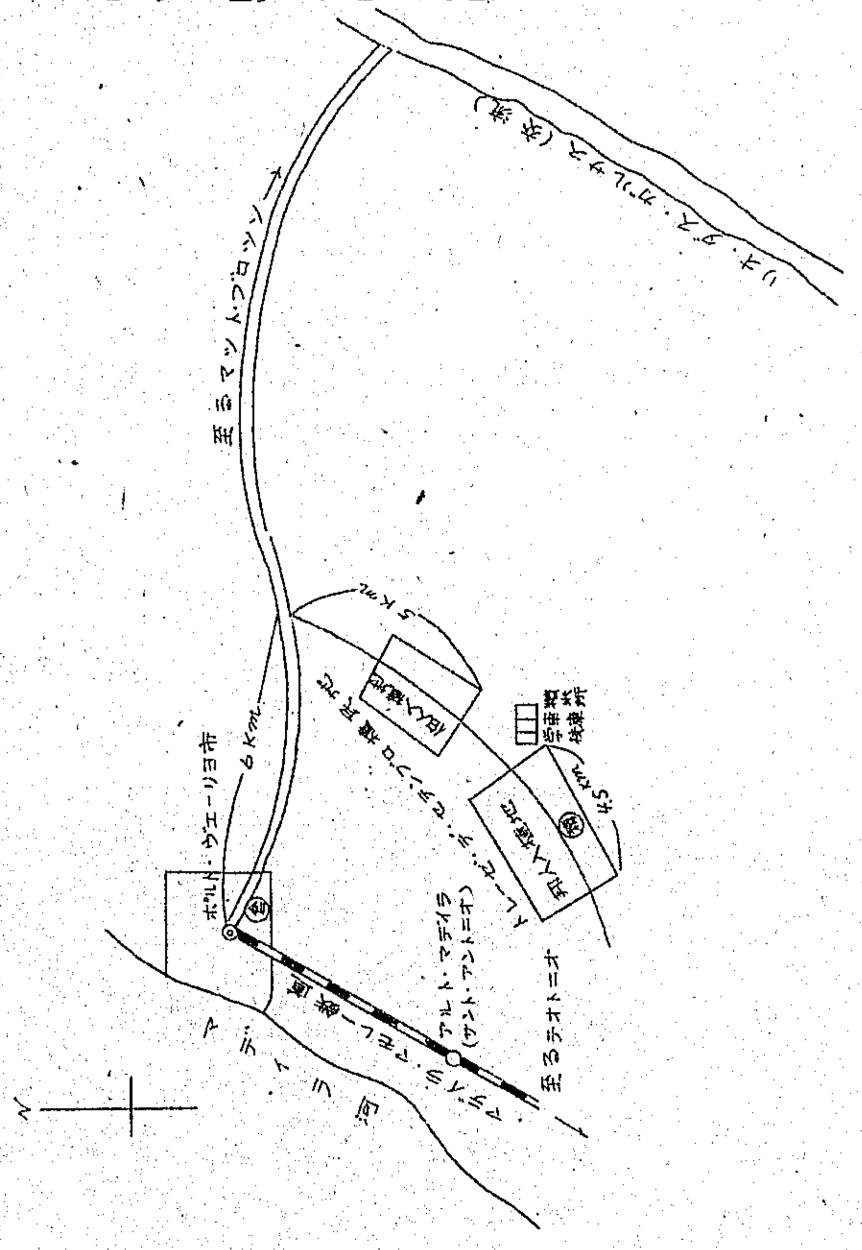
(1) 当植民地の問題の第一は，ボアヴィスタに通ずる道路にある。２ヶ所の架橋問題もあり，この解決には多大の費用を要するため，政治問題として解決するより他に方法がないと思われる。

(2) 入植者少数のため，組合活動，共同作業等に不便を感じており，第２次入植者を必要とする。

(3) 当植民地はテーラ・ロッシヤ地帯で，作物の成長も良く，従って多収穫をあげうる好条件に恵まれた植民地であるが，３年にわたる旱魃のため永年性作物は相当数枯死し，１年性作物も減収する状態で，予想通りの成績をあげていない。

§ トレーゼ・デ・セテンブロ植民地概況（海協連アマゾン支部の報告による）

1. トレーゼ・デ・セテンブロ植民地略図



2, 所 在 地

ロンドーニア直轄地ポルト・ヴェーリョ郡

首都ポルト・ヴェーリョ市の南方9粁の地点より始まる。

3、経営主体・面積・入植者数については別表（一覧表）参照

4、教　育

小学校1校があり伯人教師1名により授業が行われている。生徒は60名（内46名邦人）で2部教授が行われ、又間食の配給がある。近く教師が増員される予定。

5、衛　生

（1）診療所　植民地内にはないが，病気の場合はポルト・ヴェーリョ市の病院を利用している。設備完全。

（2）診　察　定期回診なし。

（3）治療費　有料と無料とがある。

（4）薬品状態　有料であるが次の薬品は無料給付される。破傷風，毒蛇の血清注射，マラリヤ薬一般，貧血用薬，駆虫剤，

（5）一般衛生状態　多少のマラリヤ病の発生はあるが，他に風土病，流行病はない。

6，道路・交通

（1）町までの距離　邦人耕地よりポルト・ヴェーリョ市まで11粁

（2）道　路　最奥耕地まで開通し，毎年1回修理を行うため，比較的良く管理されている。

（3）交通機関

イ，海協連貸与トラクター　　1台

ロ，直轄地政府トラック　　　　　1台

(4) 運行回数　　毎週定期的に水，土の2回

(5) 運　　賃　　乗車賃，荷物運賃共無料

7. 組合活動

組合員24名でロンドーニア産業開拓協同組合を組織しており購買部・販売部・利用部（海協連貸与のトラクター運営等）がある。

又この組合の他青年会・婦人会があり文化・親睦活動を行っている。

8．営業収支概算

営農収支概算

トレーゼ・デ・セテンブロ　２４家族の平均

収入		支出	
1.農業粗収入	114,140 クルゼイロ（342,420 円）	1.生活費	39.545 クルゼイロ（118.635 円）
① 永年作収入	25,510（76,530）	食費	26,435（79,305）
ピメンタ	55（165）	衣料費	3.300（9.900）
バナナ	12,460（37,380）	住居費	2.720（8.160）
アバカシ	12,620（37,860）	衛生費	2.820（8.460）
果物	360（1,080）	教育費	1,055（3,165）
ココ椰子	15（45）	文化費	780（2.340）
② 短期作収入	81,620（244,860）	娯楽交際費	480（1.440）
籾	43.720（131,160）	雑費	1.955（5.865）
野菜	18,920（56.760）	2.営農費	31.940（95.820）
マカセーラ	18,980（56.940）	労賃	14.635（43.905）
③ 家畜収入	7,010（21,030）	運搬賃	3,510（10,530）
牛・豚	380（1,140）	肥料費	2,000（6,000）
鶏卵	6,630（19,890）	種子種苗代	1,090（3,270）
2.雑収入	700（2,100）	機械器具費	9,915（29,745）
		農薬代	280（840）
		雑費	510（1,530）
合計	114,840 クルゼイロ（344,520 円）	合計	71,485 クルゼイロ（214,455 円）

差引残高　43,355 クルゼイロ（130,065 円）

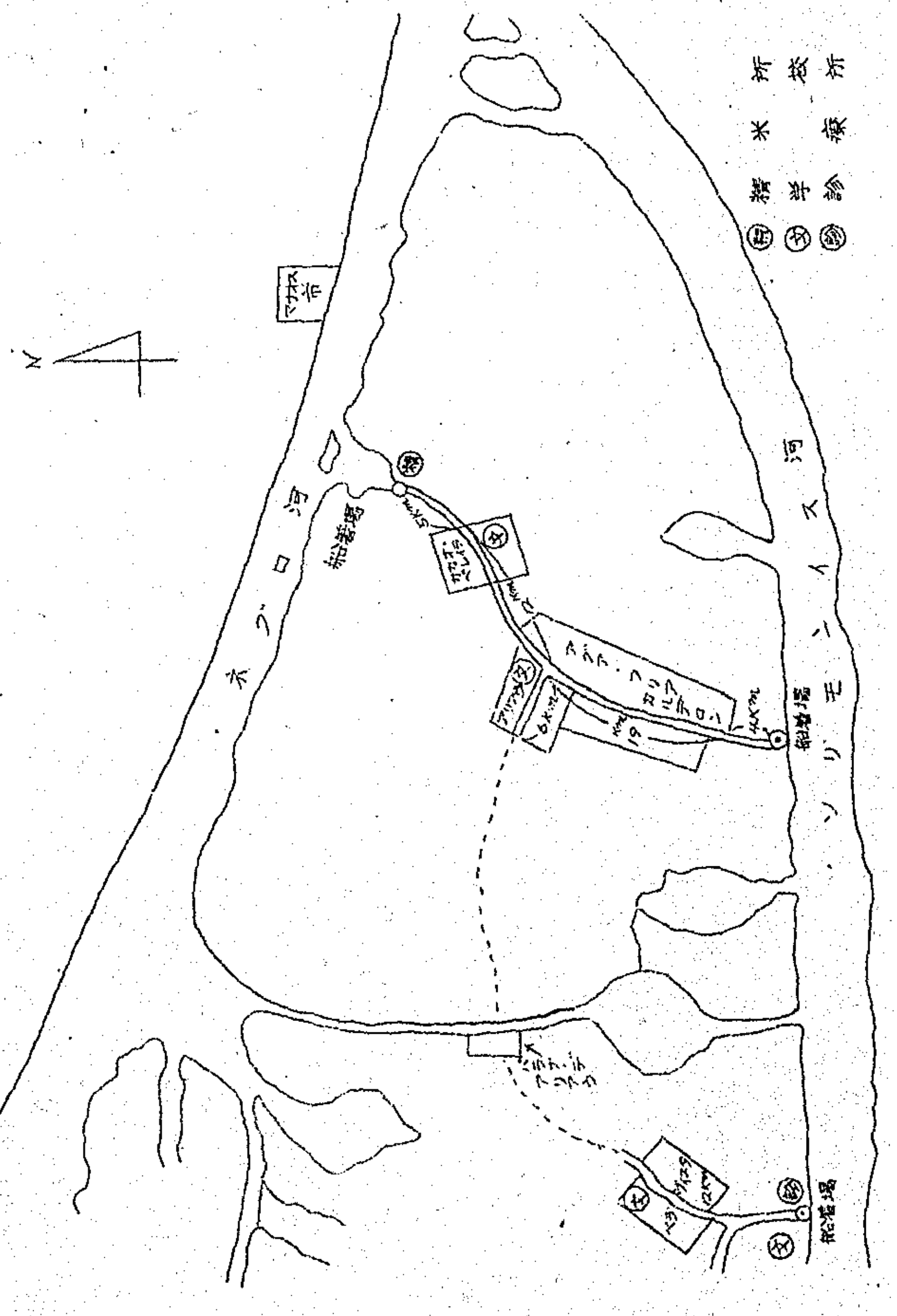
9. その他

(1) 昨年末現直轄地知事就任後，入植地の発展に努力しており，トラック1台，運搬用トラクター2台の本植民地配車を約束されている。

(2) 本植民地はゴム栽培中心の団体，多角的農法を採用する団体およびその両者いずれにも属しない団体と3グループに分れており，この産業組合がこの3グループの連絡機関となっている。

§　ベラ・ビスタ植民地概況　（海協連アマゾン支部の報告による）

1. ベラ・ヴィスタ植民地略図



2. 所 在 地

アマゾナス州首都マナオス市より約6粁離れた　　ネグロ河の対岸より始まり，マナカプルーおよびマナオスの2郡に亘る。

3. 経営主体・面積・入植者数は別表（一覧表）参照

4. 地 区 別

邦人入植者数

カルデロン地区	9家族	45名
アリアウ地区	10家族	54名
アグア・フリア地区	3家族	19名
カカオ・ペレイラ地区	6家族	35名
植民地近郊	4家族	16名
計	32家族	169名

5. 教　　育

アリアウ・アッス中央小学校とカカオ・ペレイラ小学校があり，前者は板瓦葺木造，後者は瓦葺本建築である。生徒は前者25名（内邦人14名），後者32名（内邦人21名）で，アリアウ・アッス小学校の教師は日系伯人である。

6. 衛　　生

(1) 診療所　2ケ所

(2) 医　師　医師不在，看護夫2名

(3) 診　察　なし・患者は全部マナオスに出て診察を受ける。

(4) 治療費　無　料

(5) 薬　品　必要な薬品が乏しい。有料

(6) 衛生状態　良好であり，風土病，流行病の発生は全然ない。

(7) その他

植民地内の衛生設備は不完全なため，患者は設備の完全なマナオス市に出て診察治療を受けている。入植者中５ヶ年間に死亡した者は６名で，内事故死３名，日本より持病の胃癌２名，風邪１名となっている。

7，道路交通

(1) 町までの距離

カカオ・ペレイラ港よりマナオス市まで水路約６粁，

カルデロンよりマナオス市まで水路約３０粁，

(2) 道　路

植民地内の道路は最悪の条件であり，坂道が多く，入植以来ほとんど修理したことがないので，雨期には時々交通が杜絶することがある。

(3) 交通機関

イ，海協運貸与トラック　１台

ロ，植民地トラック　１台

ハ，海協運貸与モートル船　１隻

ニ　植民地モーター船　４隻

ホ，個人所有船外モーター船　５隻

(4) 就航回数

イ，定期便　陸水路とも毎週金曜日１回

ロ，不定期便　　入植者の要求により，不定期に何回でも運転。

(5) 運　賃

イ．カカオ・ペレイラよりアグア・フリアまでの乗車賃　10クルゼイロ

ロ．カカオ・ペレイラよりカルデロンならびにアリアウ・アッスまでの乗車賃　15クルゼイロ

ハ，荷物60キロまで全区共　5クルゼイロ

ニ．傭　車

カカオ・ペレイラ区内	200クルゼイロ
アグア・フリアまで	400クルゼイロ
アリアウ・アッスまで	500クルゼイロ
カルデロンまで	700クルゼイロ

ホ．カカオ・ペレイラよりマナオス市まで（水路）　10クルゼイロ

ヘ，同区間荷物　10クルゼイロ

ト．傭　船（同区間）　150クルゼイロ

(6) その他

イ．陸路は上述の通り悪条件で，何時事故を起すかも知れない危険な状態にある。

ロ，水上交通は至って便利である。

ハ，ベラ・ヴイスタ地区に2家族在住するも交通方面に関してはアグア・フリア地区に準ずる。

8．組合活動

当植民地は幾度か組合が組織されたが成功しなかった。それは市場に近いため各入植者が直接販売し易く，また邦人仲買人が数人いて，組合の育成強化が阻まれたためである。

9．その他団体

（1） アグア・フリア自治会

経済活動を離れて入植者間の連絡ならびに海協連貸与のトラックおよび船舶の運営を行っている。

（2） 青 年 会

最近結成されたが，何等具体的活動をしていない。

10．営農収支概算

営農収支概算

ベラ・ビスタ　３２家族の平均

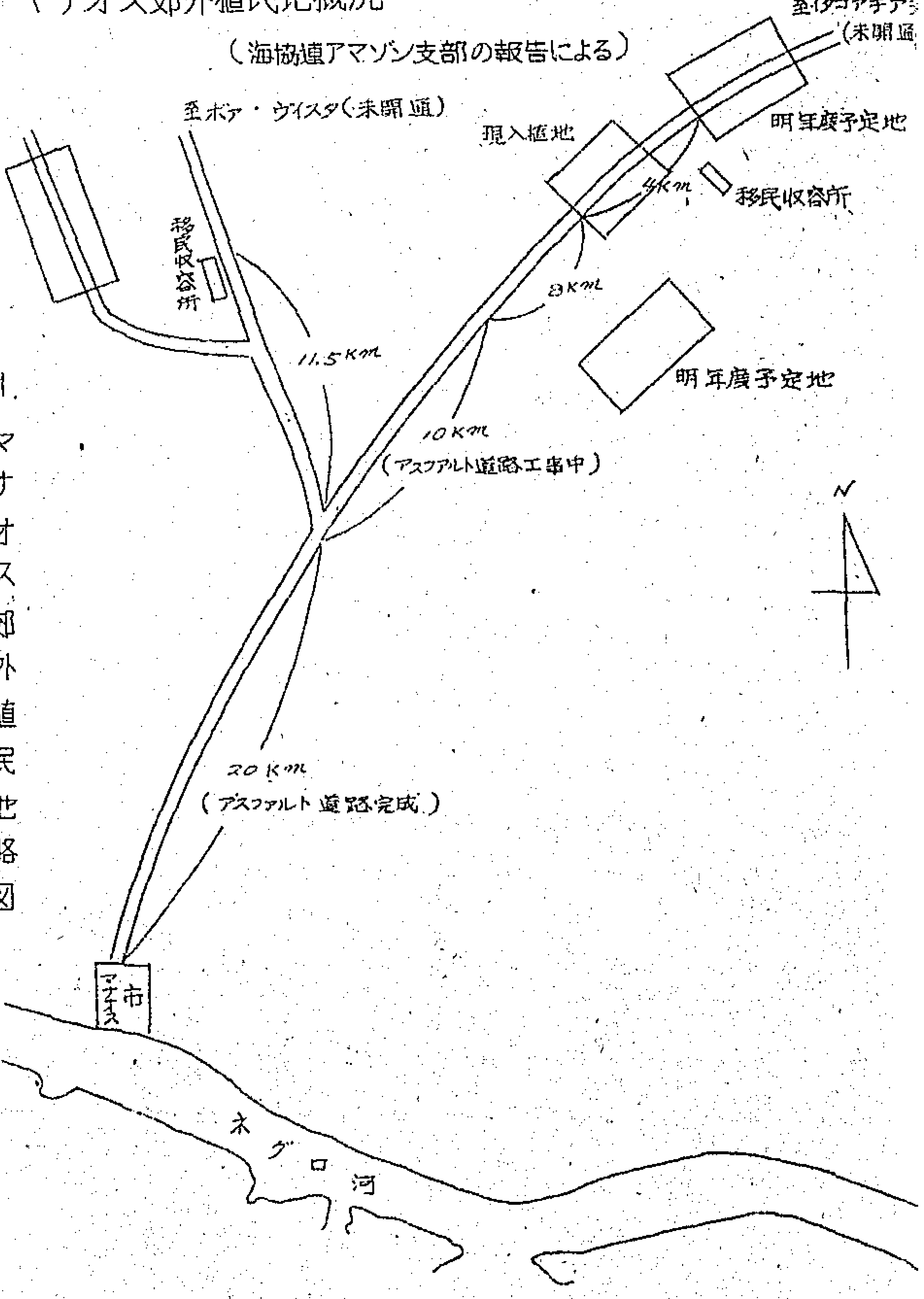
収	入	支	出
農業粗収入	100,445クルセイロ(301,335円)	1.生活費	54,105(162,315)
① 永年作収入	25,290(75,870)	食費	32,445(97,335)
コーヒー	675(2,025)	衣料費	4,780(14,340)
ピメンタ	2,530(7,590)	住居費	2,460(7,380)
バナナ	11,565(34,695)	衛生費	4,685(14,055)
アバカシ	8,440(25,320)	教育費	2,690(8,070)
果物	915(2,745)	文化費	930(2,790)
グワラナー	1,165(3,495)	娯楽交際費	4,145(12,435)
② 短期作収入	73,155(219,465)	雑費	1,970(5,910)
籾	5,985(17,955)	2.営農費	40,365(121,095)
甘蔗	2,030(6,090)	労賃	13,085(39,255)
ファリーニヤ	23,300(69,900)	運搬賃	3,285(9,855)
マカセーラ	395(1,185)	肥料代	3,375(10,125)
野菜	41,445(124,335)	種畜代	1,195(3,585)
③ 家畜収入	2,000(6,000)	機械器具費	17,455(52,365)
牛豚	675(2,025)	農薬代	1,285(3,855)
鶏卵	1,325(3,975)	付帯費	685(2,055)
2.雑収入	920(2,760)		
合計	101,365クルセイロ(304,095円)	合計	94,470クルセイロ(283,410円)
差引残高	6,895クルセイロ(20,685円)		

11. その他

当植民地は入植当時より種々問題があり，脱耕者も多数出したが，現在残っている移住者は永年性作物の収穫もあり，マンジョカ栽培を中心とした落着きのある営農をしている。

§ マナオス郊外植民地概況

（海協連アマゾン支部の報告による）



1. マナオス郊外植民地略図

2. 所　在　地

アマゾナス州マナオス郡

マナオス市の北々東38粁より42粁に亘る地点

3. 経営主体・面積・入植者数については別表（一覧表）参照

4. 営農状況

昨年11月に入植したばかりで，しかも入植時期を失したので見るべきものはない。

初年度は1戸当り3町歩宛山伐りを行ったが，山焼きを失敗した耕地もあり，各戸共相当苦労している。

永年性作物の植付を真剣に考えているが、種苗の入手が思うに任せず難儀しているが，一部の者は野菜栽培に力を入れ，その成績は良好で，近く市販のできる段階にある。

5. 教　育

近く植民地内に小学校が建設される予定である。

6. 衛　生

(1) 診療所　近く設置の予定

(2) 医　者　月1回マナオス市より来診，看護夫なし

(3) 治療費　無　料

(4) 薬　品　常備なし

(5) その他

入植早々は，長途の旅に疲れた身体に気候の変化を受けたため，下痢およびマラリヤ症状の病気に悩まされたが，現在は全員元気で営農に励んでいる。

なお，重患その他手術を要する患者はマナオス市の病院に入院させ，無料で治療をしてくれる。

現在までの死亡者2名，内難産による者1名，狭心症1名。

7, 道路・交通

(1) 町までの距離　植民地入口よりマナオス市まで陸路38粁

(2) 道　路　　マナオス・イタコアチアラ本道に沿う植民地で道路は新設のものであり，舗装も殆んど植民地の付近まで完成しており，年内には移民収容所まで舗装されるので交通状態は非常によい。

(3) 交通機関　　海協運貸与のトラック（58年型フォード6屯車）が配属されており定期運行を行っている。

8. 組合活動

近く結成の見込み

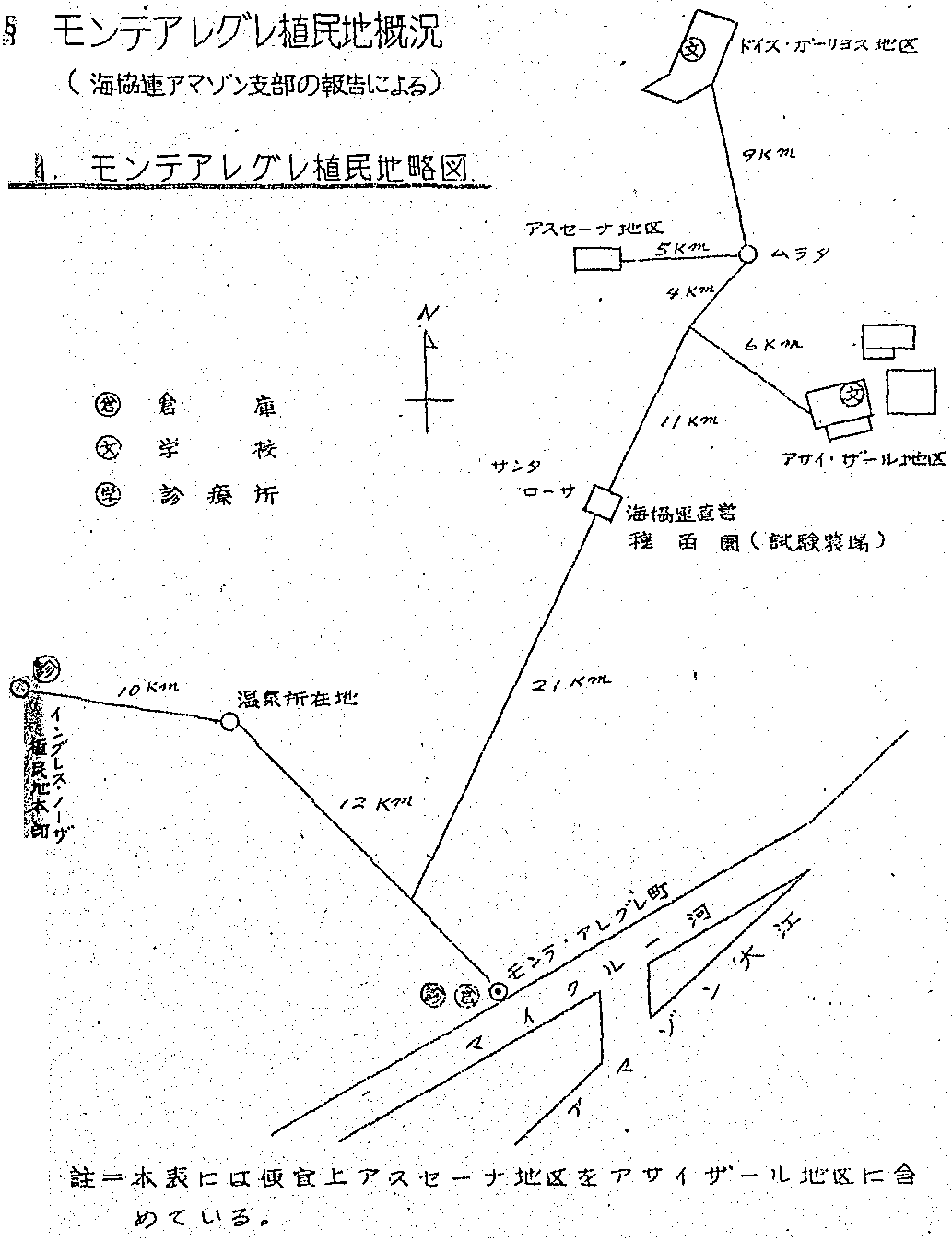
9. その他

植民地自体創設早々であるので，施設不充分なことは致し方なく，また入植者も昨年11月に入植したばかりで，大半が収容所に起居して自己のロッテに働きにいくような有様であるので，これと云った仕事ぶりもないが今年8月に第2陣入植者が到着することにもなっており，追々設備も整備されることが期待され，また市場に近く，輸送路が完備していることは，生産物さえ出来ればいくらでも販売できるという土地条件に恵まれていることであり，将来の見透しは非常に明るい。

§ モンテアレグレ植民地概況

（海協連アマゾン支部の報告による）

1. モンテアレグレ植民地略図



註＝本表には便宜上アスセーナ地区をアサイザール地区に含めている。

2. 所 在 地

パラー州モンテ・アレグレ郡モンテアレグレ町より

(1) アサイザール地区入口まで　　38粁

(2) ドイス・ガーリヨス地区入口まで　　45粁

(3) アスセーナ地区入口まで　　41粁

3. 経営主体・面積・総入植者数については別表(一覧表)参照のこと。

4. 地区別

邦人入植者数

アサイザール地区	35家族	207名
ドイス・ガーリヨス地区	29家族	185名

5. 教育

アサイザール小学校・ドイス・ガーリヨス小学校の2校があり，各伯人女教師1名が授業を行っている。生徒数は前者42名，後者41名ですべて日本人である。校舎はいずれも木造である。アスセーナ地区では3名の児童がムラタ小学校に通学している。

教師は小学校卒業程度で学力なく，また独身のために気软に休業して授業が充分行われない。

6. 衛生

(1) 病院・診療所

植民地事務所に診療所が1箇所あり，医師1名および看護夫3名が駐在しているが，邦人入植地から遠いためほとんど利用出来ない。大部分はモンテ・アレグレ町に出て，SESP診療所を利用している。重患はサンタレーン市のSESP病院に入院する。

(2) 診　察　なし

(3) 治療費　無料

(4) 薬　品　町の薬屋で購入する。

(5) 衛生状態　良好

(6) その他

急患に対しては，植民地本部に連絡して医師を派遣して貰うこともある。快方に向わない患者は，モンテ・アレグレ町にある組合倉庫2階を病室として引き移り，医師の指示により加療する。

7. 道路交通

(1) 道　路

州道も入植地内道路も，改修されないため悪い。

ドイス・ガーリヨス地区では邦人入植者によりフモト橋を新設した。

アサイザール植民地内に2箇所，またモンテ・アレグレ町よりドイス・ガーリヨスに行く38粁の地点に1箇所それぞれ急坂があるが，州政府も植民地側も全然改修を行っていない。

(2) 交通機関

当支部貸与のトラックが，アサイザール地区へは毎週水曜日，ドイス・ガーリヨス地区へは金曜日にそれぞれ定期的に通じ，またアサイザール地区へは伯人所有トラックが毎週金曜日配車されている。

但し出荷最盛期中はアサイザール地区へ毎週月・火・水の

3日、またドイス・ガーリョス地区へは木・金・土の3日運行している。

(3) 運　賃

アサイザール地区＝モンテ町間

/人または/俵　　30クルゼイロ

傭車(70俵)　　3,000クルゼイロ

ドイス・ガーリョス地区＝モンテ町間

/人または/俵　　30クルゼイロ

傭車(60俵)　　2,000クルゼイロ

8、組合活動

入植者は、モンテ・アレグレ産業組合を組織している。組合員は58名で購買部・販売部・信用部・利用部の4つの部門から成り、また組合の倉庫をモンテ・アレグレ町に持っている。

本組合はアマゾン地域邦人入植者の組合として最も強力なものである。

9、その他団体

(1) ドイス・ガーリョス地区青年会

各種催物、機関紙「モンテ・アレグレ」の発行(月/回)、公民館の運営，病人発生による人手不足家族に対する勤労奉仕等を行っている。

(2) アサイザール地区青年会 ＝ 各種催物

(3) 婦人会 ＝ 時々料理講習会を行う。

10、営農収支概算

営農収支概算

モンテ・アレグレ　64家族の平均

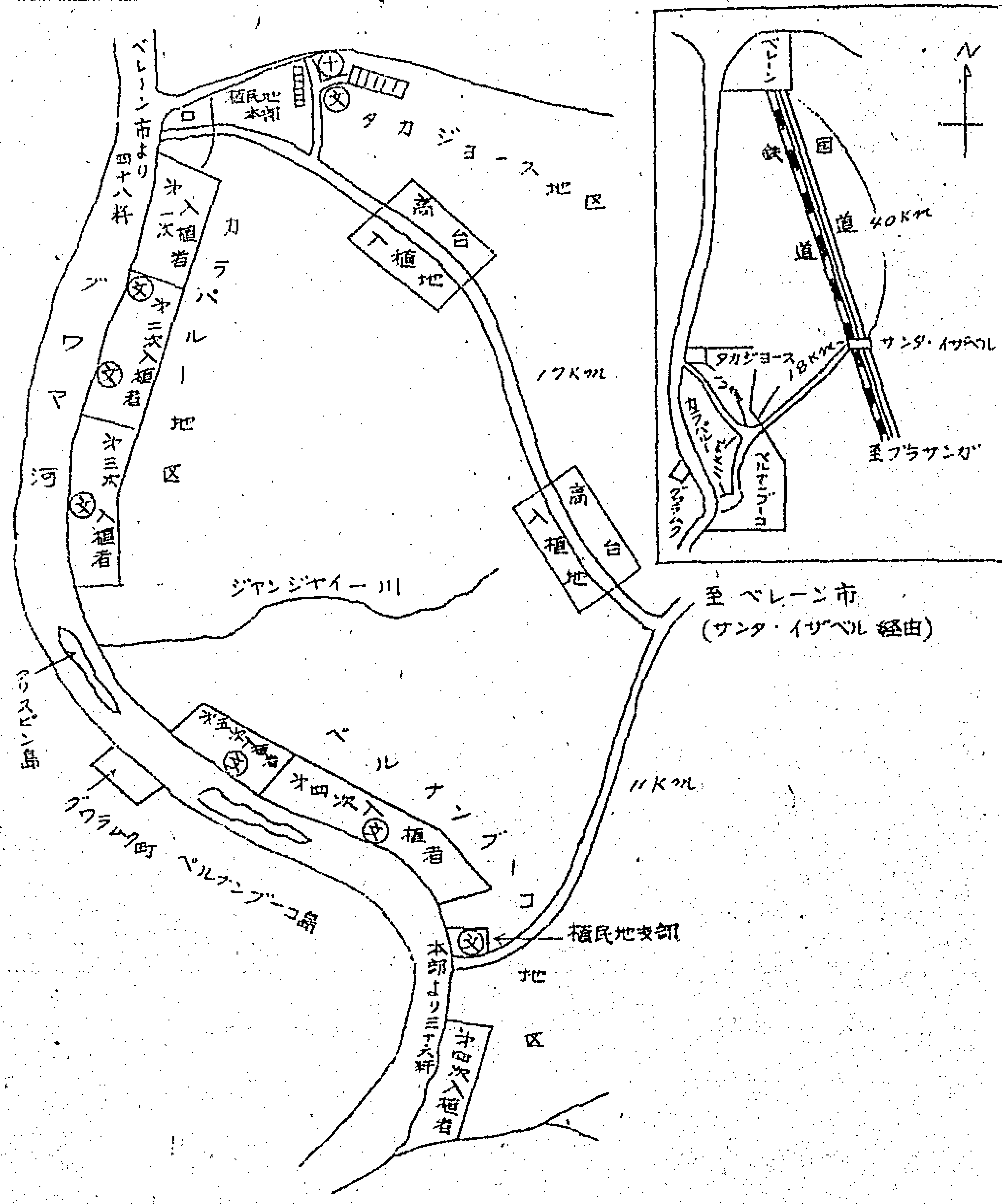
収入		支出	
1.農業粗収入	53.395 クルゼイロ (160,18.5 円)	1.生活費	17.430 (58.290)
① 永年作収入	1.515 (4.545)	食費	8.270 (2.481)
カカオ	5 (15)	衣料費	4.175 (12.525)
ピメンタ	430 (1.290)	住居費	1.470 (4.410)
果物	1.080 (3.240)	衛生費	2.345 (7.035)
② 短期作収入	50.165 (150.495)	教育費	1.265 (3.795)
籾	21.510 (64.530)	文化費	810 (2.430)
玉蜀黍	8.605 (25.815)	娯楽交際費	310 (920)
豆	3.270 (9.810)	雑費	785 (2.355)
落花生	15 (45)	2.営農費	16.490 (49.470)
胡麻	670 (2.010)	労賃	7.265 (21.795)
ジコート種子	13.765 (41.295)	運搬賃	3.830 (11.490)
マカセーラ	1.400 (4.200)	肥料費	50 (150)
煙草	930 (2.790)	種苗代	620 (1.860)
③ 家畜収入	1.715 (5.145)	機械器具費	3.950 (11.850)
牛・豚	1.140 (3.420)	農薬代	135 (405)
鶏卵	575 (1.725)	付帯費	640 (1.920)
2.雑収入	0 (0)		
合計	53,395 クルゼイロ (160.185)	合計	35,920 クルゼイロ (107.760 円)
差引残高	17,475 クルゼイロ (52,425 円)		

II．その他

この植民地の長所は土壌がテーラ・ロシャおよび準テーラ・プレタから成っている処多く，地味肥沃のため作物の成長よく従って収量も多い。またベレーンとマナオスの中間にあるので両都市へ容易に出荷出来るのが強味。

§3 グヮマ植民地概況（海協連アマゾン支部報告による）

1. グヮマ植民地略図



2. 所在地

パラー州首都ベレーン市よりグワマ河沿いに、上流48粁の

地点より始まり，約４０粁（うち６粁は私有地）の前面を持って拡がり，ジヨアン・コエーリヨおよびイニヤンガツペー両郡にまたがる。

3．経営主体・面積・総入植者数については別表（一覧表）参照

4．地区別

邦人入植者数	１０９家族	５９９名
うちペルナンブーコ地区	５５家族	２９５名
カラパルー地区	５４家族	３０４名

5，教育

タカジヨース小学校・ペルナンブーコ小学校の２校があり，前者はカワラ葺本建築３棟，後者はカワラ葺木造１棟である。教師は前者が１０名，後者が４名である。

生徒数はタカジヨースが３２５名（内１０９名邦人），ペルナンブーコが１８１名（内１３１名邦人）である。

グワマ植民地はほゞ４０粁にわたる広地域に入植しているため，就学上の便が悪く，来年度ペルナンブーコ地区２校，カラパルー地区３校を開校し，各校に教師１名を配置する計画があり，来年度新学期より実施することになつている。

教室の不足により，現在２部教育を行つている。

6．衛生

(1) 病院診療所

病院はタカジヨース地区に一棟あり，カワラ葺本建築で診察室，治療室，手術室，産室，歯科室および病室２部屋を有し完備している。

診療所はペルナンブーコ地区に1棟ありカワラ葺木造である。

(2) 医師・看護夫

医師および歯科医各一名が，タカジョース病院とペルナンブーコ診療所を交互に診療治療しているが，植民地勤務は週平均4日位である。別に看護夫がタカジョース病院とペルナンブーコ診療所とにそれぞれ2名宛常駐していて，そのうちの1名がそれぞれの地区内を巡回している。ただし看護夫4名のうち2名は無免許と思われる。

(3) 治療費

診療治療は無料であるが，薬品は有料で各自の負担となる。重患は植民地勘定でベレーン市の病院に入院させるが・その費用は個人の債務に振替えられる。

(4) 薬品

予算の関係で不足勝ちであり，必要常備薬は少い。

(5) 一般衛生状態

気候の変り目の1～2月および7～8月にはマラリヤ患者が発生したが・入植者が気候風土に馴れるに従い，かつ，また最近経済的にも幾分向上し，食料事情も好転したため，病気発生は減少して来ている。その他には恐ろしい風土病も流行病も全然ない。

(6) その他

日本からの持病による病死者が5名あった。

7. 道路・交通

(1) 町までの距離

カラパルー地区よりベレーン市まで

水路 48粁　陸路 75粁

ペルナンブーコ地区よりベレーン市まで

水路 84粁　陸路 69粁

(2) 道　路

グワマ植民地タカジョース地区よりベレーン市までの陸路は11月上旬に開通したが，未だ完成していない。他方ペルナンブーコ地区よりの道路も建設中であって，いずれも明年6月頃完成の予定である。

耕地間には不完全ながら道路があるが，小川多く架橋困難のため自動車は通らず，主としてモーター船に依存している。

(3) 交通機関

イ．植民地船舶　3隻(40屯 30屯および8屯積)

ベレーンまで毎週土曜日に定期就航を行う他，不定期に週平均2回就航する。

ロ．海協運賃与船＝1隻(10屯積)

定期的に毎週火・木・土の3回ベレーン市に往航，その翌日植民地に復航する。

主として生産物輸送に従事する。

ハ．植民地貨物自動車＝3台

道路完成後毎週火・土の2回ベレーンまで定期運行を行う予定で，現在は植民地内の運輸を専門にしている。

ニ．入植者所有モーター船＝4隻(いずれも1屯積前後の小型)

ホ，その他

近く海協連よりもう１隻１５屯積モーター船が貸与されることになっており，目下建造中。

また道路完成後６屯積新車を貸与（海協連支部で保管中）高台入植者の便宜を図る。

(4) 運 賃

イ．植民地船舶

定期便の場合および生産物輸送については無料であるが不定期の場合は１５クルゼイロ

ロ．海協連貸与船

植民地内		６才未満無料	６才以上 ５クルゼイロ
ベレーン＝植民地間		６才未満無料	６才以上 ４０クルゼイロ
荷 物	２５瓩～７０瓩		１０クルゼイロ
	１０瓩～２４瓩		５クルゼイロ
	バナナ１房		３クルゼイロ

8、組合活動

グワマ植民地産業組合（組合員５８名伯人５名を含む）がペルナンブーコ地区に，グワマ植民地産業組合（組合員２４名）がカラパルー地区にあり，それぞれ購買部・信用部・販売部・利用部の４つの部をもって活動している。

9，営農収支概算

営農収支概算

グヮマ　109家族の平均

収	入	支	出
1.農業粗収入	クルゼイロ 66.285 (円 198.855)	1.生活費	クルゼイロ 27.915 (円 83.745)
① 永年作収入	4.275 (12.825)	食費	20.620 (61.860)
ウルクー	200 (600)	衣料費	1.285 (3.855)
バナナ	3.765 (11.895)	住居費	2.125 (6.375)
果物	110 (330)	衛生費	1.235 (3.705)
② 短期作収入	59.940 (179.820)	教育費	50 (150)
籾	29.560 (88.680)	文化費	350 (1.050)
玉蜀黍	655 (1.965)	娯楽交際費	2.250 (6.750)
甘蔗	25 (75)	2.営農費	15.645 (46.935)
豆	65 (195)	労賃	5.825 (17.475)
落花生	210 (630)	運搬費	700 (2.100)
胡麻	10 (30)	肥料代	2.755 (8.265)
ファリーニャ	15 (45)	種子種苗代	1.070 (3.210)
マカセーラ	100 (300)	機械器具費	3.450 (10.350)
野菜	28;820 (86.460)	農薬代	795 (2.385)
瓜類	480 (1.440)	付帯費	365 (1.095)
③ 家畜収入	2.055 (6.165)	雑費	485 (1.455)
牛豚	270 (810)	3.雑費	3.000 (9.000)
鶏卵	1.785 (5.355)		
2 雑収入	4.250 (1.275)		
合計	クルゼイロ 70.520 (円 211.560)	合計	46.560 (139.680)
差引残高	23.960 クルゼイロ (71.880)		

10. その他団体

(1) ペルナンブーコ自治会

ペルナンブーコ地区入植者全家長54名が加入し，各種催物，道路管理，教育，その他自治上必要なる事業を行う。

(2) 一 八 会

才3次入植者15家族が入植して，各種催物，医薬の共同購入，道路管理，日曜学校，農事研究，婦人会結成，団体交渉その他自治上必要な事業を行う。

なお毎月8日に定期例会を行う。

(3) 才4次入植者農事研究会

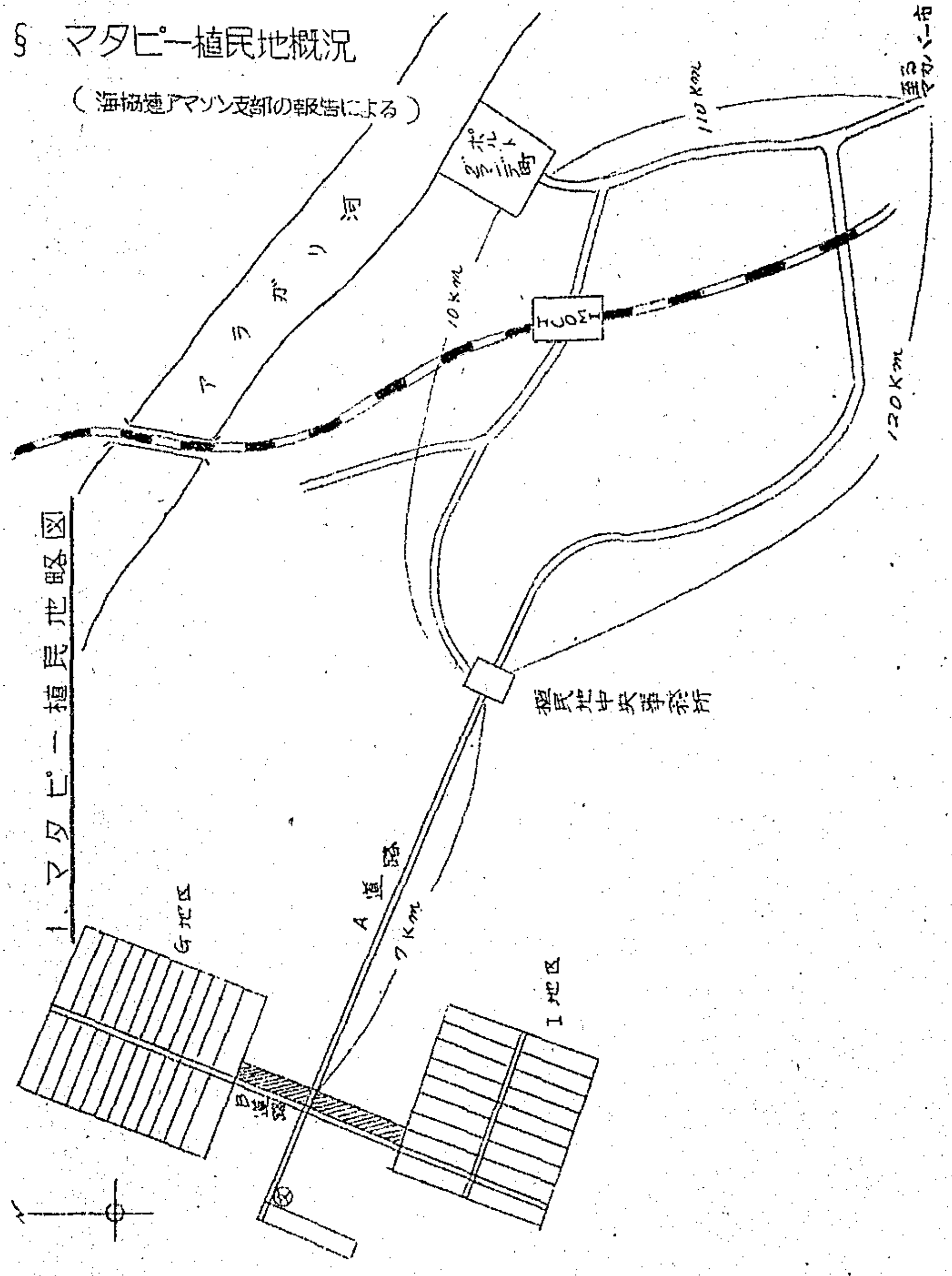
毎月1回以上集合して農事研究を行う。会員11名

(4) 才5次入植者農事研究会

毎月1回以上例会を開き，農事研究を行う。会員6名

§ マタピー植民地概況

（海協連アマゾン支部の報告による）



2. 所在地

アマパー直轄地マカパー郡にあり，首都マカパー市の北方１２７粁の地点に始まる。

3. 経営主体・面積・入植者数については別表（一覧表）参照

4. 教育

トタン葺本建築の小学校があり，２名（内１名は日系の帰化伯人）の教師により授業が行われている。生徒数は３５名（内邦人２９名）である。本年度新学期よりマカパー市の小・中学校への入学希望者が多数いる。

5. 衛生

(1) 病院診療所

診療所はあっても名目だけで，病気の時はマカパー病院に行く。

(2) 医師・看護夫

現在植民地にはいない。

(3) 診察

１昨年まではマカパー市より週１回来診していたが，現在は行われていない。

(4) 治療費

特別の場合を除いて無料

(5) 薬品　常備なし

(6) 一般衛生状態　良好

(7) その他

両政府と交渉して，医師の派遣および薬品の常備を申請

したが，実現を見ていない。

6. 道路・交通

(1) 町までの距離

ポルト・グランデまで　　　　17粁

マカパー市まで　　　　　　127粁

(2) 道　　路

マカパー市より植民地入口までは平原であるため，道路はよく管理されている。植民地内は坂もあり，悪路である。特に雨期には交通不能の場合がある。

(3) 交通機関

海協連支部貸与のトラックがあるが，故障のため運休中である。

直轄地政府のトラックは毎週月－土の2回定期便（往復）として運行している。

その外必要に応じて動いている個人所有のトラック便（不定期）がある。

またポルト・グランデからは毎日汽車の便がある。

(4) 運　　賃

植民地よりマカパー市まで　乗車賃　30クルゼイロ

　　　　　　　　　　　　　生産物　無　　料

(5) その他

出荷日が月，土曜のため日曜日の販売が不可能であるので入植者一同は一週間近くマカパー市に滞在しなければならず非常に不利不便を感じている。

7. 組合活動

アマパー産業協同組合が名のみ存在しているが，内紛のため現在活動停止状態にある。

8. 営農収支概算

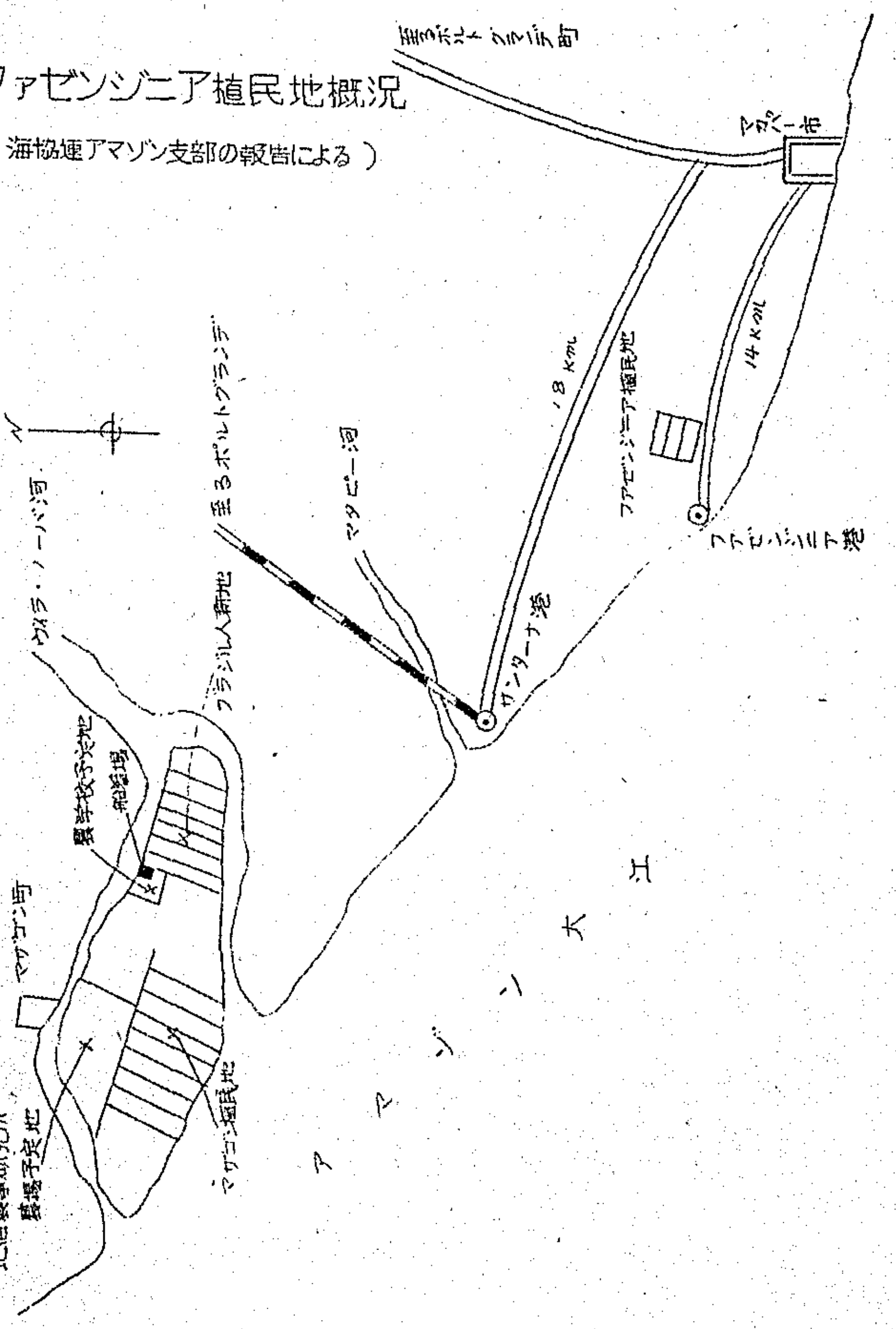
営農収支概算
マタピー　27家族の平均

収	入	支	出
1 農業粗収入	クルゼイロ 91,820（円 275,460）	1. 生活費	クルゼイロ 32,295（円 96,885）
① 永年作収入	18,495（55,485）	食費	19,645（58,935）
コーヒー	40（120）	衣料費	2,575（7,725）
カカオ	30（90）	住居費	130（390）
ピメンタ	1,875（5,625）	衛生費	1,965（5,895）
バナナ	1,450（4,350）	教育費	590（1,770）
アバカシ	13,645（40,935）	文化費	265（795）
果物	1,055（3,165）	娯楽交際費	1,685（5,055）
ココ椰子	400（1,200）	雑費	5,440（16,320）
② 短期作収入	70,330（210,990）	2. 営農費	12,405（37,215）
籾	19,815（59,445）	運搬費	1,815（5,445）
玉蜀黍	605（1,815）	肥料代	205（615）
甘藷	4,755（14,265）	種子種苗代	310（930）
ファリーニヤ	32,590（97,770）	機械器具費	2,500（7,500）
マカセーラ	6,220（18,660）	付帯費	1,010（3,030）
野菜	5,240（15,720）	雑費	355（1,065）
瓜類	1,105（3,315）	労賃	6,210（18,630）
③ 家畜収入	2,995（8,985）		
牛豚	220（660）		
鶏卵	2,775（8,325）		
2. 雑収入	11,500（34,500）		
合計	クルゼイロ 103,320（円 309,960）	合計	クルゼイロ 44,700（134,100）
差引残高	クルゼイロ 58,620（円 175,860）		

§ ファゼンジニア植民地概況

（ 海協連アマゾン支部の報告による ）

1　マザゴン及びファゼンジニア植民地略図



2. 所　在　地

首都マカパー市より離れたアマパー直轄地ファゼンジニア畜

産農場及びマカパー市近郊

3. 経営主体・面積・入植者数については別表（一覧表）参照

4. 教　　育

ファゼンジニア農場内に小学校があるが，距離および仕事の関係上通学者はなく，マカパー市夜学校に通学する青年もいる。

5. 衛　生

(1) 診療所

診療所はあるが，病気の時，邦人はマカパー病院を利用する。

(2) 診　　察

廻診もなく，薬品の備えもない。

(3) 衛生状態

良好であって健康地，時々マラリアが発生する程度

6. 道路・交通

(1) 町までの距離

マカパー市まで約11粁

(2) 道　　路

坦々たる良道

(3) 交通機関

毎日政府のトラックが定時に配車される。

(4) 運　　賃

政府トラックを利用する場合，毎月2,500クルゼイロ支払う。

7 組　　合

なし

8. 営農収支概算

営農収支概算

ファンゼンジニア　9家族の平均

収	入	支	出
農業粗収入	433,020 クルゼイロ (1,289,060 円)	1 生活費	182,025 クルゼイロ (546,075 円)
1. 永年作収入	2,665 (7,995)	食費	72,470 (217,410)
果物	2,665 (7,995)	衣料費	10,480 (31,440)
2. 短期作収入	430,355 (1,291,065)	住居費	29,560 (38,680)
ファリーニヤ	2,720 (8,160)	衛生費	5,910 (17,730)
野菜	427,635 (1,282,050)	教育費	1,460 (4,380)
		文化費	7,220 (21,660)
		娯楽交際費	22,075 (66,225)
		雑費	32,850 (98,550)
		2 営農費	237,620 (712,860)
		労賃	76,925 (230,775)
		運搬費	9,865 (29,591)
		肥料費	31,310 (93,930)
		種子苗代	6,865 (20,595)
		機械器具費	32,170 (96,510)
		農薬代	2,710 (9,130)
		雑費	77,775 (233,325)
合計	433,020 クルゼイロ (1,299,060 円)	合計	419,645 クルゼイロ (1,258,935 円)

差引残高　13,375 クルゼイロ (40,125 円)

9. その他

本植民地は首都マカパー市の市民に蔬菜を供給するために直轄政府が邦人蔬菜栽培者だけを入植させた植民地で，首都の郊外に所在し，収入も多く，生活は安定している。

§ マザゴン植民地概況

（海協連アマゾン支部の報告による）

1，略図（ファゼンジーニアの分参照）

2．所在地

アマパー直轄地首都マカパー市上流33粁のマザゴン郡パレイラ島に在る。

3．経営主体・面積・入植者数については別表（一覧表）参照

4．教育

当植民地には小学校がなく，現在植民地内に開発庁予算で農学校を建築中である。

就学児童はマザゴン町に在る小学校に通学している。

5．衛生

（1）病院診療所

植民地内には病院も診療所もなく，マザゴン町の病院に行く。

（2）医師・看護夫

マザゴン町の病院には医師1名，看護夫4名がいる。

（3）診察

随時診察を行い，診察料無料で，入院も可能である。

（4）薬品

必要な薬品が少なく，一般必要薬品はマカパー市で購入，常備している。

（5）一般衛生状態

マラリヤ病以外に恐るべき風土病，流行病はない。

(6) その他

急患の場合はマザゴン病院より医師の往診を受けることが出来る。

6，道路・交通

(1) 町までの距離

植民地船着場よりマザゴン町まで　水路約1.5粁

マザゴン町よりマカパー市まで　水路約33粁

(2) 道　路

邦人入植地より船着場までの1.9粁の道路は低湿地にあるため，非常に交通不便であるので，目下修理に力を入れている。

(3) 交通機関

イ，海協運貸与モーター船

当支部より貸与の3屯積モーター船で，植民地船着場よりマザゴン町，サンターナ港およびマカパー市に往復して生産物輸送の便を計つている。

ロ，マザゴン郡役所モーター船

毎週月・水・土の3回定期的にサンターナ港まで就航する。

(4) 運　賃

マザゴン植民地よりサンターナ港まで

1人　20クルゼイロ

1俵　10クルゼイロ

サンターナ港よりマカパー市まで

/人　25〜30クルゼイロ

/俵　　/0クルゼイロ

(5) その他

直轄地政府との入植条件では，入植後3年間は生産物の輸送費は無料となっているが，郡所有船を使用するため有料となる。

7．組合活動

マザゴン産業組合が結成されている。（組合員9名）

8．営農収支概算

営農収支概算

マザゴン　　7家族の平均

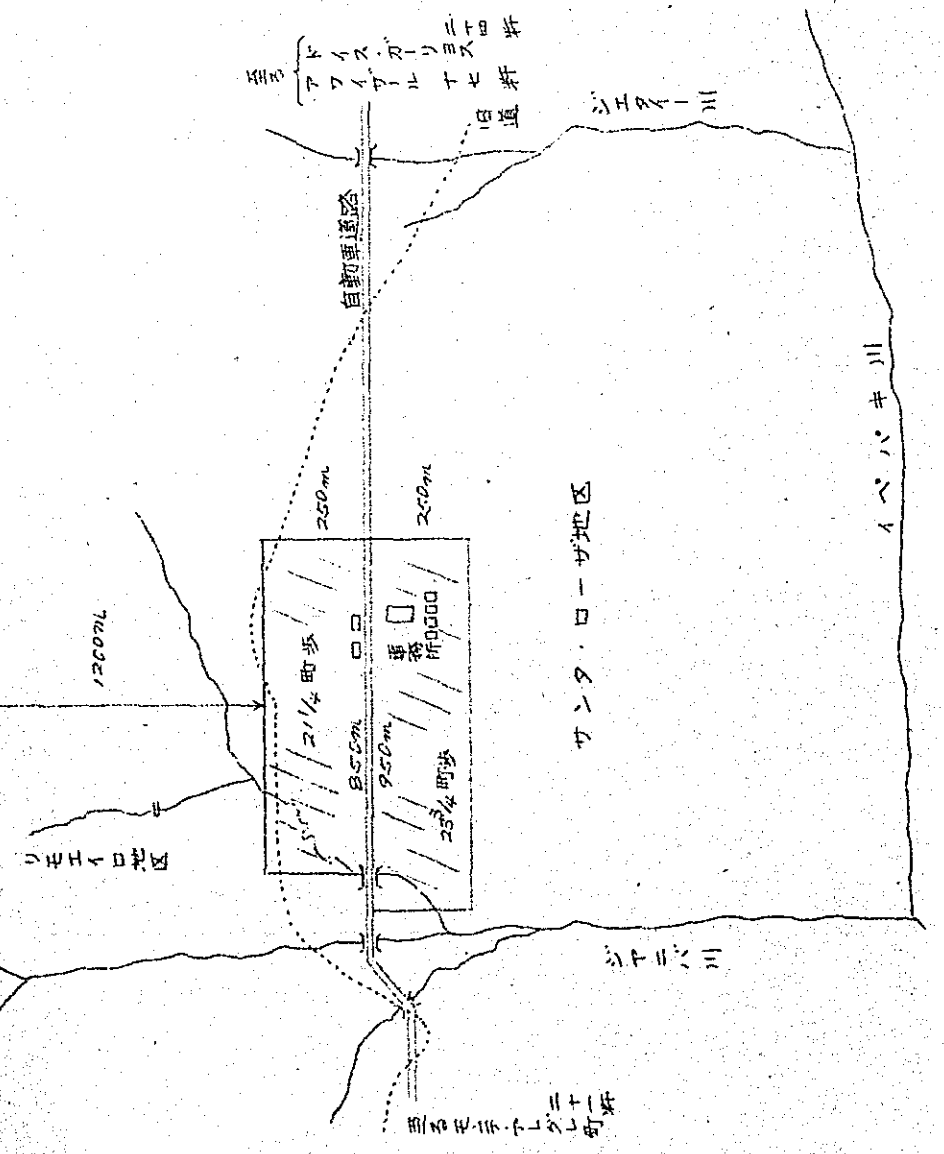
収	入	支	出
1.農業粗収入	59.400クルゼイロ(178.200円)	1. 生活費	43.690(131.070)
① 永年作収入	185(555)	食費	31.820(95.460)
バナナ	140(420)	衣料費	285(855)
アバカシ	45(135)	住居費	2.520(7.560)
② 短期作収入	59.000(177.000)	衛生費	1.495(4.485)
籾	50.000(150.000)	娯楽交際費	1.350(4.050)
トウモロコシ	600(1800)	雑費	6.220(18.660)
豆	300(900)	2. 営農費	7.035(21.105)
野菜	7.600(22.800)	労賃	1.285(3.855)
瓜類	500(1.500)	運搬費	2.995(8.985)
③ 家畜収入	215(645)	肥料代	235(705)
鶏卵	215(645)	種子種苗代	300(900)
		種畜代	300(900)
		機械器具費	505(1.515)
		農薬代	65(185)
		付帯費	1.350(4.050)
合計	59.400クルゼイロ(178.200円)	合計	50.725クルゼイロ(152.175円)

差引残高　8.675クルゼイロ（≒26.025円）

§ 海協連モンテ・アレグレ種苗園（試験農場）概況

（海協連アマゾン支部の報告による）

1. 海協連モンテ・アレグレ種苗園（試験農場）略図



2，所在地

パラー州モンテ・アレグレ郡サンタ・ローザに有り，モンテ・アレグレ町の東北２１ kmの地点に当る。

3，経営主体　，海協連アマゾン支部

4，所有面積　２３２町歩

5，利用面積　４５町歩

6，付属建造物

(1) 事務所　１棟

(2) 従業員宿舎

家族用　５棟

独身者用（１０名収容）　１棟

(3) 鶏舎および豚舎各１棟　２棟

(4) 車庫　１棟

(5) 揚水用給水塔　１基

7，付属車輌機械器具

(1) トラック（シボレー５６年型６屯積）　１台

(2) トラックター（インターナショナル２５馬力）　１台

但し，プラウ，ハロー，除草機，播種機付

(3) 脱粒機　１台

(4) 噴霧器（背負手動式）　１台

(5) 水揚ポンポ　１台

(6) 籾摺機　１台

(7) 精米機　１台

(8) 発動機（５馬力）　３台

但し脱粒機，水揚ポンプ，精米機用

(9) 足踏式脱穀機　　　　　　　　　　/ 台

(10) リヤカー　　　　　　　　　　　/ 台

(11) 雨量計・温度計・湿度計各/式

8. 種苗・種鶏

種豚（カロンシニヤ）

種鶏（ニューハンプシヤー）

9. /958年度の事業

(1) ケナフ・棉・ラミーの育成試験

(2) 陸稲の各種育成試験

(3) 種子・種苗の育成

㋑ 陸稲（ドラドン・メルイン・アマレロン・テキサス・マトグロッソおよびカネラ・デ・フエーフ）

㋺ ゴム　　　　　　　　30,000 本

㋩ コーヒー　　　　　　40,000 本

㋥ カカオ　　　　　　　3,000 本

㋭ ココアナン　　　　　/,000 本

㋬ ブドー　　　　　　　/00 本

㋣ 蜜柑　　　　　　　　/,000 本

㋠ 落花生　　　　　　　3,000 瓩

㋷ 果樹類（アバカテ，ププニヤその他）

(4) 気象観測

10. /958年度における分譲配付

(1) 種子および種苗　　陸稲・とうもろこし・カカオ・コーヒー・

緑肥物物等，

(2) 種鶏・種卵

種　鶏　　　２５　羽

種　卵　　３，７５４　箇

11，１９５９年度において新たに実施中の事業

(1) マンジョカ２０種の比較育成試験

(2) チンボーの育成試験

(3) 玉蜀黍（イブリド種）の一代交配試験

(4) 機械による稲作試験

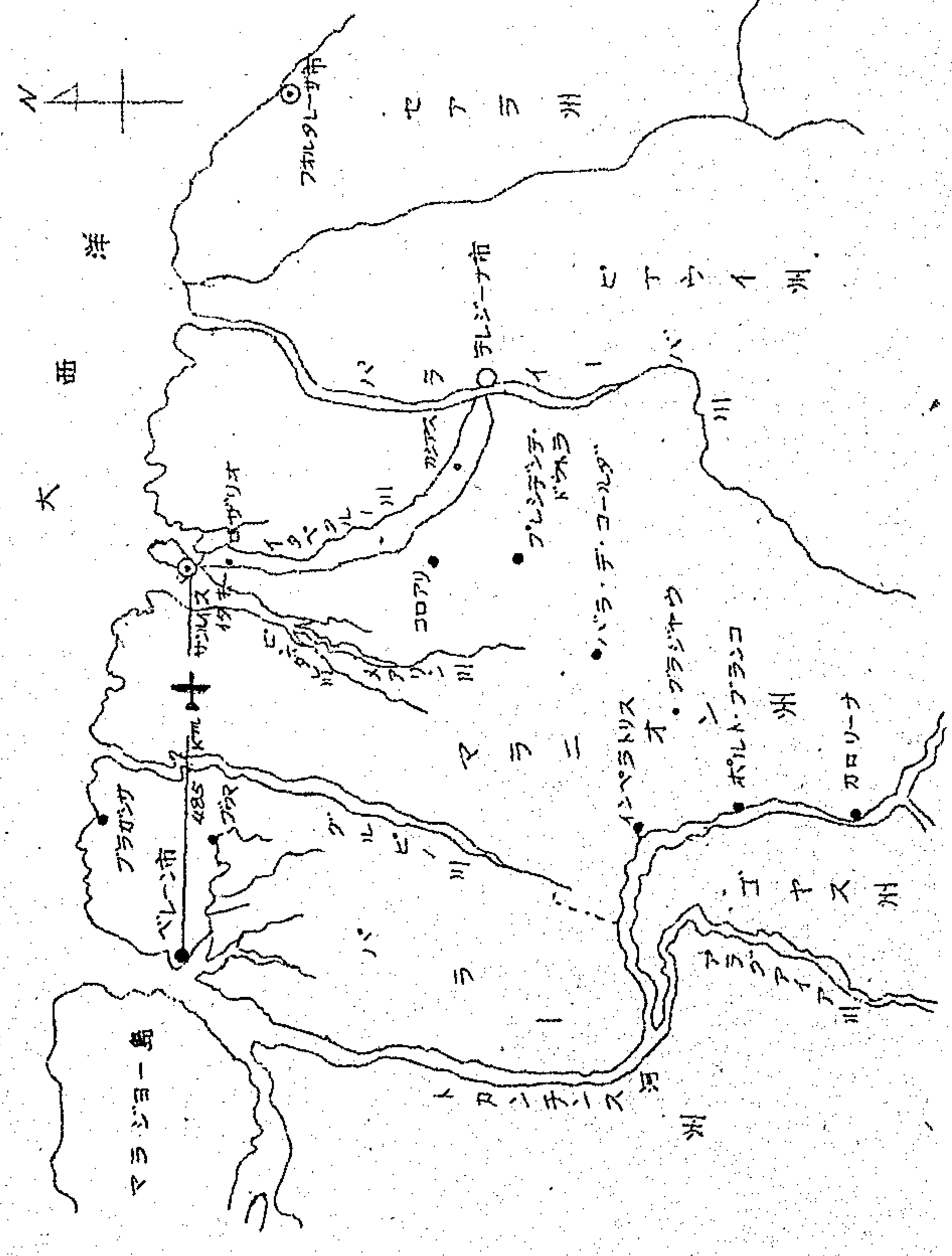
(5) 緑肥作物の試作

クワンズー，フエジョン・デ・ポルコ，ムクナ・プレータ，クロタラリヤ，ジュンセー，セントロマ，プエラリヤ，アルファルファ等

§. 伯国マラニオン州ロザリオ入植地概要

（海協連アマゾン支部の報告による）

1. マラニオン州位置略図



2 マラニヨン州について

(1) 地理的位置

南緯1度01分から同10度21分07秒にかけて西経41度48分30秒から48度50分15秒の拡がりをもつ。

即ち，ブラジルの東北部に位置し，ゴヤス州北端の一部を挟んでパラー州の東部に亘り面積846,200km²，人口125万人を有している。ピンダレ河，グワシヤラ河，メアリン河およびイタピクルー河の四川流域に広がり，第三紀層中に在って土地は大体肥沃である。

気候は海に面した北部海岸地方では北々東の季節風に恵まれて比較的涼しく且つ雨量も申し分ない。しかし南部の奥地一帯はブラジル東北地方特有の気候帯に属し，乾燥が強く暑さも烈しい。

一般にマラニヨン州はその自然的条件がアマゾン地域に類似しているので，アマゾン開発庁の管轄地域に属している。

(2) 交　通

州内各都市は，陸路，水路，鉄路，および空路によって完全に結ばれ頻繁に往来しているが、特に首都サンルイス市を起点とする国道はピアウイ州首都テレジーナ市を経てレシフェ，フオルタレーザを廻り遠くサン・パウロ方面にも伸びている。

(註) サン・ルイス＝サン・パウロ間はトラックで昼間のみ疾走して5～6日を要する。

最近開通をみたベレーン＝ブラジリヤ間BR14号国道はマラニヨン州の西端を通過しており，またベレーン＝サン・

ルイス間BR22号国道も建設中であるのでこれらが完成すれば近き将来において州内陸路交通は縦横に発達することとなろう。

鉄道はサン・ルイス市よりテレジーナ市まで450kmが開通しており，週3回往復している。またサンルイス港は国内沿岸航路の寄港地であり，現在イタキーに着工中の港湾設備が完成すれば外洋船の着岸も可能となる。

このように，州内交通事情は北伯他州に比し極めて良好である。

(3) 産 業

イ. ババスー

マラニヨン州はババスーの産地として著名である。従ってババスーの採種と搾油が重要な産業で1956年の統計によると6900トンのババス油を産出し，146,000コントスの収入を挙げている。

ババスーとは椰子樹の一種であって，その成木の直径は30〜40cm，高さ10〜15mに及ぶ。樹幹の頂点に長さ3〜4mの葉を10数葉つけ，その葉腋の基部にババスー果実が年1回，少いものは1樹に1果房，多いものでは1樹に数果房を生ずる。1果房には普通150〜300個のババスー果をつけ成熟すれば地上に落果する。ババスー果は長径7〜8cm，短径5〜6cmの楕円形で繊維質の外皮を有し，3個乃至6個の柿種のような果種が硬質の厚い核の中に包まれている。この果種が所謂ババスーとして

取引されるものであって、60パーセントの油脂を含んでいる。しかし、ババスー果を割って果種を抽出する機械はないので今日に至るも斧で果を割り種子を取出す原始的方法に依っている。

1人1日の採取量は熟練の程度により5～15kgで現在kg15クルゼイロスで取引されているので未熟練者でも1日100クルゼイロス内外の収入となる。1果房より大体5kg平均の果種を抽出するとして、1樹平均3果房生ずると毎年1樹から200クルゼイロス前後の収入を得ることが出来る。

マラニヨン州は全州ババスー樹の自然林と云っても過言でなく、1ヘクタール当り300本乃至500本の割合であるいは密に、あるいは疎に自生している。一般農業はこのババスー樹の中で行われている。

ババスー油の用途はマーガリン，石鹸の原料として非常に広い。

ロ．米

1956年の統計によると米の生産量は20万トン弱二の主要産物であるが，品質劣悪で米作法品質の改良が叫ばれている。

ハ．その他

綿，落花生，甘蔗，豆，玉蜀黍，マンジョカなどの農産物があり，棉については州内各地に梱包工場がある。

3．サン・ルイス市について

マラニヨン州首都サン・ルイス市はサン・マルコス湾内のサン・ルイス島中にあり，人口約14万を数え，公共施設も完備している。ババスー・米・棉・カルナウーバ等の集散地で製糸工場，搾油工場，梱包工場，精米所等多数あり，活気を呈している。交通上の要衝でもあり，この地方の文化の中心地でもある。

町は常に潮風を受けて涼しく，物価は非常に安い。

サン・ルイス市の物価　（1959年4月22日現在）

品名	単位	価格	品名	単位	価格
白米	kg	15クルゼイロ	砂糖	kg	15クルゼイロ
ファリーニヤ	〃	14 〃	鶏	羽	100 〃
豆	〃	34 〃	トマト	kg	40 〃
牛肉	〃	45 〃	胡瓜	本	3 〃
塩肉	〃	30 〃	アルファッセ	束	3 〃
玉葱	〃	50 〃	ケヤーボ	〃	3 〃
馬鈴薯	〃	30 〃	パイナップル	個	10 〃
カフエー(粒)	〃	55 〃	レモン	3個	5 〃
玉蜀黍	〃	10 〃			

4．ロザリオ市と新入植地について

サン・ルイス市から南に走っている国道（一部舗装されていないが，管理は行き届いている）の約65キロ南下した地点にバカベイラという処があり，そこから左折して州道に入る。この州道は，舗装されていないが悪路ではない。

この州道を約3km行った処にあるのがロザリオ市で人口約8,000。イタペクル河に沿い，テレジーナ行き鉄道の主要駅でもある。

郡役所の所在地で，小学校5，中学校1，病院1，郡庁，産院（目下建設中），郵便電信局，電気，映画館など一応整備されているが，規模は至って小さく，町全体活気に乏しく感じられる。煉瓦，土管等の製造場が2，3ヶ所ある他か、加工業はない。ババスー，米，ファリーニャ，玉蜀黍，薪炭等，地方農産物の集散地として商店が百軒程ある。

ロザリオ市の町端れより1km半程の処に近く日本人移住者を受け入れる予定の新入植地がある。

表土は灰暗色の壌土で，下層土は黄色の粘質である。入植予定地の前面に現地人の耕地があるが，玉蜀黍，米，バナナ等よく成育している。原始林はなく全面再生林であるが，ババスー樹が入植予定地全体に林立している。

5．イタキー新港について

サン・ルイス港が遠浅のため外洋船の着港が不可能なところから，州政府はサン・ルイス島内のイタキーにアマゾン開発庁の援助を得て新らしく港湾計画をたて，築港に着手している。イタキーはサン・ルイス市の対岸にある半島との間を九哩南下したサン・マルコス湾に面した良港である。サン・ルイス市からテレジーナ国道を23km南下し，そこから右折して17km（サン・ルイスより40km）進めば，イタキーに達する。この間ジープで約1時間。

イタキーにはブルトーザーが動き巨大な油槽が架設されつつ

ある。I・B・サバー会社，アギアール会社ならびにスタンダード石油会社の三社が給油所を建設しつつあり，その中間に州政府が港湾設備に着工している。

この地は深く湾曲せるサン・マルコス湾に面し，前面に島があって自然の防波堤を成し，四時風波なく，海深60フィートあって，外洋船の出入りに何等の支障がないと云われている。現に昨年9月および本年2月に，1万屯級の外国船が入港したことがある。従って大阪商船会社の移住者船の入港も可能であるが，現存する桟橋はパイプライン（スタンダード会社）専用で，人間の歩行は困難であり，且つ州政府の築港工事も，ランチ小船の繋留出来る程度の小規模な岸壁が築かれているに過ぎずしかも海上に突き出ていないので干潮時は陸に乾上ってしまう状態であるから，日本船は沖合いに投錨して，ランチやアルヴァレンガ（荷船）に移住者および荷物を移し，満潮時に州政府工事中の岸壁に着けてこれを揚げることになる。

イタキー港からロザリオ入植地までは約70kmでトラックによる所要時間は約2時間である。

6．ロザリオ植民地の特徴と将来性

(1) 日本人移住者の集団入植は初めて

以前より日本人移住者の導入が屡々計画され，先にアルカンタラ入植の話合いも決りかけたが，政争の烈しい州で色々の事情もあり，その都度実施するに至らなかったが現州知事ジョゼー・デ・マットス・カルヴァーリョ氏の熱心なる努力により漸く実現の運びとなったもので，従来日本人は3家族

程サン・ルイス郊外に個人的に入植して蔬菜栽培を行つているのみで、今回の如く集団的にマラニヨン州に入植するのは初めてのことである。

従つて州民の期待するところ甚だ大きく、州内特に首都サン・ルイス市に対する野菜・果物・家畜等の供給と同時に比較的幼稚な農業界に新風を吹き込み州内一般農業の進歩発展を促進することを目的としている。

(2) 交通と販路

ロザリオ＝サン・ルイス間は約80キロであるが道路が完備しているので、交通運輸に極めて便利でバスも毎日サンルイス間を往復している。また鉄道を利用して生産物をサン・ルイスまたは奥地の都市に搬出することも出来るし、イタペクルー河の水路に依る方法もある。

従つて販路はひとり人口14万のサン・ルイス市にとゞまらず、国道乃至鉄道に沿う人口2万程度の奥地都市が多数あり、交通事情の良好と相俟つて販路に心配のないのが特長である。

(3) 農業面の利点

ババスー自然樹の密生した処は残しておくと既成の永年生作物園となるので、毎年固定した収入が得られることになる。また、主作物となつている野菜、果物、米、玉蜀黍、胡椒、珈琲等の施肥にはババスー油糟を何時でも安価に入手することが出来る便利がある。

(4) 公共施設物について

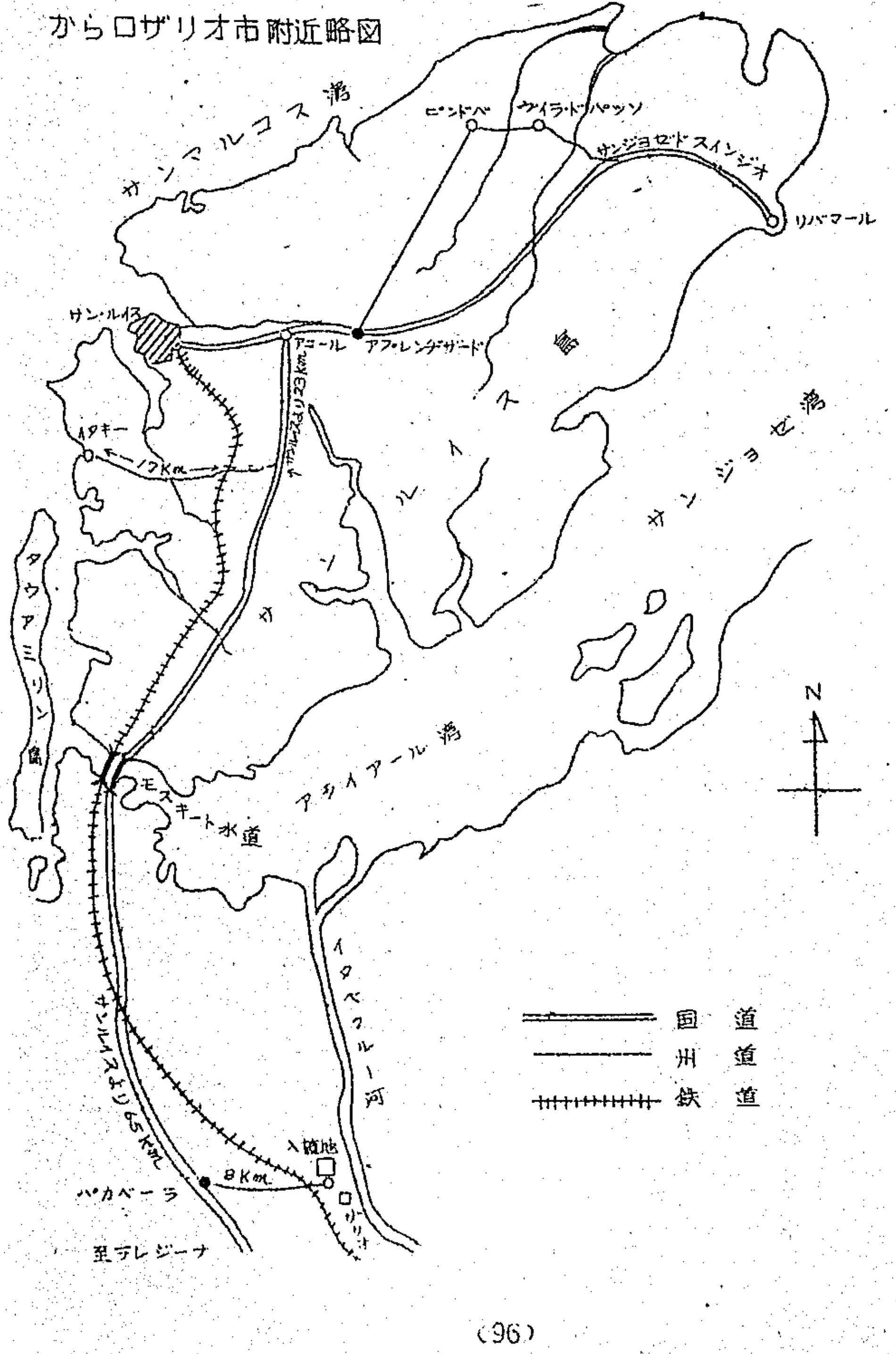
新植民地を創設する場合、学校とか診療所等の公共施設物は政府の種々の事情により仲々急には施設されないものであるが、本植民地は卑近の距離にロザリオ市があり、一応の設備が整っているので入植者は入植早々これらの設備を利用出来る。

(5) 将 来 性

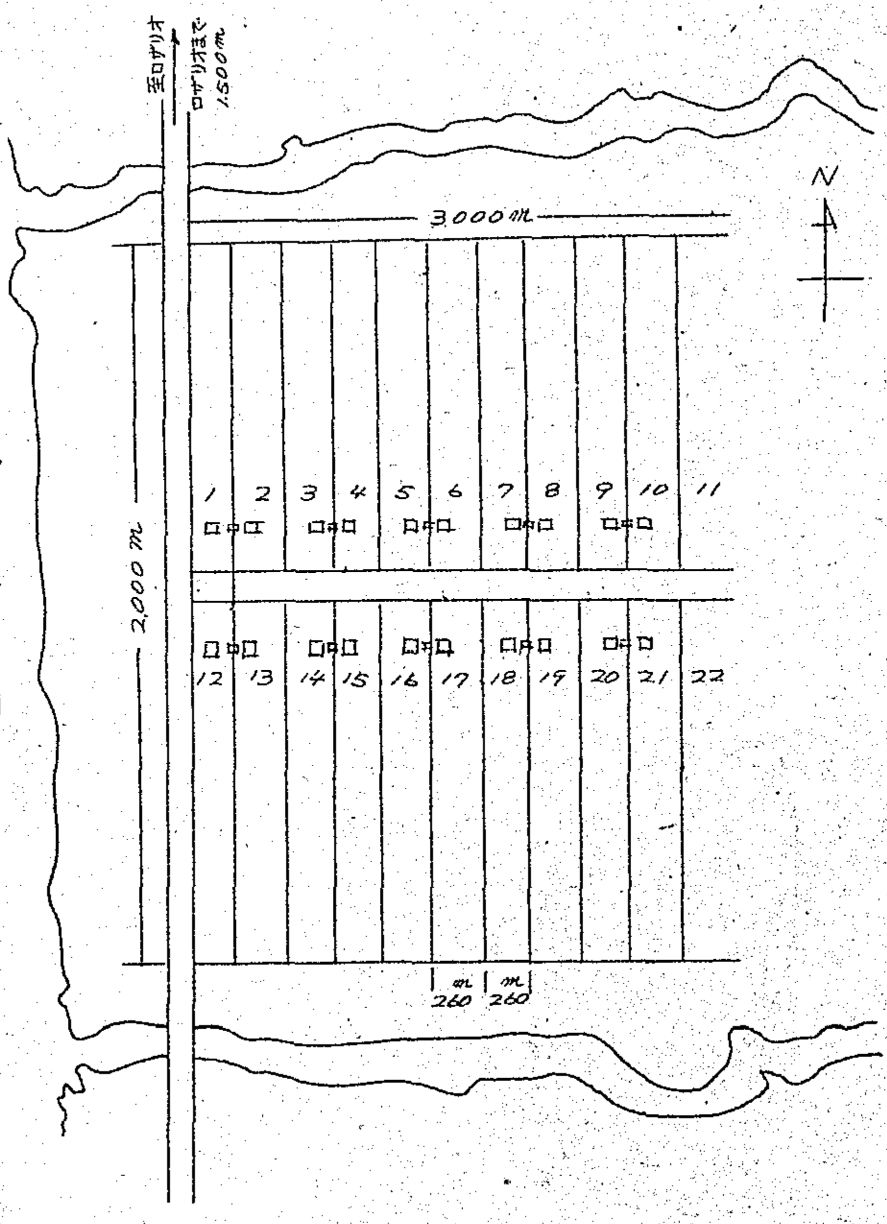
BR１４、BR２２両国道の完成が間近くベレーンから陸路マラニョン州に行けるようになる。BR２２号国道の沿線にはピンダレ，メアリン地方の地味豊沃な農業地帯が拡っている。

州当局者も日本人移住者の導入に熱心であってロザリオにおける最初の入植者の成績がよければ引続き導入することになっており、今後の日本人の発展地としてマラニョン州は洋洋たる前途を有している。

7. マラニオン州サン・ルイス市からロザリオ市附近略図



8．ロザリオ入植地略図


至ロザリオ
ロザリオまで 1,500m
3000m
N
イタペクルー川
2,000m
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22
m 260
m 260

9. ロザリオ入植地について

(1) 位置・土地および自然条件

ロザリオ植民地はマラニオン州ロザリオ郡（サン・ルイス市南方74Km）にあり、面積約600町歩で内500町歩は再生林である。この土地はもと私有地であつたが州政府が買収したものである。この再生林にはババスーが生育しているが、ババスーを残して伐採・山焼きをしてもババスー樹は枯死しないので従来通りババスーの採取を続けることが可能であるからババスー樹林中に米やミーリヨを混植している形になる。

又総面積600町歩のうち70町歩が既に耕地として利用されており、このうち米、ミーリヨの栽培地が50町歩・バナナ・マンゴ植付地が各10町歩となつている。

地形は大体平坦で河幅約10mの小川二流があり入植地の東西に両者平行して南より北に流れている。両川とも両岸に狭い低湿地があり、川は乾燥期にも枯水しない。

林相は5－10年のもので、ババスー樹を除けば樹径20cm以上のものを見ない。伐採作業は至極容易である。

(2) 災害・風土病

乾燥強きため、簡単なる灌漑用水池を必要とする。サウーバ蟻の害が多少ある。又風土病についてはマラリアの多少の発生があるが問題とするに足りない。

(3) 気　　候

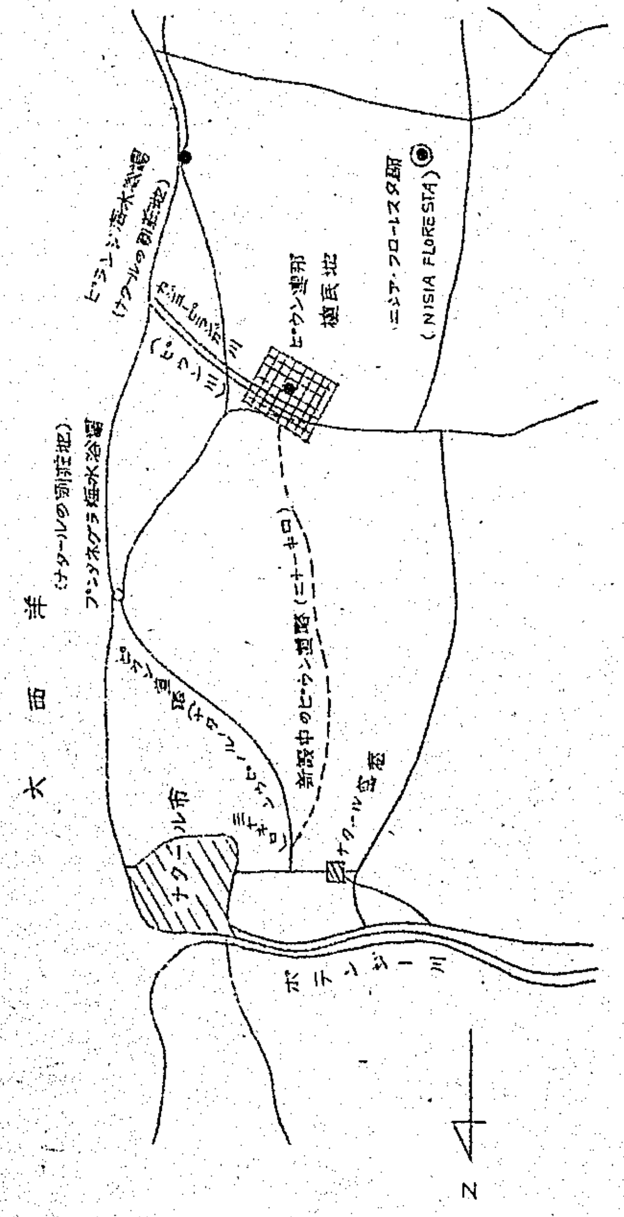
5月より乾期に入り10～11月より雨期に入る。

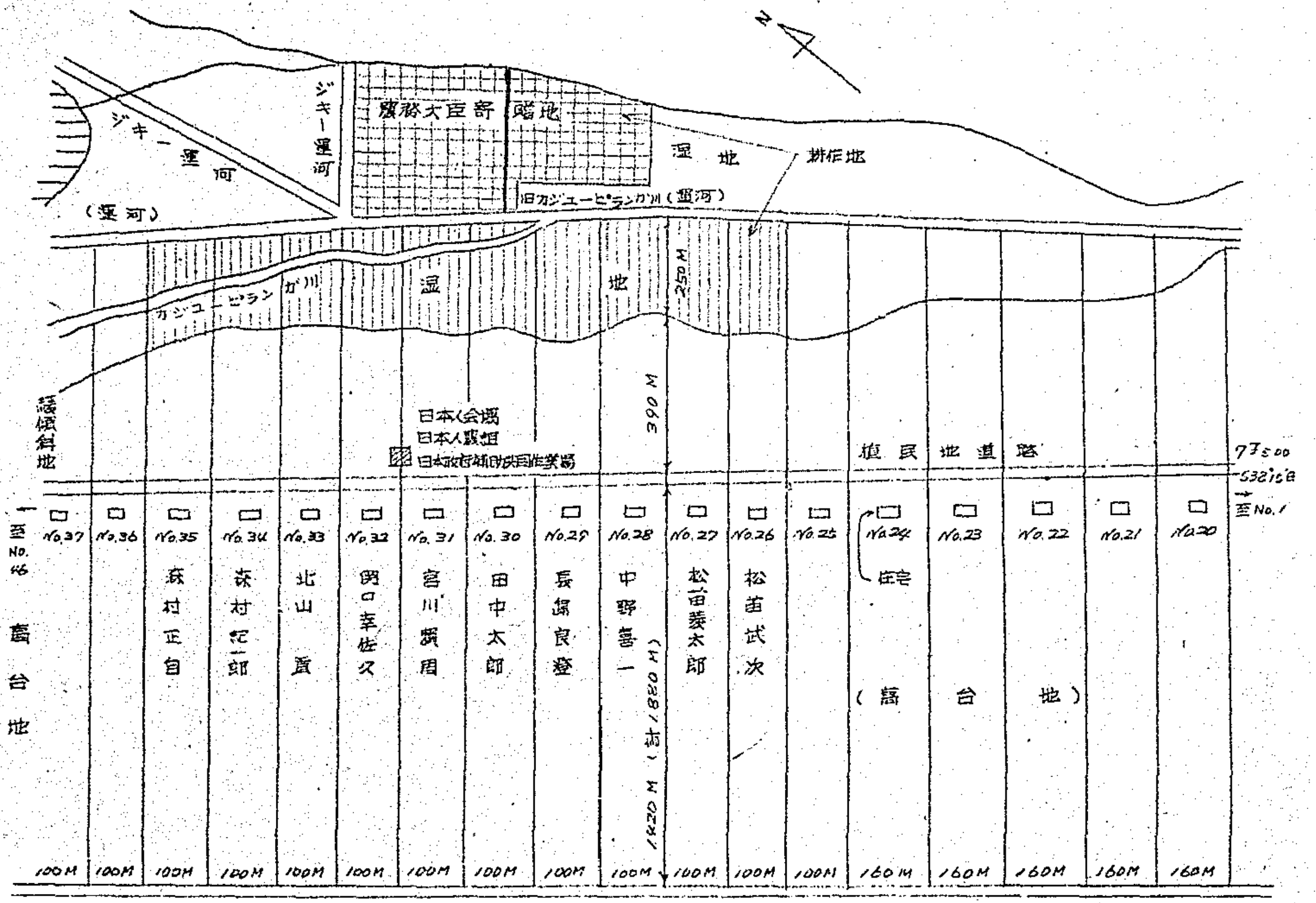
気温				降雨量	湿度
月	最高	最低	平均		
1	31.5	23.9	27.1	190.1	79
2	30.4	23.6	26.3	283.3	86
3	30.3	23.4	26.1	415.8	88
4	32.0	23.8	27.0	401.7	83
5	32.0	23.6	26.6	145.7	86
6	31.7	23.2	26.6	121.0	85
7	31.8	22.9	26.7	127.4	81
8	32.3	22.3	26.6	53.2	79
9	32.3	23.5	27.1	0	74
10	32.0	23.9	27.1	1.2	74
11	31.9	24.2	27.4	38.1	74
12	32.1	24.3	27.5	34.1	75
全年	31.7	23.6	26.8	1,818.0	80

§ ピウン植民地の概要

（外務省移住局実施の移住地実態調査および海協連リオ支部の報告による）

1. 位置図




N
ジキー運河
(運河)
ジキー運河
外務大臣寄贈地
湿地
耕作地
旧カジユーピランガ川(運河)
カジユーピランガ川
湿地
250 M
390 M
1420 M (計1820 M)
緩傾斜地
日本人会場
日本人農場
日本政府補助共同作業場
植民地道路
77°5'00
53°21'6"
至No.1
至No.46
No.37
No.36
No.35
No.34
No.33
No.32
No.31
No.30
No.29
No.28
No.27
No.26
No.25
No.24
No.23
No.22
No.21
No.20
住宅
森村正自
森村紀一郎
北山直
関口幸佐久
宮川撰周
田中太郎
長嶋良登
中野喜一
松苗菱太郎
松苗武次
畜台地
(畜台地)
100M
160M

3、植民地の自然的条件

植民地は略図に示されるように低地の湿地帯と高台の砂質草原地とに別れている。低湿地には排水路を設け、蔬菜の耕作適地とレマピウン入植者の収入源となつているが、高台の草地は今のところ利用価値がない。

4、気候

気温				降水量	湿度	摘要
月別	最高	最低	平均			
1	30.7	20.1	27.7	13.1 mm	68 %	ナタール気象観測所（一九五六年）統計資料による。
2	30.8	20.4	27.8	118.6	72	
3	31.1	20.4	26.9	340.9	73	
4	30.7	18.7	27.3	217.7	74	
5	30.7	19.4	27.6	114.8	73	
6	30.2	18.0	26.9	180.3	73	
7	29.2	16.2	25.2	283.5	77	
8	29.0	17.3	25.1	194.5	74	
9	29.0	17.7	25.2	55.8	71	
10	29.8	18.0	26.4	7.5	70	
11	30.0	20.6	26.9	3.7	69	
12	30.6	19.6	27.3	7.3	68	
全年	30.2	18.9	26.7	1537.7 mm	71.5	

5、 海協連の援助

日本人移住者は昭和31年7月に10家族が入植しているが、海協連の補助金により自動耕耘機5台、精米機1台、脱穀機1台、発動機1台が貸与されており、又共同作業場一棟が建設されている。またレシーフエに駐在する海協連指導員が随時巡回指導を行つている。

6. 生活について

住宅は各自のロッテ内に煉瓦建、カワラブキの立派な住宅（建坪63平方米）が建設され、入植者に分譲される。

光源としては石油ランプを用い、水は住宅から400～600m離れた低地にある井戸より得る。

又植民地内に小学校がある。医療については、植民地から30kmのナタール市の病院で不便はない。

入植者は、近くの現地人を使い主として蔬菜を作りナタール市に供給し好成績を収めている。

7、 営農収支（入植者10家族の平均）

（海協連リオ支部の調査による）

ロッテ面積	高台	10.5ヘクタール	未利用
	低地	3.5ヘクタール	既耕地
家族	5名		
稼動人員	3名		

昭和32年7月より33年6月まで（入植第2年度）　1クルゼイロ＝3.00円とする.

収入		支出	
営農収入	**281,670クルゼイロ（845,070円）**	**生活費**	**82,620クルゼイロ（247,860円）**
蔬菜類	260,560（781,680）	食糧	61,270（183,710）
米（自家用）	19,600（58,800）	光熱	1,530（4,590）
その他	1,530（4,590）	被服	4,500（13,500）
		医療	5,900（17,700）
		交際・教育・娯楽	6,900（20,700）
		雑費	2,520（7,560）
		経営費	**134,500（403,500）**
		種苗	15,410（46,230）
		農具	7,750（23,250）
		肥料	33,830（101,490）
		農薬	17,080（51,240）
		人夫賃	（延べ1450人）58,200（174,600）
		雑費	2,230（6,690）
		投資	**33,550（100,650）**
		家屋増築	4,200（12,600）
		家具 自転車等	10,400（31,200）
		家畜 その他	6,950（20,850）
		トラック共同購入	12,000（36,000）
合計	281,690（845,070）	合計	250,670（752,010）

差引残額　31,020クルゼイロ（93060円）

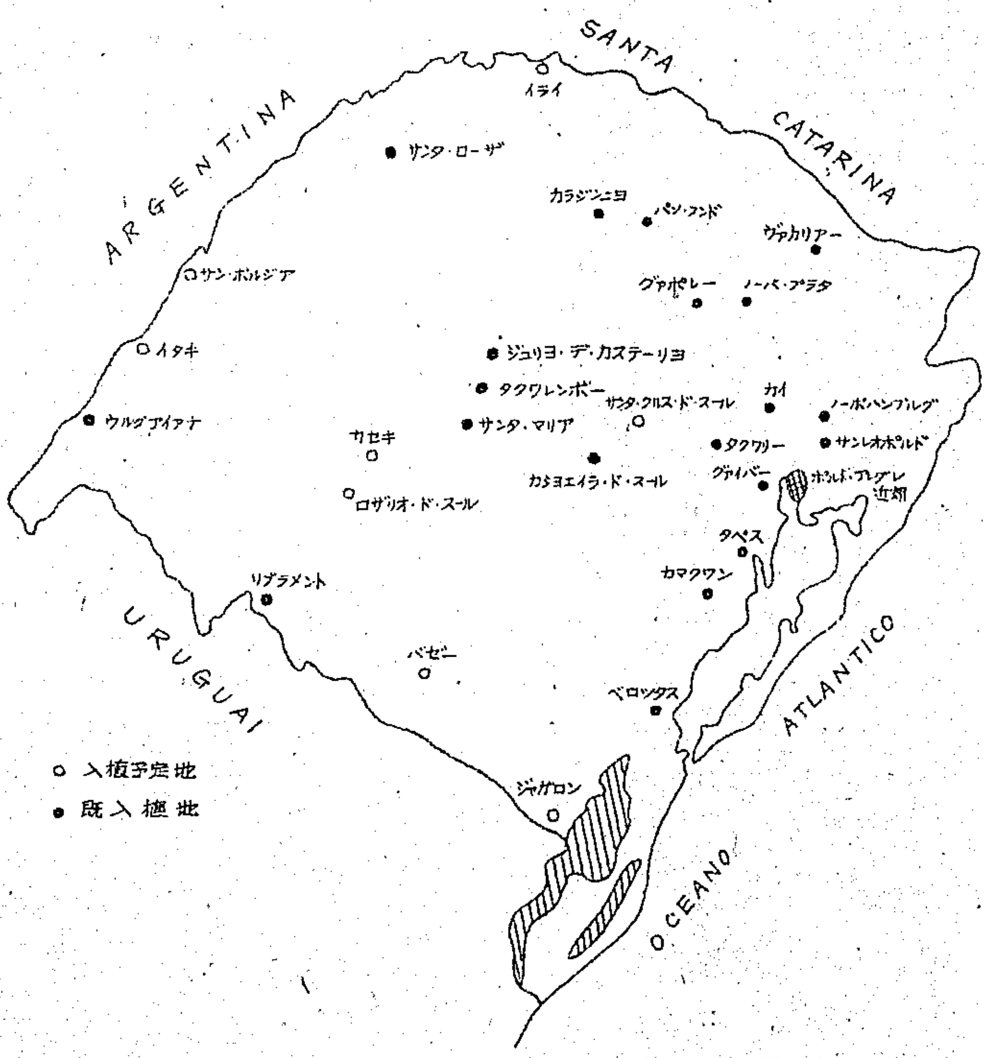
§. リオグランデ・ド・スール州と日本人移住者

（海協連サンパウロ支部ポルトアレグレ事務所の報告による）

(1) リオ・グランデ・ドスール州日本人入植者数一覧表

入植者数	戦前既住者				戦後入植者				戦後着伯他州より入植				合計			
	家族数	人員	単身	計	家族数	人員	単身	計	家族数	人員	単身	計	家族数	人員	単身	計
ペロツタス	16	90	1	91									16	90	1	91
リオ・グランデ	3	25		25	1	2	4	6					4	27	4	31
リブラメント					6	38		38					6	38		38
ウルグアイアーナ					5	34	2	36					5	34	2	36
サンタ・マリア	1	8		8	12	54		54			2	2	13	62	2	64
タカレンボー					3	20		20			1	1	3	20	1	21
ジュリヨ・デ・カステーリヨ					3	14		14					3	14		14
カショエイラ・ド・スール					2	12		12			1	1	2	12	1	13
カマクワン					19	110		110	1	5		5	20	115		115
グアイベ	1	5		5			4	4	1	5		5	2	10	4	14
カイ					2	15		15			1	1	2	15	1	16
タクワリー					4	28		28					4	28		28
ガポレー					1	4		4					1	4		4
ヴアカリア	2	9		9	1	5		5	1	5	2	7	4	19	2	21
ノーバ・プラタ					1	5		5					1	5		5
カシアス・ド・スール	2	10		10	2	8		8					4	18		18
ノーボ・ハンブルグ					1	7		7					1	7		7
カラジンニヨ					1	8		8					1	8		8
サン・レオポルド	6	42		42	2	12	3	15			1	1	8	54	4	58
ポルトアレグレ近郊	34	203	2	205	27	133	48	181	4	16	15	31	65	352	65	417
合計	65	392	3	395	93	509	61	570	7	31	23	54	165	932	87	1019

(2) 南大河州日本移住者入植地々図



§ リオ・グランデ・ド・スール州の農業

（サンパウロ支部ポルト・アレグレ事務所の報告による）

1　一般概況

現在約170家族がポルト・アレグレ市を中心として31地域にわたる州内の各地に点々と分散して入植定着している。（移住地資料106頁参照）　これは営農上の色々の観点から、同一地域に多数の家族が入植出来ない事を示しており、コーヒ、棉作、馬鈴薯等同一個所に多数の家族を必要とする営農形態をもつサン・パウロおよびパラナ両州と比較して自然的社会的にその条件が異ることがわかる。

2、作　　物

(1)　蔬　菜

リオ・グランデ・ド・スール州邦人在住者の99％は農業者でその90％を蔬菜栽培者が占めている。現在伯人耕主が邦人農業者に希望するのは殆んどがこの蔬菜栽培である。最近はこれに加えて果樹・養鶏の経験者を強く希望している傾向がある。

栽培地は主として都会周辺のシャカラ地帯である。生産物は都会の消費地に供給するが、附近に大消費都市が少ないため多数家族が入植して生産する場合忽ち生産過剰を来す恐れがある。又都市と都市との距離が相当離れており、この間に適当な消費地がないため、生産物を離れた消費地に輸送しなければならず、この場合には運賃がかかるため野菜の価格が高くなければ採算がとれない。これも同一地域に多数の家族を導入出来ない理由の1つである。

(2) 果樹栽培の可能性

この地の果樹栽培はブドウを除くと一般にまだ幼稚で生産される果実の品質も極めて粗末であつて生産も少く高価である。邦人移住者で土地を所有し独立して果樹栽培をしているものが少数あるがいずれも良い成績をあげている。気候の関係から品種（例；桃、あんず等）によつてはサンパウロの市場になくなつた頃に搬出している。輸送の点については、飛行機で送つても採算がとれるが最近は道路と自動車の便が良いため、多量に搬出する場合には、航空料の半額で市場に出せるようになつた。近い将来に邦人移住者が独立して果樹栽培に進出する余地は充分にある。しかしこの場合にも果樹単作に片寄らせず、雑作、或は小規模な養鶏を平行して行う多角的営農が必要で殊に山岳地帯の降霜のおそれのある所では尚更のことである。

(3) 米の歩合作

米の歩合作をしている移住者はまだ極く少数であるが、最近漸くカマクワン地区で新移住者が始めており、非常に成績がよく将来を期待されている。

歩合作の場合、耕主が完全な排水設備をする場合には耕主が収穫高の30％をとり、排水設備と肥料をも耕主側が負担する場合には収穫高の50％づつという好条件である。概して大農法で出来工合に非常にむらがあるようであるが、邦人移住者がその技術を生かして大いに改良すれば必らず増産されるものと期待されている。今年度入植が予定されているカショエイラ・ド・スールでは3・4家族が一部水田を行うことになつており、

その結果如何は、この地方が南米オノの米作地帯であることから非常に注目されている。

(4) 養　鶏

この地方の養鶏はまだ貧弱なものでこの方面への進出の余地は充分ある。現在積極的な養鶏、殊に卵を目的とする養鶏を行っている者は稀であり、それも極く小規模である。ポルト・アレグレ市郊外で中国人が大規模に養鶏を営んでいるが、之も産卵させるのが目的でなく鶏肉専門の経営を行っている。最近伯人で従来鶏卵を目的として飼育していた者が規模を縮少したり、中止したりしているが、これは、

① 飼料が高価であること。

② 養鶏技術が低いこと。

③ 地卵に圧されていること。

等の理由によるものである。特に地卵については、通称 ovo colonial と呼ばれ都会附近の小規模農業者(シチアンテ)が少数の鶏を野放し的に費用をかけずに飼育し産んだ卵を買い占め、時にはこれを冷蔵して必要に応じ市場に出している。この組織の地盤は非常に強固で一朝一夕に崩れそうもなく一般の養鶏家は完全に押されている。しかしながら ovo colonial には規格がなく古卵が多いが、価格はグランヂヤ(農場)のものより安い。これに対し最近養鶏の経験者を得て産卵を目的とする養鶏を企画している資本のある耕主が出て来ているが、問題は適格農業者がなく行き悩んでいることである。受入希望者が養鶏に経験のある邦人移住者を希望するのはこのような理由から

である。

3. 移住者の雇用条件

この地方における移住者の雇用条件は、その大半が蔬菜栽培を主体とする分益農を対象とするもので、各入植地の状態或は作物の種類により異るが、大体共通であり、新移住者に非常に有利な点が多く、渡伯後間もなく、即ち1・2年で経済的に基礎を固めていることは、一寸他州の邦人入植地に見られない現象である。特に単独青年の独立の早い事は予想以上である。

(1) 分益法

土地、施設（農具類も含む）ならびに農作物の種類により異るが、住宅は必ず提供されるものとし、

㋑ 全ての費用を差引き純益の折半或は4分（耕主）6分（移住者）

㋺ 全ての費用を半額づつ負担し純益を折半

㋩ 種子、肥料を地主負担で純益を折半

例外はあるが大体以上三通りである。

(2) 融資

移住者との雇用条件を定めた契約書の中で融資は、普通前貸の形式で

㋑ 生産物出荷迄食料及び必需品を貸与し、その後収穫期毎に精算する。

㋺ 1年間毎月家族の状態により一定額を支給する。

の二つの方法で実施されているが、実状を見ると前者㋑が成績よく後者㋺は負債を増しているようである。

大体において耕主は牧場を所有している関係上化学肥料の購入経費は別として堆肥は殆んど無償で使用出来るので、この点がこの地区の移住者にとつて非常に有利な点である。

(3) 上陸港より耕地までの運賃

移住者受入契約の場合、上陸港から耕地までの経費は通常呼寄人、すなわち耕主の負担となるが、このリオ・グランデ・ド・スール州では目的地までの汽車の便が悪いため、主として貨物自動車を利用する場合が多く、これに要する費用は耕主に意外の負担となつている。また汽車を利用すれば、トラック便にくらべ、運賃は非常に安価となるが、荷物到着まで相当の日数を要し、多くの場合駅より耕地までは、トラック運搬することとなり、いずれにしても少なからざる負担である。

したがつて、もし万一移住者自身の都合で契約期間中に退耕する場合には、当然運賃は耕主に支払わなければならない。

§ リオグランデ・ド・スール州内入植地営農状況

（サンパウロ支部ポルト・アレグレ事務所の報告による）

1．定着状況

定着状況　　註（ ）内は単独青年

	サンペドロ近郊		リブラメント近郊		サンタ・マリア近郊		カマクワン近郊	
	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員
入植者数	33(4)	195	7	39	25	150	18	116
現在者数	—	—	7	39	18	108	16	103

2．営農状況

(イ) 作付面積　　（単位 ヘクタール）

		成績の良いものの作付面積	標準的なものの作付面積	成績のよくないものの作付面積
リブラメント	畑の場合	4	3	2.6
	水田の場合	10	（米作は1例に過ぎない）	
サンタマリア	畑の場合	4	2	1.5
	水田の場合	—	—	—
カマクワン	畑の場合	4	2	1
	水田の場合	23	15	（米作は2例のみ）

(ロ) 主要作物の作付面積：

サンタ・マリア，リズラメント，カマクワンとも主要作物はトマト，アルファセ（チシャ）を中心とする蔬菜であるが，一般標準作付面積は，トマトは耕地の2分の1（0.5 ha～1 ha 内外），アルファッセは耕地の4分の1（0.5 ha～0.3 ha）というところである。

残りの耕地にはキャベツ，人蔘，玉ねぎ，等を栽培している。なかには，昨年度の好成績に気を好くし，全耕地にトマトを作付しているものもあるが，これは極めて危険なことでその結果が気づかわれている。

なお米作を行っている者はカマクワンに2例，リズラメントに1例あるが，いずれも水稲を専業的に作っており，蔬菜栽培は行っていない。

(ハ) 主要作物の収量(ヘクタール当り収量

地区及び作物名		標準的収量	特に成績のよい例	備考
リブラメント	米	80俵(籾)	100俵(籾)	機械によるバラ蒔き 播種10月・11月, 収穫5月・6月
	トマト	20,000kg		播種8月～12月(最適な時期) 収穫12月～4月(〃) 但し1年中播種し収穫している。 アルファンセは1月～7月に収穫するのが最適である。
サンタ・マリア	トマト	20,000kg		リブラメントと同じ
カマクワン	米	80俵(籾)	110俵(籾)	リブラメントと同じ
	トマト	20,000kg		

(ニ) 所有家畜数

各地区移住者とも極めて手のかかる蔬菜栽培に従事しているため，ほとんど家畜を所有していない。しかし，なかには自家用として野放しで鶏を数羽飼つているものもいる。

3. 営農収支概算

(1) サンタ・マリア地区 (成績上位のもの)

家族数 5名 稼働力 3

入植年次 1958年

耕作面積 4ヘクタール

歩合 移住者70% 耕主 30%

(1958年7月〜1959年6月)

収入			支出		
野菜売上高	220,000 クルゼイロ	(550.0 千円)	生活費	54,000 クルゼイロ	(135.0 千円)
			種子代	3000	(7.5)
			肥料代	12,000	(30.0)
			人件費	4000	(10.0)
			雑費	5,000	(12.5)
			農機具代	12,000	(30.0)
			馬車購入費	18,000	(45.0)
			歩合支払高	52,000	(130.0)
			故国送金	30,000	(75.0)
合計	220,000	(550)	合計	190000	(475)

差引残高 30000 クルゼイロ (75,000円)

サンタ・マリア（成績下位のもの）

稼働力 2

耕作面積 1.5ヘクタール

歩合 移住者 70% 耕主 30%

（1958年7月～1959年6月）

収入			支出		
野菜売上	90,000 クルセイロ	(225.0) 千円	生活費	35,000 クルセイロ	(87.5)
			肥料代	5,000	(12.5)
			種子代	1,000	(2.5)
			雑費	6,000	(15.0)
			移移費	3,000	(7.5)(註)
			器具費	2,500	(6.3)
			歩合支払	22,000	(55.0)
			送金	5,000	(12.5)
合計	90,000	(225.0)	合計	79,500	(198.8)

差引残高 10,500クルセイロ（26,200円）

(註) サンタ・マリア管轄内である。

(2) カマクワン地区　（成績上位のもの）

家族数　6名　　稼働力　3

入植年次　1958年

配分面積　50ヘクタール　耕作面積　25ヘクタール

（1958年7月～1959年6月）

収入			支出		
米収入	(註) 389,000 クルゼイロ	(972.5) 千円	生活費	60,000 クルゼイロ	(150.0)
家畜収入	4000	(10.0)	食費	45,000	(112.5)
雑収入	10,000	(25.0)	その他	15,000	(37.5)
			営農費	168,000	(420.0)
			施設資材費	24000	(60.0)
			農具購入	17,000	(42.5)
			その他	7,000	(17.5)
合計	403000	(1007.5)	合計	276000	(690.0)

差引残高　127,000 クルゼイロ（317,500円）

(註)　これは耕主に歩合を支払った残高、即ち移住者の手取金である。

カマクワン地区　（成績下位のもの）

家族数　4名　　　稼働力　2

入植年次　1958年

耕作面積　1ヘクタール

（1958年7月～1959年6月）

収入		支出		
野菜売上げ	47,000 フルゼイロ（117.5 千円）	生活費	30,000 フルゼイロ	（75.0 千円）
		種子代	1,600	（4.0）
		肥料代	7,000	（17.5）
		運搬費	1,200	（3.0）
		医療費	5,000	（12.5）
		歩合支払	15,000	（37.5）
		雑費	3,000	（7.5）
合計	47,000（117.5）	合計	62,800	（157.0）

差引損失　15,800 フルゼイロ（39,500円）

（註）野菜の適地が少なく、また労働意欲がないため収穫に恵まれない。

(3) リスラメント

家族数　7名　稼働力　4

入植年次　1958年5月

耕作面積　2.5ヘクタール

(1958年7月～1959年6月)

収入			支出		
野菜売上げ	130,000 クルゼイロ	(325.0 千円)	生活費	36000 クルゼイロ	(90.0 千円)
			種子代	2,200	(5.5)
			肥料	5,000	(12.5)
			開墾費	2,000	(5.0)
			農機具購入	4000	(10.0)
			運搬費	2,800	(7.0)
			雑費	5,000	(12.5)
			歩合支払	32,000	(80.0)
合計	130.000	(325.0)	合計	89,000	(225.0)

差引残高　41,000 クルゼイロ (102,500円)

4. 生産物の販売の生活物資の購入

(イ) 生産物の販売方法

主な生産物名		主な販売方法	販売する場合の単位と単価		備考
			単位	単価 (クロセイロ)	
リズラメント	トマト	(註1) a, b	1 kg	15.00~25.00	
	アルファッセ	a, b	1 株	3.00~6.00	
	米	a	1 俵	450.00~550.00	(約1俵 60kg)
サンタ・マリア	トマト	a, b	1 kg	15.00~25.00	
	アルファッセ	a, b	1 株	3.00~4.00	
	人参	a, b	1 束	5.00~8.00	(1束4~5本)
カマクワン	トマト	a, b	1 kg	15.00~25.00	
	アルファッセ	a, b	1 株	3.00~6.00	
	米	a	1 俵	450.00~550.00	(約1表 60kg)

(註1) a = 庭先で商人に売る。

b = 個人が市場に運搬して売る。

(註2) 各地区とも疏菜は、大部分を個人が市場に運搬して売っているが、一部は庭先で商人又は需用者に直接売っている。

町の中心から比較的近いところで営農を行っているものは大部分を庭先で需要者に直接売り、更に他経営者の分を委託販売している例もある。(カマクワン)

然しながら多くの場合は、週に2~3度町にたつフエイラ(市場)に運び販売している。

(ロ) 主なる市場

a) カマクワン

人口 約2,000名

町の中心から最も近いところに住んでいる例

1キロメートル

〃 遠い 〃

30キロメートル

市場から遠い者は，一部を庭先で需要者に直接売り，一部を商人に売っている．又、将来トラックを共同で購入し，ポルト・アレスレ迄進出する計画が立てられている。

b) リブラメント

人口 約35,000名

町の中心から最も近いところに住んでいる例

1キロメートル

〃 遠い 〃

60キロメートル

当地では協力して販売に当っているから値段の協定，搬出等お互いに申合せを行い，兎角悩まされていた現地商人に対抗し成果をあげている。

市場から遠い者は，パトロンに販売を全部依頼している．現在迄のところでは，パトロンが委託販売手数料をとるようなことはなく，生産物の売値に基づいて，六分四分で半年毎に清算している。

c) サンタ・マリア

人口　100,000 名

町の中心から最も近い例は　約1キロメートル

〃　　　　遠い 〃　約12キロメートル

市場への運搬はパトロンからトラックを借りたり，自分の荷車で運搬したりして町のフェイラで販売している。

前述の三地区とも住宅から市場迄の道路はいづれも舗装されているか　または砂利敷きの良い道路で生産物の搬出に困るようなケースは皆無である。

(ハ) 生活物質の購入

(1) カマクワン

入植初年度は

a) パトロンが生活費として月に4～5コントを支給し，入植者が各自附近の市場から購入する.

b) パトロンが入植者の要求に従い現物を支給する。

の2つのケースがあり，各自の都合によりパトロンと話しあって取極めている。

a)は稼働力が比較的少く、又携行資金の少い家族の場合，生活費をきりつめ、残りの金を営農資金に流用したりするのに都合が良く、又自分の好みの食物等を購入することが出来る。

b)はパトロンがパトロン自身及び他のコロノ達の生活物質を一括購入するので、必要物質は安価に手に入るが、パトロンが移住者からの依頼物資を忘れたりする場合が多く面倒を起し易い。

今年度は現在のところ昨年度と同じような購入方法をとつているが，既存の外人運営による組合に全員加入したことから、おいおい直接組合を通じて物資を購入していくものと思われる。

(2) サンタ・マリアではカマクワンの場合と同様な方法により物資を購入していたが，33年度末には大部分の営農収支が黒字となり、現在では自己資金中から各自生活物資を購入している。

(3) リズラメントはサンタ・マリアと同様な過程を経て現在は同地区と同じ方法によつている。

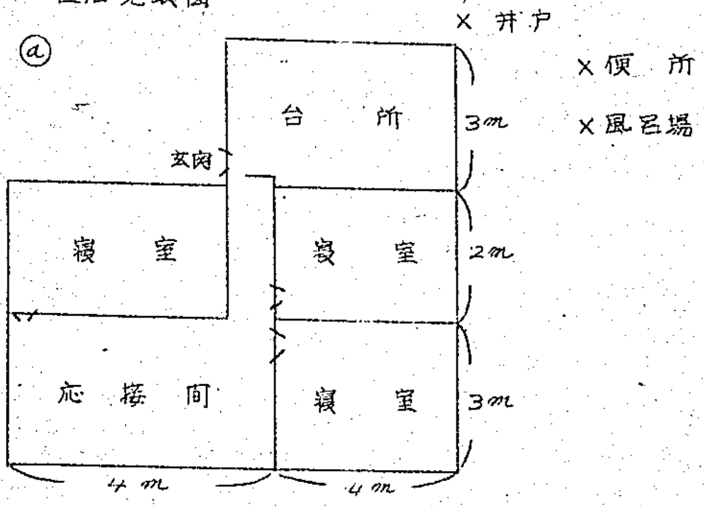
5. 生　活

(イ) 住　居

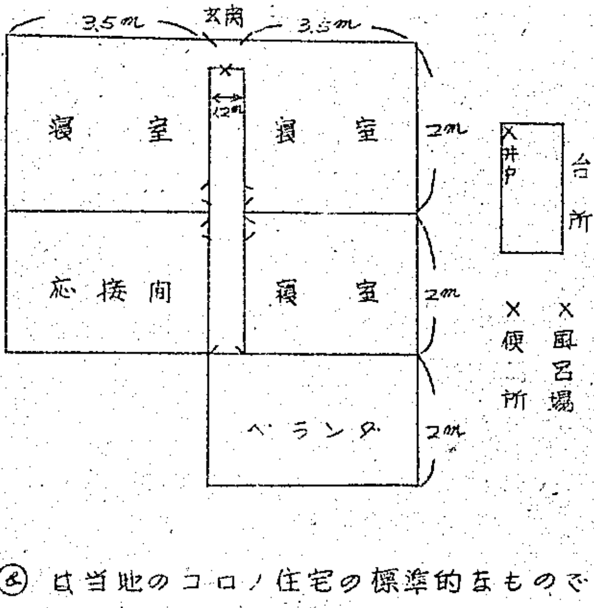
a. 見取図

住居見取図

ⓐ



ⓑ



ⓐⓑは当地のコロノ住宅の標準的なものである。

普通は木造、瓦葺であるが、中に日煉火造りのもある。

これらの住宅は主として被使用者を居住させるために建てたものであるが、比較的間数の多いのが特徴である。

多くの場合、便所及び井戸は家屋の内部又はすぐ近くに設置されているが，風呂場は自分で据付けなければならない。

b，飲料用水及び光源等の設備

飲料用水は各家屋に井戸があり，光源は一部は電気，他はランプである．なかにはパトロンの好意で，わざわざ電気を引いてもらった例もある。（サンタ・マリアの例，費用はパトロン負担）

c，この州では移住者はすべて分益農であるから、パトロンの所有耕地内に家屋を建造した例はなく，各移住者はパトロンがあらかじめ準備している家屋に入っている．

（分益農の場合は，家賃を支払う必要はない。）しかし，各人の好みもあるため、建増し、改造等をする場合が多くまた家財道具（机，椅子，寝台等）も準備されているものでは不足することが多いから，大工道具を持参してきた方が良い。普通パトロンは建増し，改造，家具の製造に要する材料は提供してくれるが，労力及びそれ以上の金銭的支出は行なわない。

d，建築材料

木造，石造，煉瓦造り等があり屋根は瓦ぶきである．

(ロ) 教　育

a) 小中学校の児童は，大部分当地の小学校低学年に編入さ

れる。当初3ヶ月〜6ヶ月は言葉がわからず相当苦労し、高学年の者の中には、低学年児童と同じクラスで勉強しているにも拘らず、途中で脱落する者が多い。然しながら、当地の子供と比較した場合、日本人児童は理数科目面では特に優秀な成績をおさめており、大部分が半年後には日常会話に不自由をきたさぬ程度にブラジル語を解するようになっている。

今のところ中学に進学している者はサンタ・マリアに一例があるに過ぎない。授業内容は小、中学何れも日本と比較して程度が低い。

文房具・本の購入等に要する年間支出は児童1人に対し約300クルゼーロ〜500クルゼーロ位である。

なお、学校が自宅から最も遠い例は、約5キロである。

(ロ) 現在の教育の問題点

通学上の困難

市郊外には、分教場があるが、こゝは小学3年程度迄の児童を教育し、3年以上の学童は、市内の学校に通学しなければならない。今のところ入植後の時日が浅く、移住者の子供は大部分が低学年に編入されているので、問題はないが、明年頃から通学上の問題に頭を悩ます父兄がでてくるものと思われる。

(ハ) 医療衛生

a. 入植者の健康状況

当地は気候が日本と類似しているためか大部分の健康状

態は良い。

特記すべき風土病はない。

b，リオ・グランデ・ド・スール州は全般的に医師が配置が良く、また移住者は大部分が都市の近郊に居住して蔬菜栽培を行つているので．急患の場合にも時間的には充分間に合う所に医者が居住していると見てよい。

c．問題点

医療．衛生費用が高いこと。

例．初診料	Cr$ 500.00～800.00	(1,250円～2,000円)
盲腸手術	最低 Cr$ 3,000.00～Cr$ 5,000.00	(7,500円～12,500円)
出産	同上	
抜歯	最低 Cr$ 150.00～200.00	(375円～500円)

したがつて家族内に入院手術等を要する病人がでると．支出もかさみ．また稼働力も減少するから、立ち直るまでに半年から1年の期間を要する。

（パトロンによつては医者の手配から．医療費の貸与までしてくれる場合もある。）

6．移住者の組織

(a) カマクワンでは，移住者は本年5月既存の外人組合に加入した，現在迄のところ．移住者は組合から何等の恩恵も受けていないが，事情がわかり．また．言葉も理解できるようになれば．今後は期待できる．

サンタ・マリアでは組合結成の動きはあるが、未だ結成されるまでには至っていない。

ポルト・アレグレでは市内及び近郊邦人で結成された日本人会で組合結成の話もでたが、指導者が旧移住者で、すでに自分達の購買及び販売網を有しているため、組合の必要性を認めず、組合結成の意志をもっていない。

リブラメントでは販売組合結成の動きがみられたが、まだ正式な組合法人としての組織にまでは発展していない。しかしながら、販売申合せ及び協力団体として、従来の外人商人の独善的な市場独占に対抗し、相当の成果をあげている。

(ム) 現在のところでは新移住者が既存の外人の組合に加入したり、新組合を結成したりしても、言葉がわからないので組合の運営利用等を円滑に行うのは難かしい。

7. 営農及び定着の見通し

イ) この地方の営業形態は蔬菜、果樹、米作(水田)及び養鶏の分益農を主とするもので、日雇又は給与による例はきわめて僅かである。(カマクワンにサンパウロから移動してきた単独青年3名が給与にて就労しているが、同時に就労時間以外の時間を利用して歩合で蔬菜栽培を行っている。)

分益農は初年度の場合、4分6分(移住者取分)又は、5分5分で、パトロンは移住者の生活費を前貸し、肥料、種子、農機具等の必要支出分については、収穫後折半して負担する。

なお、サンタ・マリアでは7分(移住者取分)3分の好条件で入植している例(3例)もみられるが、これは極めて恵

まれた例と云えよう。

第２年度になると、初年度に収益の大きかつた移住者は、生活費はもとより、肥料、種子、農機具等、営農に必要な支出をパトロンを煩らわすことなく、移住者が全部又は一部を負担し、７分３分と条件を良くして分益することとなる。この場合、生活費を除く、他の営農必要支出は、収穫後パトロンと折半するのは言うまでもない。

更に収益をあげていけば、借地農又は独立農として発展するわけであるが、今迄のところ旧移住者を除いて借地農の例は新移住者の中にはみられない。然しながら、サンタ・マリアでは、本年末頃迄に土地の購入（３ha～５ha）の見通しをつけているものもある。

(ロ) 昨年度から今年度にかけ、全般的に新移住者の営農成績が良かつたため、サン・ペドロの全員還耕の例を除き、この１年間のリブラメント，サンタ・マリア及びカマクワンの定着率は８０％の高率を示している。

その他、前記耕地以外に、呼寄で入植している移住者の例を加えると、定着率は９０％以上にのぼるものと思われる。

しかし，分益農の性格から云つて１耕地での定着は２年から３年が普通であり、本年度あたりから、言葉、事情等を理解し、経済的にも力を蓄えた移住者は、よりよい条件の分益農・借地農又は独立農として，移動、発展していくものと思われる。

8．今後の移住者の受入見込

大量に移住者を1耕地に導入することは，サンペドロ及びジュスチーナ耕地等の例から判断し，極めて危険である。

したがつて、現在のところ小数家族を州内の主要な各都市近郊に除々に導入し、これを養成する方針をとつている。

将来，このようにして，この州全域にわたり分散的に導入された移住者が、各地で強固な基礎を築きあげていけば，これら移住者のあつせん，指導により，日本から更に多くの移住者が安心して後続することは必至であり，現在のサンパウロのように，あるいは当地のドイツ，イタリア系移民のように，先住の移住者が呼び水となつて、後続の日本人移住者を，ブラジル人から歓迎されながら，州内全域に浸透させていけるものと思われる。

また、この地方の外人耕主達は、日本人農業者の養鶏及び果樹手入れ技術を高く評価しているので今後はこうした方面への進出も大いに期待される。

§. パラグアイ国チャベス・フラム入植地の営農状況

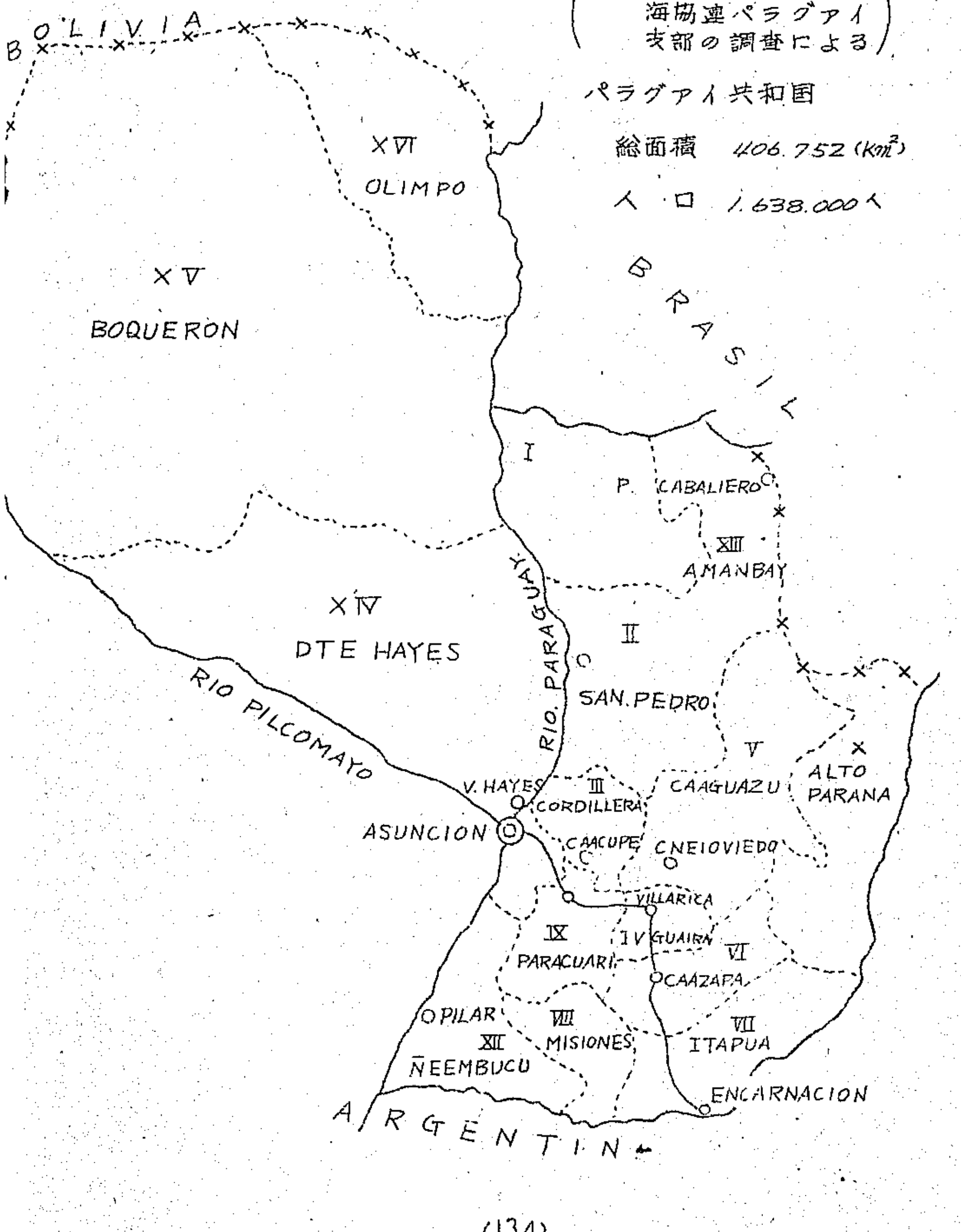
1. パラグァイ国略図

(昭和34年8月 海協連パラグアイ支部の調査による)

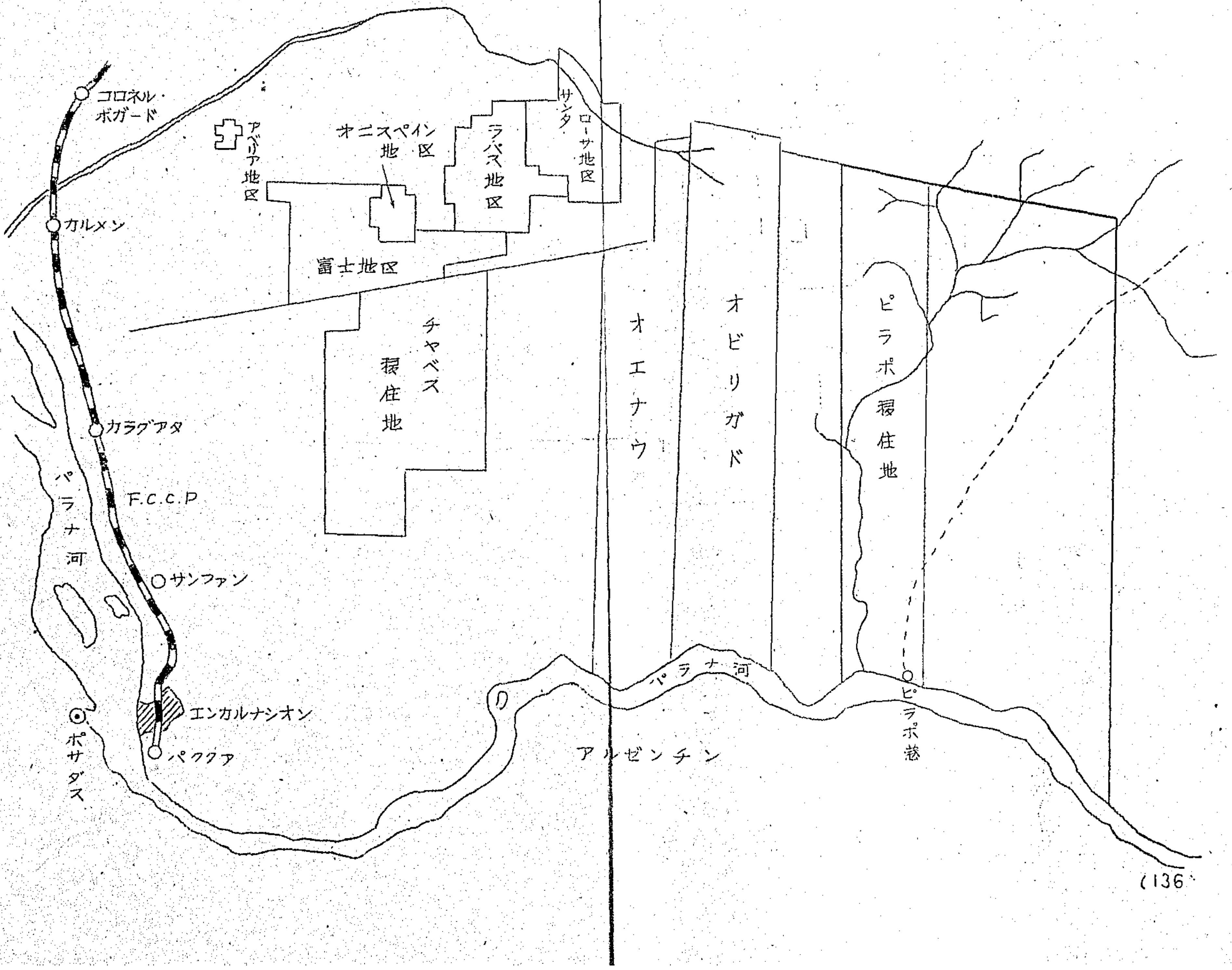
パラグアイ共和国

総面積 406.752 (K㎡)

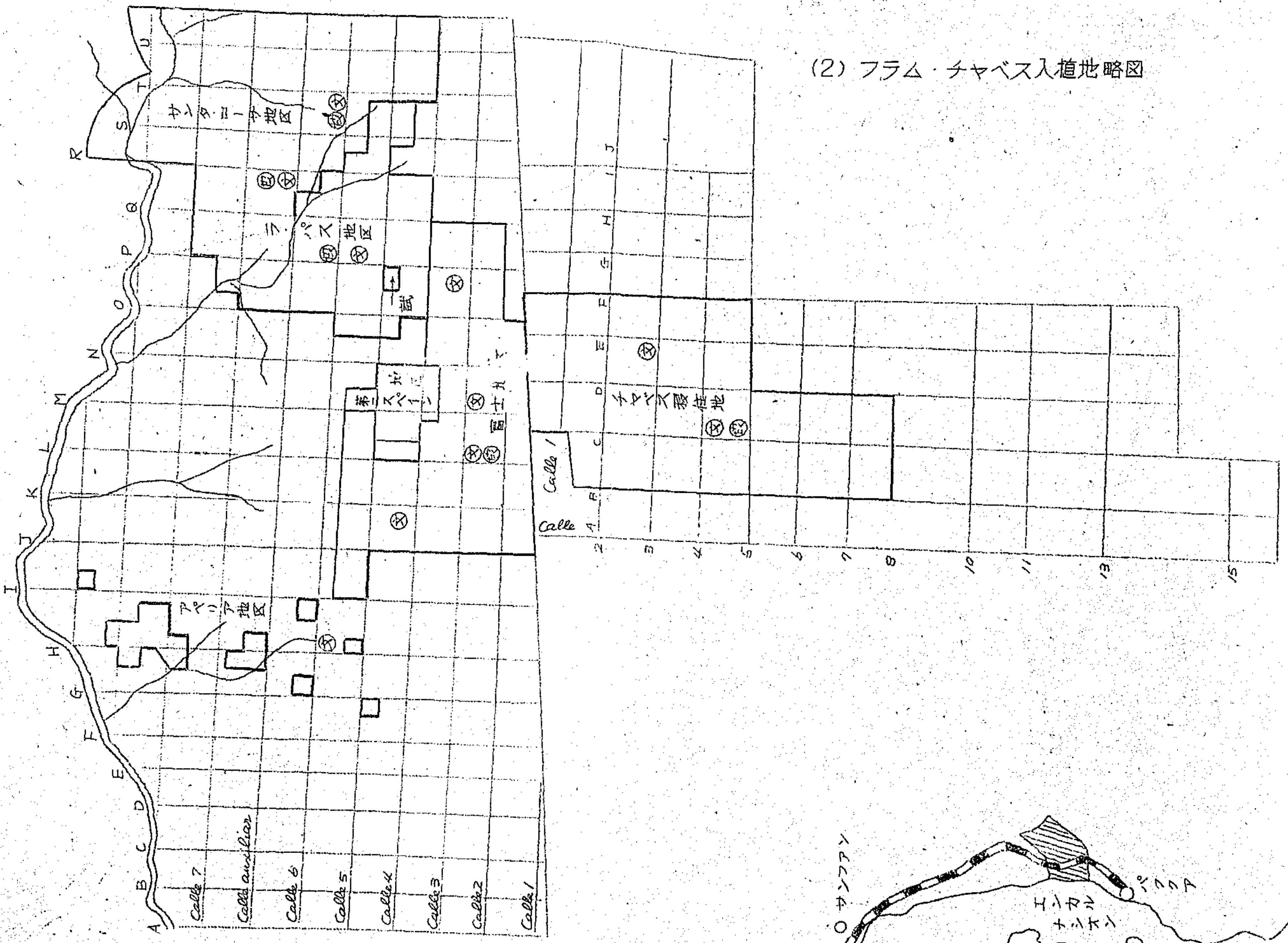
人口 1.638.000人

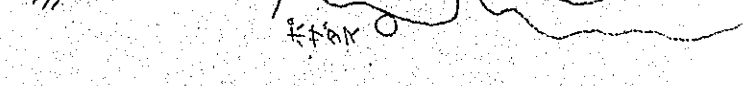


(イ) フラム・チャベス・ピラポ地区位置図



（2）フラム・チャベス入植地略図





3. 入植、定着状況

(イ) 入植状況（昭和34年6月調べ

	チャベス		富士		サンタ・ロサ		ラ・パス		合計	
	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員
昭和29年度	28	184	–	–	–	–	–	–	28	184
〃 30 〃	61	413	22	140	–	–	–	–	83	553
〃 31 〃	1	9	49	321	21	137	29	192	100	659
〃 32 〃	2	12	32	208	54	371	39	243	127	834
〃 33 〃	1	5	21	122	39	226	44	258	105	611
〃 34 〃	2	11	9	63	10	68	3	23	24	165
合計	95	634	133	854	124	802	115	716	467	3,006

(ロ) 定着状況（昭和34年6月調べ）

	チャベス		富士		サンタ・ロサ		ラ・パス		合計	
	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員
入植	95	634	133	854	124	802	115	716	467	3,006
現在戸数	123	578	145	666	134	805	122	558	524	2,607
出生		41		57		44		31		173
死亡		4		9		5		7		25

524 2,755

4. 開拓営農状況

(イ) 地 目 別 （昭和34年6月調べ）

（単位 ヘクタール）

	チャベス	富 士	サンタ・ロサ	ラ・パス
土地所有面積	3.370	4.270	6.000	2.645
林 地	2.902	3.724	5.122	2.240
草 地	263	265	427	231
道 路	101	123	178	81
低 地	104	158	273	93
合 計	3.370	4.270	6.000	2.645
開墾面積	1.200	1.320	1.300	552

(ロ) 年次別開墾面積（昭和34年6月調べ）

（単位ヘクタール）

地区 / 区別 / 年次	チャベス				富士				サンタ・ロサ				ラ・パス			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
昭和29年度	260.6	7	3.5	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
〃 30 〃	545.6	9	2.5	1	139.6	6	3.6	1	−	−	−	−	−	−	−	−
〃 31 〃	230.4	8	2.0	0.5	280.4	5	3	0.6	214.0	4	5.7	3	85	4	2	1
〃 32 〃	86.0	7	1.5	0.5	195.5	3	2	0.5	528.4	3	3	2	195	2	1.2	0.5
〃 33 〃	49.2	5	1	0.5	108.5	2.5	1	0.3	395.6	2	2	1	225.4	1	1.5	0.3
〃 34 〃	28.2	4	1	0.5	51.0	1.5	1	0.1	162.0	1	1	1	47	1	0.5	0.2
合計	1,200.-	40	11.5	5	1,132.0	18	10.6	2.5	1,300.-	10	9.7	7	552.4	8	5.2	2

註） A ＝入植者の総開墾面積

B ＝入植者中成績のよいものの開墾面積（１戸当り）

C ＝入植者の中標準的な成積のものの開墾面積

D ＝入植者中成績のよくないものの開墾面積

（二） 主要作物の収量（昭和３４年６月調べ）

（ヘクタール当り収量）

作物名	標準的収量	特に成績のよい例	備考
米	2.000kg	日本式	点播バラ播 4月～5月
小麦	750kg	点播	点播バラ播 1月～12月
マイス	2.000kg	地下5cm最適	條播 12月～1月
マンジオカ	20.000kg	地下5cm最適 土よせ	挿木 2月
棉	700kg	〃	條播 2月～8月
落花生	900kg	〃	條播 12月～1月
玉葱	5.000kg	〃	苗木 11月～12月
豆類	800kg	〃	條播 5月～6月
馬鈴薯	15.000kg	〃	條播 1月～2月
油桐	4.000kg	7m × 7m	苗床 5月～7月
ジエルバ	6.000kg	4m × 6m	床播 6月～7月
ポメロ	30.000個	7m × 7m	苗木—接木 6月～7月
ブドウ	10.000kg	2m × 4m	挿木 12月～1月
煙草	7.000kg	1.5m × 0.8m	苗床 10月～11月

（註） 油桐の収量は6年生のもの

ジエルバの収量は生で6年生のもの（加工して$\frac{1}{6}$減）

煙草の収量は生で、乾燥して1.500kg

(ホ) 所有家畜数 （昭和34年6月現在）

(524戸について)

家畜名	チャベス		富士		サンタ・ロサ		ラ・パス	
	総所有数	1戸当り所有数	総所有数	1戸当り所有数	総所有数	1戸当り所有数	総所有数	1戸当り所有数
馬	307	2.5	362	2.5	202	1.5	171	1.4
牛	61	0.5	72	0.5	40	0.3	24	0.2
豚	1.230	10	1.885	13	1.620	12	1.220	10
兎	-	-	-	-	-	-	-	-
緬羊	-	-	-	-	-	-	-	-
山羊	-	-	-	-	-	-	-	-
鶏	4.305	35	5.800	40	2.430	18	2.074	17
蜜蜂(箱)	24	0.2	73	0.5	-	-	-	-

5. 生産物の販売と生活物資の購入

(イ) 主な市場

エンカルナシオン市が主な市場であり、在エンカルナシオンの中間商人との取引が多く、これらの中間商人、農業協同組合の集めた農産物を外国商人が来て農産物の売買契約して行く輸入商社が主な市場となつている。エンカルナシオン中央市場と云うのがあり、あまり活発な動きを見せていないが、こゝで取り扱われる農産物は棉、落花生は棉会社(ファビリル)、小麦サン ホセ精材所程度である。これらのものも協同組合があつ旋して一まとめにして取り引きがなされる。又、個人とも取引も行われる。

一方イタプア農牧協連(昭和34年2月25日発足)はフラム、チヤベス地区単協の農牧連として、米、棉、落花生、小麦、マイスを指定農産物として共同出荷を取扱つている。

昭和33年度産マイスは、ブエノス・アイレス市 コンチネンタルCo.と契約(約2.000屯)したが、これは倉庫渡 3.22 グアラニス平均、すべて欧州向となつている。

エンカルナシオンの人口は約4万6千人、チヤベス迄約33キロ(トラックで1時間)エンカルナシオン市からチヤベス移住地の入口迄国道が通り、これがドイツ人移住地オエナウ、オビリガド、ピラポー、カレンズに延長している。移住地内の道路の状況は振興会社の補修により、完全とまで行かないが完成道路がチヤベスの中央を横断し(Calle D)これがフラム移住地に続いていて(Calle NX3)富士村に出る。
(約50キロ、トラックで2.5時間)これから北方にCalle 3

×Pと Calle 6×Pに行くとサンタ・ロサ(約70キロ・トラックで3.5時間) 又 Calle N×3を南下して Calle Kから Calle 5に出るとアペリア(約65キロ、トラックで3時間)からカルメンに出てアスンシオンへ至る国道に出るとこれがエンカルナシオン市へ続いている。

国道及び移住地内の道路は雨が降ると、すべて24時間交通止になる運搬機関はトラック又は馬車である。

(ハ) 生活物資の購入について

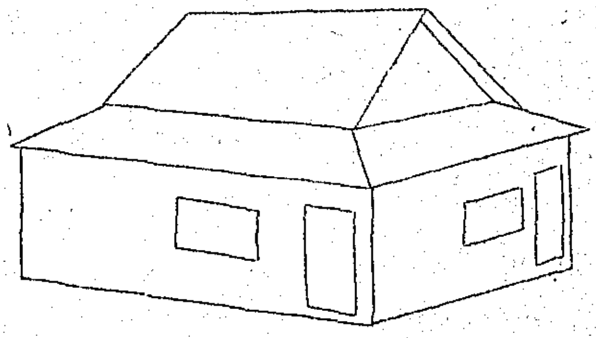
チャベス協同組合は移住者の生活物資のほとんどをエンカルナシオンより取りよせ各移住者又は現地人に販売、その他数ケ所のアルマセンがこれに当っている。

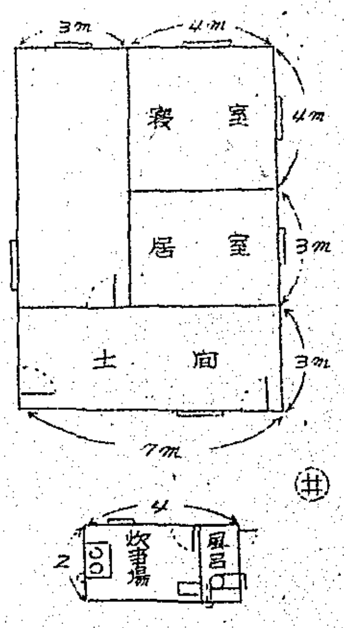
フラム移住地、富士、サンタ・ロサ、ラ・パス農業協同組合はエンカルナシオンにイタプア県農業協同組合連合会の事務所を持ち、ここで生活物資、農機資材その他必要品をアスンシオンより取よせ、各単協に斡旋に当っている。各協同組合(単協)はチャベス同様に販売に当っている。

7. 生　　活

(イ) 住　　居

a. 写真．見取図





b. 飲　料　水

各戸に井戸があり、大体8米も掘り下げればよい飲料水が取得出来る。また各移住地内にたくさんの小川が流れているので一部分の移住者はこれを利用している。

c. 光源についてはランプ生活である。

d. 一戸当建築所要価格　（平均 7m × 10m ）四万グラニス（但し自家製）

e. 主な建築材料　　ラパチヨ（柱用材）、ガタンブ、ロロネグロ（壁、床用材）、テンボ（カワラ用材）、セドロ（採用材）

その他の事項

各移住地に上記材料が豊富にあるため当初仮小屋を作り伐採した後に、これらの用材をえり分けて家を作る（自作）

(ロ) 教　育

○チャベス移住地　D×8、D×5、E×3　その他2校、計5校、日本人生徒数 120名

○富士移住地、アベリア1校、セントラル1　P×3、M×3、K×4　計5校　日本人生徒数 236名

○サンタ　ロサ移住地　サンタ　ロサ・カンポ×5　T×7　計2校　日本人生徒数 185名

○ラ・パス移住地　Q×5.6中間　計1校　日本人生徒数 75名

日本人移住地内又は近辺に計13校の小学校があり、これに日本人子弟は約616名が通学している。教育はそれぞれパラグアイ人教師が当っている。教育の現状はパラグァイ人があまり好学でないため他国に比べて一般に低度である。国語はスペイン語、小学校は義務教育制である。この課程を修了後エンカルナシオン又はアスンシオンの中学（3年）高等学校（3年）

専門学校（4年）大学（6年）である。

現在日本人コロノの負担は教師の俸給と生徒の文具費程度である。元来教師の俸給はパラグァイ政府が負担すべきであるが先生の不足により特別に来てもらつているので援助の名目でこれがなされている。尚現在日本人子弟の日本語教育は行われていないが近い将来には日曜学校の形で始められるものと思われる。

(ハ) 医療、衛生

a. 入植者の健康状況について

一般的に良いが、そのほとんどが外科（傷害）と産婦人科系統の病気である。一部分の移住者は開拓を急ぐむりから来る疲労、開拓地特有の婦人病、気候と食物の急変化より健康をそこなう程度である。医療施設は入植地内に一ヶ所あるが医師が居ないため現在静止の状態であるが、移住者中にある程度の経験を持つている人が何人かいるので軽病はほとんど彼等の手によつて処理されている。（産婦人科6人　内科1、外科3、歯医科1）詳細な診察、入院、手術を要する患者はエンカルナシオン市に慈善病院があり、近年に日本人移住者の利用が増加している。この病院は北米の慈善団体が運営しているのですべて無料である。

8、移住者の組織

チャベス農業協同組合、組合員104名、人員514名によつて組織され、農産物の販売につとめている。今年一期マイスがファン・バード輸出商社と300トン（キロ 3.20 グアラニス）契約、

その出荷も終り、引続いて才二期マイスも同社と300トン（キロ当り4.00グアラニス）の契約を完了している。その他棉、落花生はファビル棉花会社、小麦はサン・ホーセ精粉所に各移住者の農産物販売の斡旋を行っている。その他移住地内の農業生産の増加を指導、組合の購買部で農機資材の斡旋又は生活物資の販売を行っている。

富士農協組合員126名、サンタ・ローサ農協136名、ラ・パス農協105名、エンカルナシオン日本人会44家族については、イタプア農協連が農業生産の増加、永年作物の増植等の指導をなし農産物販売（輸出）を代行している。又購買部で生活必需品の購入、農機材の斡旋等をなし活発なあゆみを進めている。

9. 将来の日本人移住受入の見込み

チャベス、フラムの日本人移住地は現在満植の状態にあるが、今回の才二スペイン地区860町歩の購入によって25家族の入植が予定され、今年中に満植となる。一方アルトパラナ移住地（ピラポー、カレンズー両地区）65,000町歩が購入ずみであり移住地測量、受入造成の進捗に従って明年度より約1,700家族の受入が開始される見込である。

10. フラム移住地 1958年度気象表

観測位置　丁線×6号線

区分／月別	気温(摂氏)					降雨量 mm		降霜		天気日数			
	温度	最高	最低	湿度 最高	湿度 最低	総雨量(月)	最大(日)	初日終日	日	晴	曇	雨	暴風
1 月	28.3	38.5	16.0	31.7	23.0	122	78			19	8	4	
2 月	27.5	38.2	16.2	32.0	21.0	174	96			16	8	4	2回
3 月	25.3	34.5	14.7	30.0	18.8	35	28			14	11	6	
4 月	26.6	31.8	5.4	25.8	13.7	214	124			15	12	3	
5 月	17.9	30.5	2.3	22.1	12.5	58	32	23日	23 24 25	17	9	5	
6 月	18.6	28.3	0.05	22.5	19.5	8	8		19	14	13	3	1回
7 月	18.4	28.0	5.2	22.5	12.0	56.3	21		8	13	14	7	
8 月	14.5	30.6	0.2	18.9	9.2	59	17		4 11 30	10	14	7	
9 月	19.2	36.2	4.9	23.0	13.7	90	48	16日	16	11	12	7	
10 月	20.7	33.8	7.0	27.8	14.6	81	24			13	13	5	1回
11 月	22.4	36.6	7.5	28.8	17.2	208	32.5			13	12	5	2回
12 月	23.8	34.5	12.9	29.8	21.0	104	70			11	17	3	1回
計(平均)	21.9	33.4	7.68			1,209.3			9回	166	140	59	7回

§. CAFE耕地入植営農状況（海協連パラグァイ支部の報告による）

1. 入植定着状況

入植年度	入植者数		現在定着者数	
	戸数	人員	戸数	人員
昭和31年度	54	389	45	278
32	53	347	38	276
33	30	171	26	155
34	—	—		
合計	137	907	109	709

2. 開拓営農状況

(イ) 年次別作付面積（単位ヘクタール）（昭和34年6月現在）

年次	a. 入植者の総作付面積	b 入植者一戸当の作付面積	c 入植者中成績のよいものの作付面積	d 入植者中標準的作付面積	e 入植者中成績の良くないものの作付面積
昭和31	490	2.1	3	2	2
32	481	2	3	2	2
33	139	2	3	2	1
34	—	2	3	2	1
合計	1,110	8.1	12	8	6

（註）平均10町歩契約(14町)

(ロ) 主要作物の作付面積(単位ヘクタール)

作物名	a 入植者の総作付面積	b 入植者1戸当の作付面積	c 入植者の内上位の成績のもの(一戸当)	d 入植者の内中位の成績のもの	e 入植者の内下位の成績のもの
コーヒー	1,100	8.1	12	8	6
玉蜀黍	330	3	6	3	2
米	55	1/2	2	1/2	—
小麦	350	3	10	3	2
大豆	350	3	3	3	1
豆(フェジョン)	100	1	1	1	1
	(註) 主作はコーヒー、他は間作又は余作地、中には余作地のないものもある。				

(ハ) 主要作物の収量(ヘクタール当りの収量)

作物名	標準的収量	特によい成績の例	備考
小麦	700 kg	点播	点播 11月-12月
玉蜀黍	1,500 kg	地下 5cm	條播 12月-1月
大豆	900 kg	〃	條播 5月-6月

(註) 全部コーヒー間作

(ニ) 所有家畜数(1959.6月現在)

家畜名	a 入植者の総所有数	b 一戸当り所有数
豚	350頭	3頭
鶏	1,600羽	15羽
馬	50頭	0.5頭

3．営農収支概算（1958年1月～12月）

家族数　7名　稼動力　4名

開墾面積　10ヘクタール

入植年次　1956年7月

収入	ガラニー	円	支出	ガラニー	円
1.農産物収入	43,050	(129,150)	1.生活費	48,000	(144,000)
トーモロコシ	14,850	(44,550)	食費	36,000	(108,000)
小麦	14,700	(44,100)	衣服費	6,000	(18,000)
大豆	13,500	(40,500)	娯楽費	1,000	(3,000)
2.家畜収入	3,000	(9,000)	教育費	1,000	(3,000)
豚	2,000	(6,000)	医療費	2,000	(6,000)
鶏	1,000	(3,000)	雑費	2,000	(6,000)
3.労働収入（コーヒー手入賃）	30,000	(90,000)	2.営農費	16,500	(49,500)
			種畜種子	3,500	(10,500)
			肥料代	2,000	(6,000)
			人夫賃	6,000	(18,000)
			その他	5,000	(15,000)
			3.施設器材費	6,000	(18,000)
			器具購入費	1,000	(3,000)
			住居費	5,000	(15,000)
合計	76,050	(228,150)	合計	70,500	(211,500)

差引残高　5,550ガラニー（16,650円）

4．市場と生活物資の購入

(イ) 主な市場

主な市場	人口	距離	運搬機関	所要時間
ポンタ ポラン (Ponta Porã)	10,000人	15 km	トラック	30分
ペドロ.ファン.カバレーロ (P.J. Caballero)	8,000人	15 km	トラック	20分
カンポ．グランデ (Campo Grande)	150000人	300 km	トラック 汽車	17時間
サン・パウロ (São Paulo)	3,009000人	1,600 km	汽車	4日間
コンセ リオン (Conce Rion)	30,000人	340 km	トラック	6時間
アスンシオン (Asuncion)	300,000人	400 km	飛行機	1.30時間
		700 km	トラック．船	3日間

(ロ) 生活物資の購入

a) 会社より生活必需品の支給を受ける

b) Pedoro juan Caballero又はPonta Porã にて購入

5．生　活

イ) 住　　居

a) 様式及び寸法：木造．板壁．フランス瓦覆．床板張り．

5m × 8m．寝室2．応接室1．別に台所1

b) 飲料水：井戸又は小川水を利用

c) 一戸当り建築価格：会社所有 40,000（ガラニー）＝資材手間共

d) 主な建築材料：材木．板．フランス瓦．釘．

e) 其の他特記事項

会社が資金難に落ち入ったため，1/3 は掘立小屋に居住して居る。

(ロ) 教　　育

a) 入植者子弟が受けている教育の現況

パ国法律により義務教育（小学校6年生迄 ― スペイン語）を受けて居るため日本で教育を受けた児童も一年生に入学する。授業料は国家経営のため，必要がない。但し月額10グワラニーを収める。学校により先生に特別謝礼として月額20グワラニーを納入して居る所もある。

各耕地に小学校がある。何れも会社で建築しパ国文部省の経営で先生一名，生徒数（日パ人合せて）約80名内外校舎は木造，板，壁，フランス瓦葺で建坪60㎡がある。

b) 教育の問題点

10才～16才迄の間の子供はスペイン語も日本語も中途半端で全く気の毒な立場にある。彼等は午前中スペイン語の学校に行くので午後は日本語の教育を充分にすべきである。

(ハ) 医療衛生

a) 入植者の健康状況；大体健康であるが、労働で無理をするために，日本からの病気が再発したり，怪我をする場合も相当多い，また、油物，野菜，果物等を余り食べず、食物がかたよるため，栄養失調の傾向も見られる。

b) 入植地内及び近辺の医療施設と医師

入植当初は医師と看護卒及び看護婦が耕地内に居住し、夜中でも往診または入院の便宜をはかつてくれ、薬品の無料支給等完備したサービスであつたが、会社の資金が欠乏し、経営難になった現在では、病人はポンタ・ポラン、ペドロ・ファン・カバレーロ等の国立病院又は個人医師に診察，手術を受けており，重病人はアスンシオンの国立病院等で治療を受けている。

6．移住者の組織

a）組合その他移住者の組織の現状及びその活動状況

耕地内在住日本人で日本人会を組織しており，会長，副会長、産業部、教育部、厚生部等があり、また各地区に総務がある。

日本人会は活発に活動し，日本人代表として会社との接渉，農産物の販売，教育，衛生、文化方面に活動している。

b）当耕地在住邦人は4年間のコーヒー労働契約者であるため，4年後には退耕し他に土地を求めることとなる。このため永久的な仕事及び会館の建設はしていない。また永久的な，経済団体である農協も設立していない。

§. カピタン・バード入植候補地調査報告

（海協連パラグアイ支部の報告による）

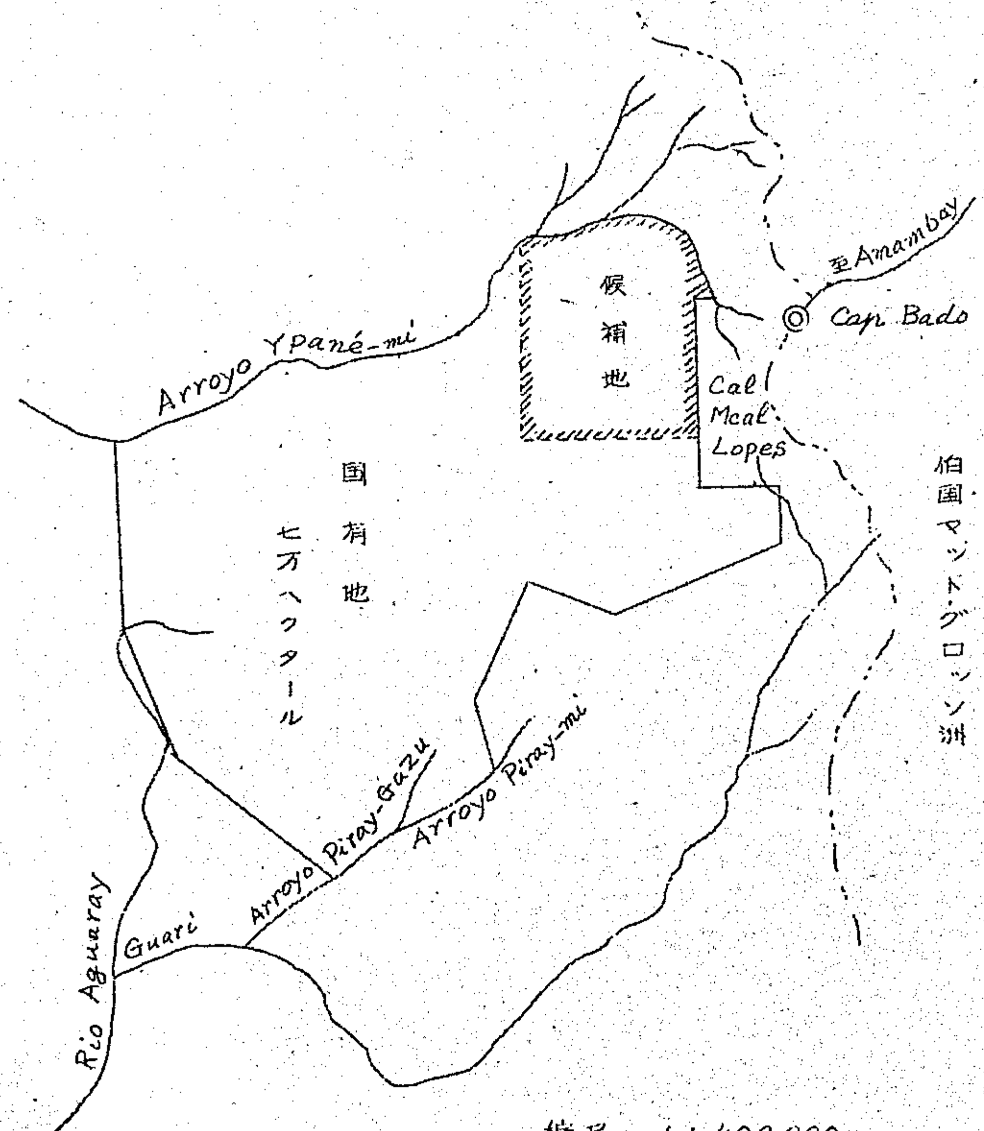
（註）この入植候補地調査は、現在C.A.F.E耕地に入植している移住者が、同耕地での契約完了後、入植することを目的として行われたもので、新移住者を入植させるためのものではない。

1，入植候補地調査を行うに至った経緯

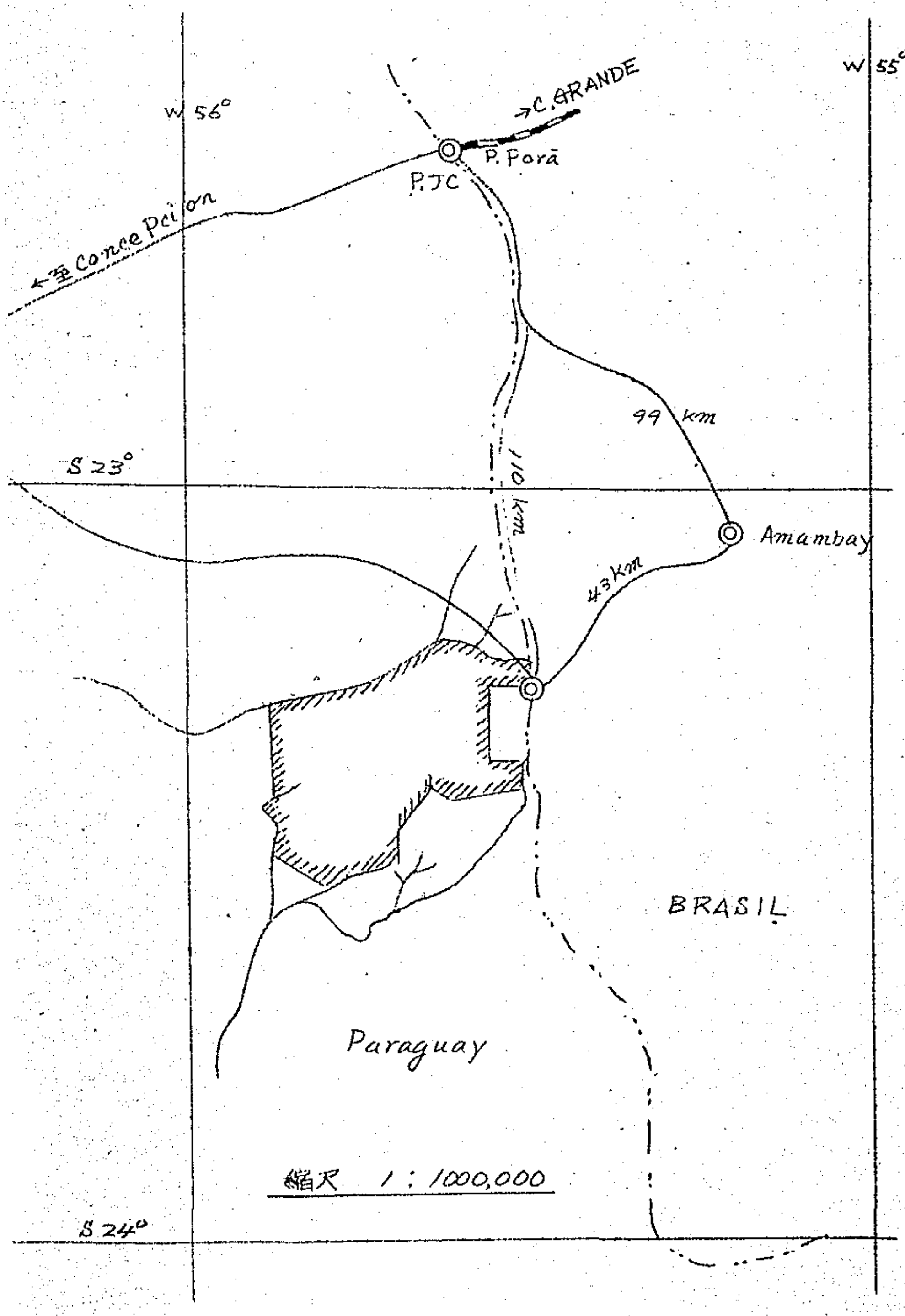
現在C.A.F.E耕地に入植しているコロノ約80家族は会社の如何にかゝわらず、契約完了后の円満退耕を希望して居り、これらコロノの現在の問題は①満期退耕后の入植地問題②コーヒー採種歩合取得の問題が重点である。①項に就いては折角4ケ年コーヒー栽培を習得した事、コーヒー栽培は他作物より有利である事、パ国政府は特にコーヒー栽培に関し法令を出し奨励している事等の諸点から今后の入植地はコーヒー栽培適地である事が必須條件になったため、以上の見地よりコロノ達は候補地を探し求めていた。その結果このカピタン・バード地帯，地味，地形，標高等すべての点でコーヒー栽培最適地であると確認しこれが買収方及び調査方を公使館海協連に要請して来た。その結果今回の調査が行われたのである。

2．入植候補地の所在

パラグァイ共和国アマンバイ県カピタンバード郡



縮尺　1：400,000


W 56°
W 55°
→C.GRANDE
P. Porã
P.JC
←至 Conce Pcion
99 km
S 23°
110 km
Amambay
43 km
BRASIL
Paraguay
縮尺 1 : 1000,000
S 24°

3. 自然的条件

(イ) 位　　置　　南緯 23°30′　西経 55°30′

(ロ) 標　　高　　651m

(ハ) 地　　質　　埴土 テーラ・ロシャ（全地域）肥沃

(ニ) 地　　形　　波上形

(ホ) 植生、林相　　全地域が原始林に覆われ、草原地帯なし。林相はペローバ、セドロ、ラパーチョ樹の生育良好、所々にペローバの純林がある。

(ヘ) 候補地内に河川あり、その間隙は約1,500米、水質良好、小川には岩板が見られるが岩層地帯にはない。

(ト) 風土病　　無し（附近住民談）

以上の条件から見た場合コーヒー栽培の最適地である。霜は多少降りるが霜害は全り無いとの事。

4. 社会的並に経済的条件

(イ) 一般概況

この地帯はパラグァイ国に於けるテーラ・ロシャの肥沃な地帯に属し、且つ標高も高くコーヒー地帯として将来有望な地帯である。現在カピタン・バード町は人口3,500人、附近に政府植民地コロニヤ。マリスカル、ローペス・チャコイ、クリステーノ・マンタ、リンコン・デ・フーリョ等があり、大体伯国との国境に沿い開拓されて居る。主なる作物はマテ茶、マイス、豆類、マンジオカ、甘蔗等で、主なる換金作物はマテ茶で目下コンセプシオン経由アスンシオンに優秀なマ

テ茶を出して居る。他の作物は殆んど自家用である。コーヒーは植民地内に伯国人が昨年植付けたが、生育良好である。住民は純朴である。

尚 カピタン・バード町と道路をへだてて伯国の町アントニオ・ジョアン町がある。商人も殆んどマテ茶を経営して居るのが特徴である。

(ロ) 附 近 都 邑

パラグァイ側 カピタン・バード町、ペドロ・ファン・カバリェロ市。

伯 国 側 アントニオ・ジョアン町、アマンバイ市、ドラード市

(ハ) 市 場 関 係

このカピタン・バード調査に当って最も重視した点は、①自然的立地条件 ②経済的条件 ⑷市場関係 ⑸交通問題である。①項の条件はほぼ満点である、

②項については

⑴ 調査前想像したよりも交通が便利である。即ち伯国側のポンタ・ポラン市、パ国側のペドロ・ファン・カバリェロ市より99キロの伯国アマンバイ市までは国道が殆んど完成しており、アマンバイよりカピタン・バード町までは三級道路であるが、一部分を残して時速40キロでトラックを運行出来る道路で伯国政府は国道建設を計画している。他方パ国側を見ても伯国との国境に沿い、三級道路がある。かつカピタン・バードよりペドロ・ファン・カバリエロ市

コンセプシオン市に至る国道に連絡する道路があるので、生産物の販売に必要な道路は現在のところなんとか間に合うが運賃の点で多少割高になる。

回 市 場 関 係

市場関係は生産物の栽培品種に重大なる関係がある。この入植候補地の栽培作物は

(イ) 主　作　コーヒー及びマテ茶

(ロ) 間作雑作　マイス，フェジョン（豆），大豆，小麦，米
馬鈴薯，その他である。

主作であるコーヒー，マテ茶はコンセプシオン経由，アスンシオン向けで，国内消費または輸出用に向け，雑穀は伯国に販売する。伯国の方がパ国より値段が高価である。且つ現在，伯国，パ国の間には国境貿易があり，目下のところパ国消費向けより値段の点で有利である。

5．所有者及び地価

所有者は政府の所有即ち国有地でＩＲＡ（農業開発局）の管理下にあり，地価は現在400，グアラニス（1ヘクタール）位である。

6．買 収 面 積

現在入植希望者は約80家族，その分家独立を含めて5000ヘクタールを見れば、現在のところ充分であるが，コーヒー耕地コロノ日本人会は10,000ヘクタール買収を希望している。

1個の経済団としては最低10,000ヘクタールは必要である。

7. カピタン・バード市における官庁及諸設備

治安役場，警察署，税務署，パラグアイ銀行支店，郡役所，小学校，厚生省，病院。

小学校は附近の国立植民地にも数校あり，病院は盲腸の手術も可能である。

8. 結　　論

イ）地質，地形等自然的立地条件に於てはフラム入植地以上である。

ロ）市場関係に於ても伯国々境に在るため有利である。

ハ）交通関係に於て現在の処多少不利であるが，今后パラグアイにおける豊庫地帯となり得る地域で，ことにコーヒー栽培の最適地であるから発展の余地は充分にある。

ニ）本候補地の選定は従来の形式と異なり，C.A.F.E耕地在住コロノの熱意ある希望に依るもので，すなわち入植者に主導権があり，且つ獲得後の入植者も既に決定して居る。

ホ）C.A.F.E耕地在住コロノは4ヵ年間にわたり同耕地にてコーヒーの栽培を習得した。この経験を生かしてパラグァイ国における特殊奨励作物であるコーヒー栽培に参画するのも大いに意義がある。

(ヘ) コーヒー栽培適地として附近を調査して見た結果，立地条件，地価，その他の点から見て，カピタン・バードは適地と

見られた。

参考迄にC.A.F.E耕地在住コロノ及び附近在住邦人にて結成したカピタン・バード入植地獲得期成会にて作成した営農計画及び10カ年収支計算表を添付する.

営農計画並びに収支計算十ヵ年分　（入植者一家族を単位とする）

カピタン．バード入植地獲得期成会

初年度　（単位グアラニー）

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
マイス	7,500.-	2町 50俵	コーヒー・3町歩	9,000.-	3,000本植付費
小麦	12,500.-	4町 50俵	伐採開拓費	20,000.-	5町歩分
大豆	6,000.-	1町 30俵	家屋建築費	10,000.-	
			学校施設費	2,000.-	一戸当り割当金
			医療費	1,000.-	薬品代
			道路建設費	2,000.-	道路の一部
			種子代	1,000.-	マテ茶
			借入金利子	3,000.-	5万グァラニー分
計	26,000.-		計	48,000.-	

差引不足額　22,000.-　グァラニス

不足額は自己資金又は借入金より充当

2 年度

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
大豆	10,000.-	1町 50俵	コーヒー植付費	12,000.-	4町. 4,000本
マイス	15,000.-	4町 100俵	伐採開墾費	20,000.-	5町
小麦	16,500.-	5町 65俵	マテ茶植付費	1,000.-	1町 1,620本
米	7,000.-	1町 20俵	借入金利子	3,000.-	
計	48,500.-		計	36,000.-	

差引残金（利益） 12,500グアラニス

3 年度

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
大豆	10,000.-	1町 50俵	伐採開墾費	20,000.-	5町
マイス	15,000.-	4町 100俵	コーヒー植付費	6,000.-	2町 2,000本
小麦	16,500.-	5町 65俵	マテ茶	2,000.-	3町 1,860本
米	7,000.-	1町 20俵	借入金利子	3,000.-	
計	48,500.-		計	31,000.-	

差引残金 17,500グアラニス

4 年度

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
大豆	10,000.-	1町 50俵	コーヒー植付費	6,000.-	2町 2,000本
マイス	15,000.-	4町 100俵	マテ茶植付費	2,000.-	3町 1,860本
小麦	16,500.-	5町 65俵	借入金利子	3,000.-	
米	—	—			
コーヒー	25,000.-	3町 50俵			
計	66,500.-		計	11,000.-	

差引残金　55,500.- グァラニス

5 年度

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
大豆	6,000.-	1町 30俵	コーヒー植付費	3,000.-	1町 1,000本
マイス	14,000.-	4町 100俵	マテ茶植付費	2,500.-	4町 2,480本
小麦	10,000.-	4町 (间作) 40俵	伐採開墾費	20,000.-	5町
米	7,000.-	1町 20俵	コーヒー収穫費	28,000.-	1立1グァラニス 350俵
コーヒー	175,000.-	350俵	除草人夫費	20,000.-	200人 @100.-
			借入金利子	3,000.-	
計	212,000.-		計	76,500.-	

差引残金　135,500.- グァラニス

6 年度

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
コーヒー	400,000.-	800俵	伐採開墾費	20,000.-	5町
マテ茶	5,400.-	5,400kg	倉庫建築費	40,000.-	54m^2(板張り)
小麦	10,000.-	4町 40俵 (間作)	マテ茶植付費	2,500.-	4町 2,480本
米	7,000.-	1町 20俵	牧草植付費	2,000.-	1町種子5kg代
マイス	10,000.-	4町 100俵	コーヒー収穫費	64,000.-	
			除草人夫費	30,000.-	300人 @ 100.-
			コーヒー乾燥場設置費	60,000.-	1000俵分 (煉瓦敷) 板張
			借入金元利支払	5,000.-	
計	432,400.-		計	223,500.-	

差引残金　　208,900 クルゼイロ

7 年度

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
コーヒー	515,000.-	1,030俵	伐採開墾費	5,000.-	1町
マテ茶	5,000.-	5,000キロ	コーヒー乾燥場	50,000.-	
			牧草植付費	2,000.-	1町5キロ種子代
			コーヒー収穫費	82,000.-	1,030俵
			除草人夫費	30,000.-	300人@100.-
			借入金元利支払	5,000.-	
計	520,000		計	174,000.-	

差引残金 / 346,000.-グアラニス

8 年度

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
コーヒー	555,000.-	1,110俵	伐採開墾費	5,000.-	1町
マテ茶	25,000.-	18,600キロ	牧草植付費	2,000.-	1町5和種子代
			住宅新築費	100,000.-	1戸分
			コーヒー収穫費	89,000.-	1,110俵
			除草人夫費	40,000.-	400人 @100.-
			借入金元利支払	5,000.-	
計	580,000.-		計	241,000.-	

差引残金　　339,000.-グアラニス.

9 年度

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
コーヒー	600,000.-	1,200俵	伐採開墾費	10,000.-	2町
マテ茶	25,000.-	18,600キロ	コーヒー植付費	6,000.-	2町 7,000本
			コーヒー収穫費	96,000.-	1,200本
			除草人夫費	40,000.-	400人 @100.-
			借入金元利支払	5,000.-	
計	625,000.-		計	157,000.-	

差引残金　　468,000.-グアラニス

10年度

収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
コーヒー	600,000.-	1,200俵	伐採開墾費	10,000.-	2町
マテ茶	64,500.-	64,500キロ	コーヒー植付費	6,000.-	2町 2,000本
			コーヒー収穫費	96,000.-	
			除草人夫費	40,000.-	
			借入金元利支払	5,000.-	
計	664500.-		計	157,000.-	

差引残金　　507,500.- グアラニス

累計

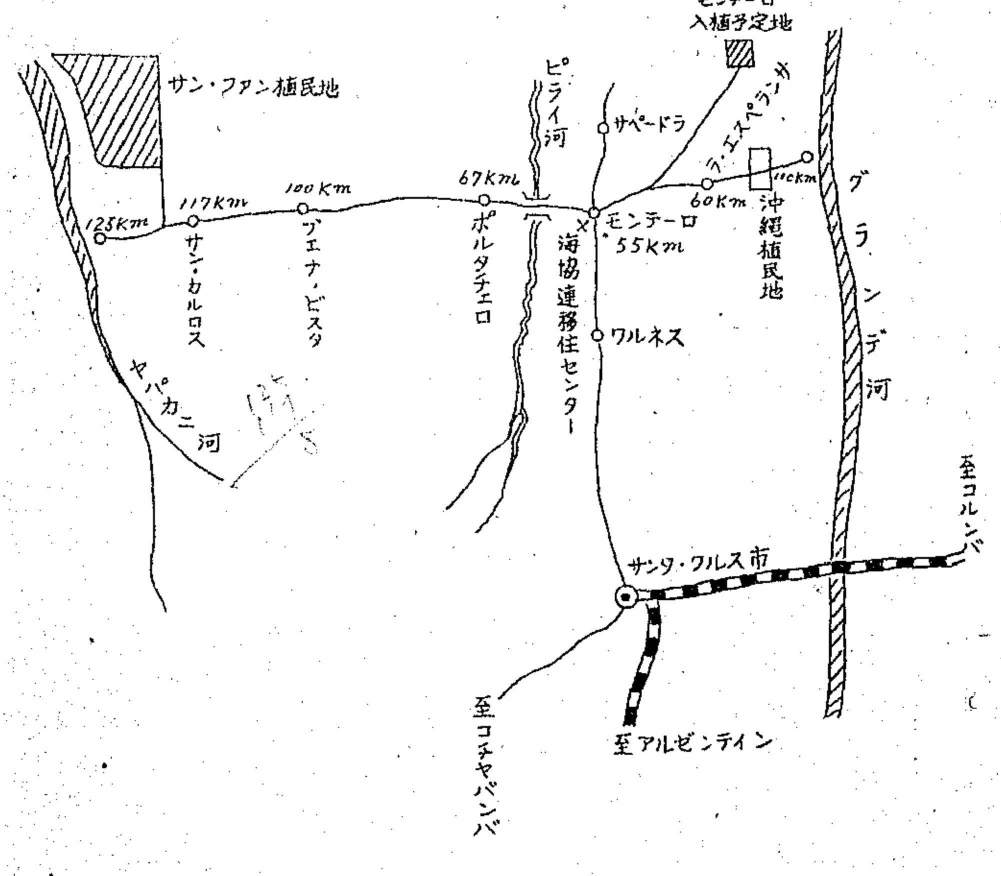
年度別	収入	支出	残額
1年度	26,000.-	48,000	(-) 22,000
2 〃	48,500.-	36,000	12,500
3 〃	48,500.-	31,000	17,500
4 〃	66,500.-	11,000	55,500
5 〃	212,000.-	76,500	135,500
6 〃	432,400.-	223,500	208,900
7 〃	520,000.-	174,000	346,000
8 〃	580,000.-	241,000	339,000
9 〃	625,000.-	157,000	468,000
10 〃	664,500.-	157,000	507,500
計	3,223,400.-	1,155,000	2,068,400

十ヵ年目の農場

1. 開墾面積	31ヘクタール
2. コーヒー	16 〃
マテ茶	15 〃
3. 住宅	一戸
コーヒー乾燥場	二棟
倉庫	一棟
4. 資産	
現金	2,068,400グアラニス

§ サンタ・クルス地域における農業の状況

サンタ・クルス周辺図



(1) 概　況

サンタ・クルス地域の総面積は約8000平方粁で，主な生産物を有する次の三つの地区に区別することができる．

1. モンテーロから北西の米栽培地帯
2. ラ・エスペランサ製糖工場附近一帯の甘蔗栽培地帯
3. ワルネス以南のとうもろこし，綿，蔬菜の栽培地帯

サンタ・クルス地域における主な作物の栽培面積は次のオ1表の通りである。表で見るとおり、とうもろこし・ユカ（マンジョカ）・米が大部分を占め、果樹類の中ではプラタノ（料理用バナナ）の栽培面積がもっとも多い。

第1表　サンタ・クルス地域における農作物の栽培面積ならびに生産量

種　別	栽培面積	生産量
とうもろこし（Maiz）	18.000 町歩	36.000 屯
米（Arroz）	13.043	15.000
ユカ（Yuca）	12.000	180.000
果樹類	4.609	
甘蔗（Caña de azucar）	4.300	117.000
コーヒー（Cafe）	2739	734
牧草	1.800	
綿（Algodon）	600	320
カカオ（Cacao）	409	112
計	57.500	

(3) 気　候

この地方の気候はサベードラ農事試験場の観測によると次の通りである。

第2表 年別・月別雨量表

	1952年	1953年	1954年	1955年	1956年	1957年	平　均
1 月	m.m 342.5	m.m 242.5	m.m 237.5	m.m 545.0	m.m 205.0	m.m 530.0	m.m 283.7
2 〃	252.5	42.5	82.5	95.0	165.0	160.0	132.9
3 〃	60.0	175.0	115.0	142.5	20.0	47.5	93.3
4 〃	17.5	55.0	65.0	85.0	217.5	95.0	89.1
5 〃	17.5	175.0	70.0	65.0	50.0	87.5	77.5
6 〃	155.0	40.0	82.5	40.0	75.0	72.5	77.4
7 〃	0.0	50.0	2.5	62.5	87.5	220.0	29.9
8 〃	0.0	2.5	0.0	5.0	57.5	95.0	26.6
9 〃	112.5	37.5	77.5	0.0	57.5	–	89.0
10 〃	160.0	110.0	50.0	115.0	150.0	–	117.0
11 〃	117.5	220.0	57.5	155.0	90.0	–	128.0
12 〃	105.0	135.0	130.0	155.0	267.5	–	157.0
計	1,340.0	1285.0	970.0	1,465.0	1,442.5	–	1,301.4

第3表　月別気温表（1925〜44年の平均）

	最高気温（平均）	最低気温（平均）	絶対最高気温（平均）	絶対最低気温（平均）
1月	31.0℃	21.0	39.0	12.0
2 〃	30.5	21.0	39.0	11.0
3 〃	30.0	20.0	39.0	12.0
4 〃	28.5	18.0	36.0	7.0
5 〃	26.1	16.0	34.0	0.0
6 〃	24.4	15.5	32.0	0.0
7 〃	24.9	14.3	35.0	1.7
8 〃	25.3	15.3	39.0	1.7
9 〃	28.3	17.0	39.0	8.0
10 〃	30.1	18.5	39.0	8.0
11 〃	30.6	20.0	39.0	11.0
12 〃	31.0	20.6	39.0	13.0

日本人移住者の入植しているサン・ファン地区は，以上の表の測定を行ったサベードラ農事試験場附近と比較すると，100〜200%程度降雨量が多いと云われている。

(3)　主な作物

1.　甘　蔗

ボリビアは砂糖の輸入国であり人口増加に伴って最近年々輸入量が増加しつゝある現状である。現在の年間消費量は約4万トンと云われ，ガビーラ，ラ・ベルヒカ，ラ・エスペラ

ンサ等の製糖工場で生産される国内生産量の消費量に対する比率は1956年度で11.3%，1957年度で19.5%にとどまった．

甘蔗栽培における問題点は，栽培がほとんど人力にたよっていること，甘蔗耕地内の道路が悪いため工場への運搬が困難なこと，品種が限られているため収穫期が限定され工場の操業期間が限られること等のため各製糖工場の能力が充分に発揮されていない点にあるが一方SAIの技術指導および農業銀行の資金貸付による援助等により1957年にはその栽培面積は非常に拡大されつゝある。

2. 米

米もまた国内の生産では需要を満すことができない．全国の米の栽培面積は13,000町歩に達しているが，一町歩当りの平均収量は約1,150kg程度であるから総生産量は15,000トンで国内消費量26,000トンに対し約11000トンが不足している．

ボリビアにおける米作の中心地帯は何といつてもサンタ・クルス州であるが，問題となる点も少くない。

米作における問題の主なものは，

慣例的に行なわれている不合理な栽培法・雑草被害に対する対策の欠除・資金難・道路および運搬の問題・倉庫の不足・適当な農機具の不足等があげられる．

3. コーヒー

サンタ・クルス地方はコーヒー栽培に好条件を備えている．

コーヒーの国内消費量は50,000キンタール（1キンタール46キロ）で，そのうちサンタ・クルス地方は約15,000キンタールを生産し，他はラパスのユンガス地方から生産される。サンタ・クルスおよびベニ地方の住民にはコーヒーを好むものが多いが他の地方では一般にコーヒーより紅茶を用いるため比較的コーヒーの需要が少く従つてコーヒーの栽培があまり重視されなかつた。当地のコーヒーの生産は生産コストが安いので輸出の可能性は充分にあると考えられる。コーヒー生産の問題点は

① 品質の改良・系統化が行われていないので市場価値があまりない。

② 栽培の技術がよく知られていない。

③ 調整の技術が低い。

④ 政策的に保護されていなかつた。等の点があげられる。

4．果　樹　類

当地から産出される果樹類はサンタ・クルスおよびコチャバンバ地方の需要を満しているが，ブラジル・アルゼンチンへの鉄道の完成により生産の発展が期待される。

サンタ・クルスの栽培面積は次表の通りで，その殆んどがバナナである。

生産地名	柑橘類	バナナ	パイナップル	カカオ
アンドレス・イヴーネス	480 町歩	2,600 町歩	90 町歩	- 町歩
ワルネス	20	100	5	-
モンテーロ	90	220	8	-
ポルタチエロ	20	292	10	200
ブエナ・ビスタ	124	500	-	209
合計	734	3,712	113	409

サン・ファン入植地はブエナ・ビスタに近く，その意味でカカオの適地と考えられる．一般にサンタ・クルス地方における果樹栽培業は甚だ幼稚な状況にあるから果実の加工の企業化までには相当の時日を要すると思われる。

5. 油脂作物

大豆．ヒマワリ．落花生．ゴマ等の栽培が試みられている．

大豆は1町歩当約2 500 Kgの収穫があり，バクテリアの接種が行われゝば20%の増収が可能である．油脂の含有量は19%である．

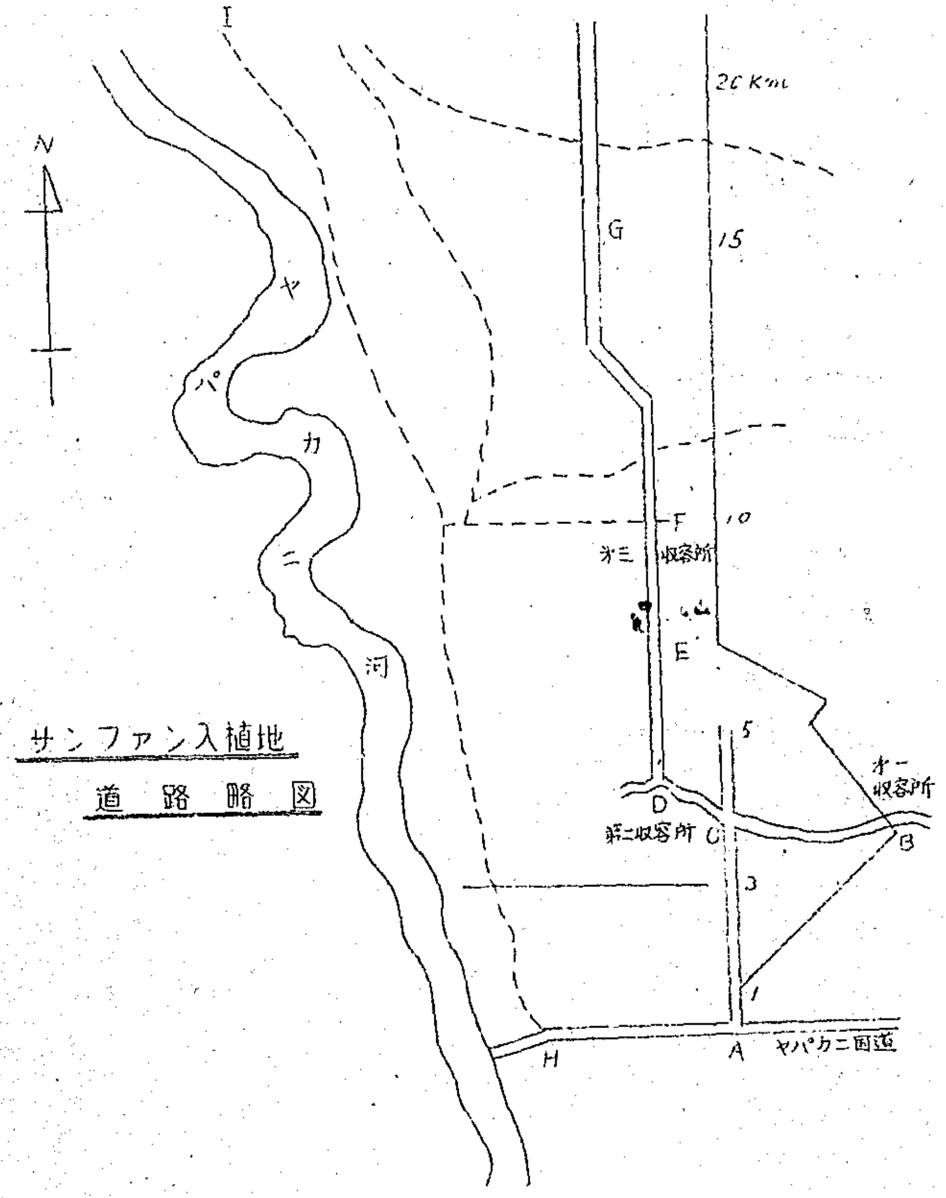
ヒマワリは1町歩当り約2,000 Kg の収穫があり油脂の含有量は約20%，落花生では約2,500 Kgで含有量は35%である。

中でも大豆はもつとも栽培に容易であり．早生であつて，又緑肥ともなる。

この種作物の問題はなんといつても搾油施設の欠けている点にある。

(本文は，S・A・I ＝ *Servicio Agricola Interamericano* の報告書をもととし支部の報告により一部を追加したものである．)

§ サンファン移住地の概況（海協連ボリビア支部駐在員篠崎主事の報告による）



1. サンファン入植地の現況

(1) 道　　路

A. サンタクルス市より入植地へ到るまでの道路

サンタクルスよりサンファン入口に到る延長約130Kmの道路中サンタクルスより約57Km，すなわちモンテーロより約2Km北方のカビラ（国営製糖工場の所在地）まではアスファルト舗装がしてあるが，それより先は大部分が巾員8mに盛土した道路があるのみで，かつて特に悪かつた部分にのみ砂利を入れてある，したがつて2年前に最も悪かつた箇所は現在では雨期でもあまり道路が破壊されることはないが，また砂利を入れてない部分は，雨期においては雨後2，3日の晴天が続かない限り車輌による交通は不能というのが現地での一般常識となつている。しかし全延長が交通不能というのではなく，毎雨期，毎降雨，時に破壊される所が数ケ所きまつている。したがつて，これらも漸次（舗装されないまでも）よくなるであろうとの希望はあり，雨期にも完全に交通可能となるのも遠くはないと思われる．

最悪の個所は入植地より約500m手前，距離にして長さ200mぐらいの間で，ここは毎雨期頭初にトラック及びトラクターの車輪で荒され泥濘化し，雨期明けまでは2～3週間の好天が続かない限りトラクター以外の交通はできなくなることが多い。土性は殆んど砂及び礫を含まないといつてもよいくらいの粘土質で，その上道路側溝の滞水が道路上に溢れでることもしばしばであり，雨期の車輌交通にはかなりの

運転技術と経験を積んだ助手を要する。

この間に河川は8ケ。1つは巾約200m，他は20m～10m内外であるが，この最大の河（ピライ河）には昭和32年12月に鉄骨とコンクリートによる橋梁が完成し，他の7ケ所の中2つは川床渡渉可能，他も漸次木橋より鉄骨コンクリート橋にかえられる予定であり，1つづつ測量に着手している。

これら悪路の補修及び小河川の架橋がおわらないかぎり，北米の援助によつて約3年がかりで完成した長さ200mの橋が完全に活用できないが，この路線がコチャバンバ――サンタクルス――ヤパカニ――プエルト・グレッテル――コチャバンバの産業道路予定線にあたるため，ボ国政府は，この早期解決に着手するものと思われる。

またこの間で問題となるのは，道路側溝のたまり水を排水するために約10箇所にヒューム管を埋設してあるが，この中3ケ所はその排水能力が充分でないため，毎雨期ごとにその箇所で道路が決壊し切断されることである。現在では雨期の間は，応急処置を施して通過するか迂回するかしているが，抜本的な施工をしないかぎり毎年同じことをくり返えすことになる。

B. 入植地道路

ヤパカニ国道との分岐点（A）より入植地に到る4Km国道（A－C）は，ブルドーザー等機械借上（*Serircio Agricola Interamericano*. ―― *Point Four* の下部組織，以下

S.A.I.と略称する；── より借上げ）費をボ国政府負担同運転手の食費等及びその他の間接工事費を日本政府より交付された昭和32年度補助金及び同追加分より支出し，昭和32年及び33年の2回にわたつて伐開，盛土した。伐開の巾は約20～25m，中央盛土巾約6m，高さ1mである。途中A地点より約3.7Kmの地点にある巾約15mの小川及び池数ヶ所に排水用ドラム缶（ヒューム管の代用）を埋設したが，雨期における降雨量及び流滞水量を過少視したために，34年1月末現在，上記小川の部分は道路が決壊し移住者の手で仮橋がかけられている。ドラム缶を埋設した中，他の3ヶ所も道路が決壊切断されて車輌の交通は不能である。ただしこれら後者は豪雨直後でなければ流水は殆んど零に近く，その後移住者の手によつて修復されているものと思われ，前記小川の地点まで車輌（まだ川床が固まらないためにトラクターは渡れるがトラックは通れない）が入り得ると思う。これら4Km国道の架橋及び排水管の埋設に関しては，ボ国開発公団の専門家に再調査を依頼し，コンクリートによる本格的橋梁を建設するようボ国農林省と折衝，34年1月末現在土木技師による調査の段階にあつた。

地区内道路の建設費はすべて日本政府より交付を受けた道路関係補助金及び同追加分より支出し，32年中乾期に才1収容所(B)より伐開を開始し，盛土なしの伐開だけで才2収容所(D)より約1.5Km北方の6.5Km地点(E)まで前進した時，降雨が続き雨期にはいつたと思われたのでブルドーザ

ーを引きあげた。33年に入り再開，上記4Km国道の盛土及びC－D－Eまでの補修を行ない，さらにEよりF（10Km地点）まで進んだときにボ国農林大臣の命によりS.A.I.はブルドーザーを引揚げ他地区の伐開整地にまわしてしまつた。

その後S.A.I.との解約にともない払戻しを受けたブルドーザ賃借料金の残額と，保留しておいた運転手食費等間接工事費引留金の残額とを合わせ，機械で伐開した先を幹線のみでも人力伐開により続けることとし，ボリビア人請負業者と契約を結んだ。同道路伐開の規模は巾15mは地上すれすれで伐木し，その間に丸太を残さず中央巾5mは立木を地下部分より伐り，人，車馬の交通及び降雨等によつて表土が沈圧された場合にも切株が地表面に現われないようにする。この人力伐開によると，表土を殆んど動かさないので，工事直後の見た目には極めてきれいに映るが，土が柔かいので車輌の交通はトラクターをのぞいては考えられず，それもすぐに輪だちが深くなるであろうし，土をかきまわすことになるであろうから，道路の生命としてはそうながいものではなく，人馬の交通が以前よりは楽になり，後で機械力により拡張あるいは盛土する場合にいくらかでも仕事をし易くなるであろうというのと，今年度産米を奥地から運び出せる道を幹線だけでもつくらねば移住者が心理的，経済的に落着き得ないとの見地から雨期ではあつたがこの道路伐開を強行したのである。昭和34年1月末現在，最初の1本目南北幹線道路は15Km

地点（G）附近まで進んでおり，残すところは約7Kmだけである。

この南北幹線にほぼ平行して入植地入口より約1.5Km西方より始まり，北東進するShell Oil Companyがつけた地形及び地質構造調査用の細道（巾約3mを伐開したのみ）（H－I）があり，一部移住者はこれを利用している。この道は概して川岸の排水の良い部分を選んでいるために上記入植地中央を通る南北幹線（D－G）より状態がよい。現在はD－Gは一応完成をみ，HIに簡単な補修を加えたとのことである。）

2本の南北およびそれとほゞ直角に東西に走る地区割用の細道――見通し線――が伐り開かれており，大部分の移住者は各自の耕地への交通路にこれを利用しているが，これは地区割りをするために土地の高低，地形，地勢等にかかわりなくつくつたものであつて，これを通路として利用することは無理である。従つて一部の移住者はこれと別個に高台を選んで自力で細道を開いているが，依然として大部分の者は地区割りの線をそのまま利用している。

上記幹線（D－G）と交叉する小川（巾10m前後以上で深さ2～3m以上のもの）は約5ヶ所にあり，手前の3ヶ所には移住者の手により簡単な土橋がかけられているが，車輌の交通は一番手前の1つを除いては不能である。その他排水あるいは簡単な架橋の必要のあるところは約30～50ヶ所で規模は色々である。

(2) 教　　育

サンファン入植地には学令期の児童が極めて多い。これら移住者が各自の耕地へ家を建て，生活及び仕事の本拠を移してしまうと，その分散が広くなつてしまうのと，前記道路の悪条件とのために学童を1ヶ所へ集めることができず，昭和34年1月末現在では3校（中1校はまだ開校せず）を設け，混合学級によつて授業を行つているが，まだ学童の通学に不便なためにさらに2校増加の計画がある。

A．校　　舎

すべて父兄の労力提供によつて建てられたものであるが，屋根は椰子葉葺，1部屋で，まわりは椰子の幹をさいた板で腰板をつけるかあるいはこれも無く，机及び椅子等は移住者が渡航時に梱包用に用いた板材をもつて固定式に作つたものである。他に校舎の近くに教員用の宿舎に同様の家が一棟つくが，これは椰子葉あるいは椰子の幹をさいた板で壁を作つてある。

B．教員・授業内容

日ボ移住協定にのつとり，公使館を通じてボリビア政府に要請すれば，教員を配属してくれ，ボリビア政府より給料を支給する。しかしこの給与のみでは生活費を賄いえず，父兄の負担により生活費を補助している。本年1月末現在3名の教員が決定し，中2名はすでに授業を行つており，1名は家族と共に引越準備中である。さらに1名配属される予定であるが，校舎の建築その他でまだ本決まりとまではいつていな

かつた。

現在授業を行なつている２名の教員中１名（３０才前後）は，昭和２９年西川移住者の入植後より約１年間，同入植地で授業を行ない，また西語の夜間講座を青年のために開いていたが，移住者の妹と結婚し入植地を去り，その後他の教員を迎えたが満足できる教員が赴任せず，３３年８月頃再び呼びもどし，現在は移住者の耕地の一部を借り，人夫を使つて耕作しながら比較的満足のできるような授業を行つている。この教員は移住者になじみも深く，日本人を妻としているために父兄等の意志の疎通が容易であり，授業もスムースに行われているが，他の１名は（３０才前後独身）日本人社会に馴れず，また父兄側は西語が分らず両者間の意志疎通がうまくいかないために辞めるとか辞めさせるとか，授業を行わない，行わせない等々の問題をしばしば起している。これにこりて３人目の教員は年寄りとし，妻子を同伴して入植地内に住めるように取計つておいたが，まだ授業するには至つていなかつた。

授業は西語によつて行われ，内容は学令によつて区別されることなく同一で，主として西語を教えることに終始し，１部に数学やボリビアの歴史，地理等が加わる。

教科書はかつては使用せず，教員が黒板に書いたものを児童が筆記していたが，３３年１０月頃ボリビア農林省が農村及び開拓地用に編集した教科書（西語研究の初歩ともいうべきもの）の寄贈を受け，現在は上記筆記による方法と教科書

とを併用している。

C. 学童及び通学

前記のごとく混合学級で，男子6～12.3才と女子6～17.8才が一緒に同じ授業を受けているため，教員側も学童側も満足感を得るような授業は行われていないと云つてもよいと思う。

また現在，道路の項で前述したように，地区内道路が極めて不完全であるため，1部の地域を除いては通学が困難なところが多く，（最悪のところは通学不能），不就学児童も多い。ある地域では道路が改善されるまでの暫定処置として通学道路と称して前述のものとは別個に道路を伐開し，馬等の交通を禁止して通学児童のため特別道路を設けているが，それとても通学問題の解決にはならず，通学に不便な場所の児童数が2.30名に達すれば新たに1学級を設けてゆくという方式がとられ，学校はいくらでも増えるが教育に関する事情が好転してきている訳ではなく，むしろ逆にこれは交通路の完備をまたなければ教育問題の解決はできないという一証拠でもある。

(3) 医　療

現在入植者の中には女医2名（1名は70才を超え若干漢方医のにおいがする），看護婦2名（3名いたが1名死亡，残る2名中1名は産婆の資格を有する）がいる。何れも日本での資格はあるがボリビア国での資格免許を持つていない。この他に日ボ移住協定にのつとりボ国政府より医師が派遣されることに

なつている。又特別な場合にはボ国厚生省へ依頼すれば*Point Four*サンタクルス医療部の医師を別に派遣してくれ，この方法によつてワクチン接種を行つたことが2度ある。

病院の設備はサンタクルス市にカトリック系のもの及びその他もう1つあるが，サンファンには前記女医の建てた椰子葺のものがあるだけで，これは病院としての使用にたえない。最近日ボ移住協定にのつとつてボリビア政府はサンファン内に病院設備を作つた。

ボリビア国内で用いられている医薬品は殆んどそのすべてが輸入品であるために高価ではあるが大低のものを入手し得る。しかし特殊な薬品は非常の場合に間に合わないことも起り得る。例えばワクチン類の入手はきわめて困難であり，サンファンで全児童に接種した種痘及びジフテリヤ，百日咳，破傷風の3種混合ワクチン等は，公使館よりボリビア厚生省を通じて*Point Four*医療部の手によつてアメリカより取り寄せたものを分譲してもらつたものである。

(4) 移住者の日常生活

A. 食

一般に栄養が偏つている傾向がある。これは男の場合には戸外で仕事をするため陽にやけて目立たないが，屋内で家事にのみ従事している婦人の顔色から知ることができる。これは偏食に起因するもので，その原因と考えられるのは，

(1) 肉及び脂肪に富んだものを食べる習慣が一般にはなく，また一部にはすすんで自からこれらになれようあるいは摂

取しようという気のない者（特に農村出の婦人，老人に多い）がある。

(2) 雨期には高温多雨で野菜（われわれが日本で見受ける夏野菜なら乾期の初め，——秋から冬にかけてできる）の耕作が極めて困難であり，この時期には殆んど野菜が無くなる。また一部では野菜のできる時期でも換金作物（ここでは米）に全力をあげ殆んど野菜を作らない者すらある。果物もバナナ・パパイヤは年中あるが，他は季節によるものであり，まだまだ柑橘類等は収穫をみるほど充分な成長をしていない。

等である。このような家庭の食卓を覗けば，山盛りにした白米飯とオクラ（これは殆んど年中できる）の味噌汁，パパイヤの漬物に時たま近くの川でとれる魚といつたものであつて，朝昼夕これだけでは熱帯において激しい労働をするだけの体力を維持できないのは当然である。これに反し一部外国生活の経験者（それが満州，台湾，支那でもよいが兵隊としてでなく）の家庭では牛肉を買い，豚や鶏を自分の家でつぶし，毎日卵を食べるとかしており，また家の近くに狭い畠でも野菜をきらさないよう日よけをしたり排水溝を掘つたりして工夫努力している。これら両者家庭の主婦をみるに，料理をする考え方が違う。前者のそれは口を開けば材料が無いというが，無理に日本式の料理を作ろうとするからであつて，仮に日本式の料理がうまくできたところで，それを食べていたのでは体力を維持できないであろう。後者のそれは材料が無け

れば仕方がないからと日本料理を諦め以前の外国生活の経験を生かして，土地及び材料に則したものを作ろうとしている。ていねいに算えたわけではないからはつきりした数字は分らないが，後者は全入植者の1割に充たないと思われるし，さらに後者でも調理に対する勉強が足りず，せつかく肉を買い鶏をつぶしても美味しく食べているのは少い。

飲料水を得るために，1部の者は堀抜き井戸を作つているが，小川の近いものはいまだにその流水を利用し飲料にも充てている。地下水位は高く，浸透水を得るつもりだつたら2～3m堀れば充分であり，5mも堀れば地下水々脈に達する。

以上偏食及び飲料水は追々改善されるとして，最後に残るのはヨード分の摂取である。海のないボリビアことにサンタクルス地方にはヨード分の不足に起因すると考えられるバセドー氏病が多い。それも一般に白人種よりも有色人種に多くみられる。現在入植している大人は今後ヨード分を摂取しなくても殆んど発病の心配はないそうだが，問題は今後生まれてくる子供のヨード分の補給である。

B．住

全部といつてよいほどその殆んどが椰子葉で，建坪4.5～10m 内外の1棟を住居に充てている。壁は土壁，椰子の葉，椰子の幹をさいたもの等思い思いの方法で家の周囲を囲い，一般に揚げ床にして寝室としているが，近時ベッドの方が家を広く使えて便利であるとしてこれに替えつつある家庭が増えてきている。この住居のほかに収穫小舎，鶏舎，馬

小屋等がその近くに建てられている。このように開拓当初の様式による住居のままであるが，一部では家の周囲に芝や花を植えたりして住いの環境を整えており，昨年（昭和33年3月収穫）の米作が順当であれば瓦葺，レンガ造りの本建築を目論でいたものも数家族あつたが，不作に終りこの計画も実現しなかつた．

C．衣

一般に移住者は2～3年分の衣料品を携行してきているのでまだそれほど不自由を感じていないが，一部西川移住者等古いものは衣料品を購入せねばならない時期にきている。たいていの衣料品はサンタクルスで入手できるが，これも輸入品であるため若干高価である．衣類は作業時にはボロでも構わないが，問題は履物である。伐採に皮靴を用いたのでは破損が早く高いものにつくし，現地人が用いる皮製わらじ様のものでは蛇や莿に対して無防備状態となるし，結局作業能率その他からみて移住者間では地下足袋を最上とし，これに短い脚絆を着用して仕事をしている。しかし今までのように次々と新入植者のある間は地下足袋の補充も比較的容易であつたが，今後はどのような方法をとり得るかが問題である．

(5) 営　　農

A．開　　墾

現在では人力によつて1ヘクタール当り25～30人の人夫の労働力を投入して伐採し，山焼後米の作付を行つている。この収穫後は2～3年耕作せず，雑草雑木の茂るにまかせた

人夫賃は，(192) 食事(2食)付 5S/150へ
食事なしでは 300へ400 280

後また伐採山焼して耕作するものと，翌年続けて耕作するものとあるが，大部分は前者の方法をとつている。その理由は
(1) 柔い草木の伐採は労力を多く要する割に能率が上らず，また，
(2) 炎天下に小さな草木を伐るのは森林の伐採よりも労伇である。
(3) 一部では連作すると地力が衰え，収量が落ちる。（現地人も同様の方法をとる者が多い）

しかし(3)の理由は現在のところでは否定的事実がある．すなわち同入植地内で3年連作（しかも場所によつては米と米の間にとうもろこしを入れて）した例があるが，3年では目立つた減収ということがないのみならず．稲の倒伏が少なくなり，作業能率が上ると云つている．

現地人の大農経営をしている者の経験では，連作を続けると毎年いくらかづつ減収し，その土地によつて異るが5～15年目以降は殆んど収量が一定してくるという。この話をしてくれた者は，収量を挙げるために肥料を投入しているが充分採算がとれるとのことである。ただし土地はパンパ（草原）で作業は機械によつて行なつている．

B．耕種作物及び適作物の物色

(1) 現在換金作物として耕作しているのは米だけである．単作というのは極めて危険であることは云うまでもないが，
ⓐ 米作が最も投下資金の回転が早い．ⓑ 現在の入植者の営農資金の最低額180,000円では倹約しても1年内外の

営農及び生活維持しかできないし，また最低額の180.000円しか携行してこない移住者の比率が大である．等の理由から開拓当初に米を作ることになる．

(2) 一般にサンファン入植者には最初に自給自足生活態制を整えようという気持がなく，一獲千金を夢見ている者が多い。したがつて前述の通り自家消費用の野菜も作らず，鶏も飼わずに米に専念し，携行して来た営農資金全額を最初の米に投入してしまう者もあり，これらは昨年の不作で手持資金の殆んどを失つている．またこれらの入植地の仕事振りは他目には派手に見えるため，これにひきづられて真似る者の方が，堅実な営農をしている者を見習う者より多かつたので，サンファンにおける開拓に不安を抱き，動揺する者がある．

(3) 現在までこれと云つて安定性のある永年作物の見通しは立つておらず，手当り次才に試作している段階である．コーヒー，茶，カカオ，柑橘類，バナナ，甘蔗，ウルク等耕作しうるが，自信を持つてこれだと人にすすめうるものはない．現段階で云えるのは，コーヒー栽培は大きく手を拡げない方が無難であり，少し大規模にやつても間違いがないと思われるのはカカオ・柑橘類，及び工場（糖蜜搾り機と濃縮設備をするだけでも可）を作る資本を調達し得れば甘蔗も可能である．

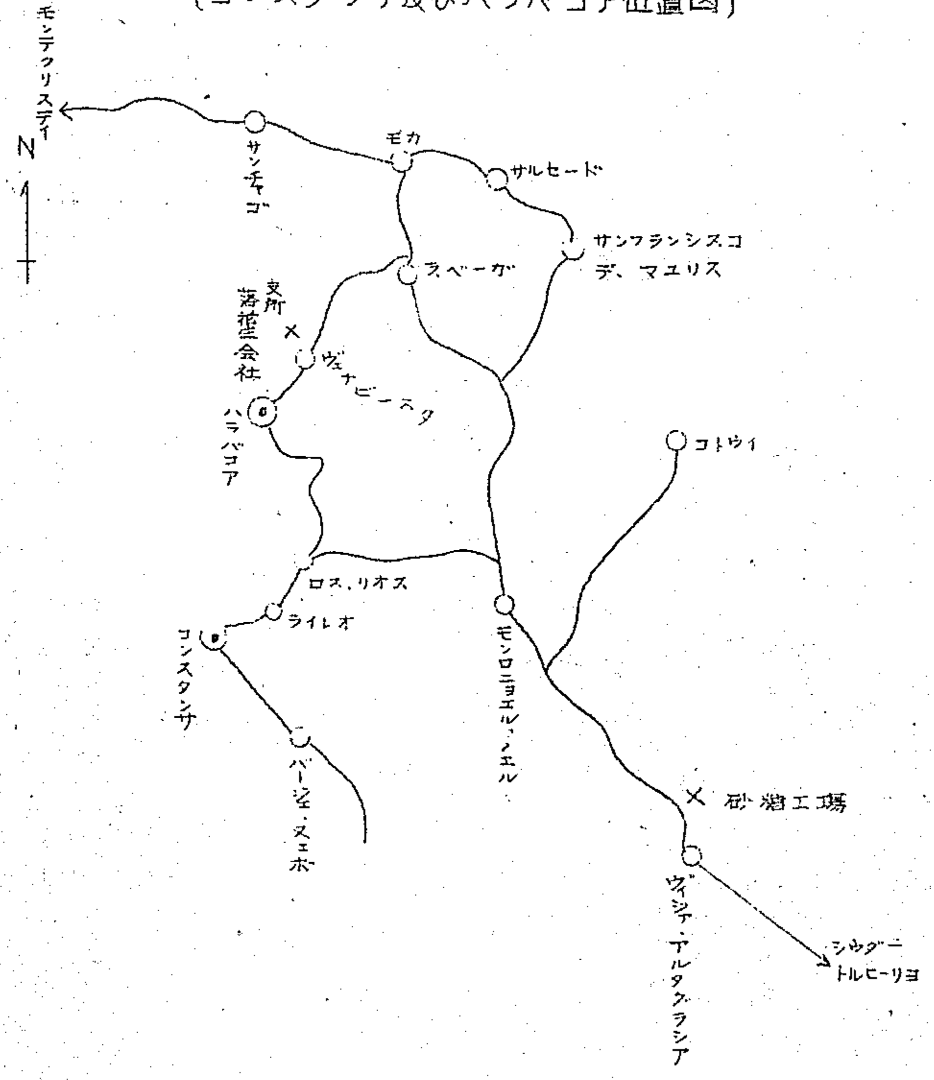
(6) 携 行 品

携行品を減らし，営農資金として金を携行せしめること．現

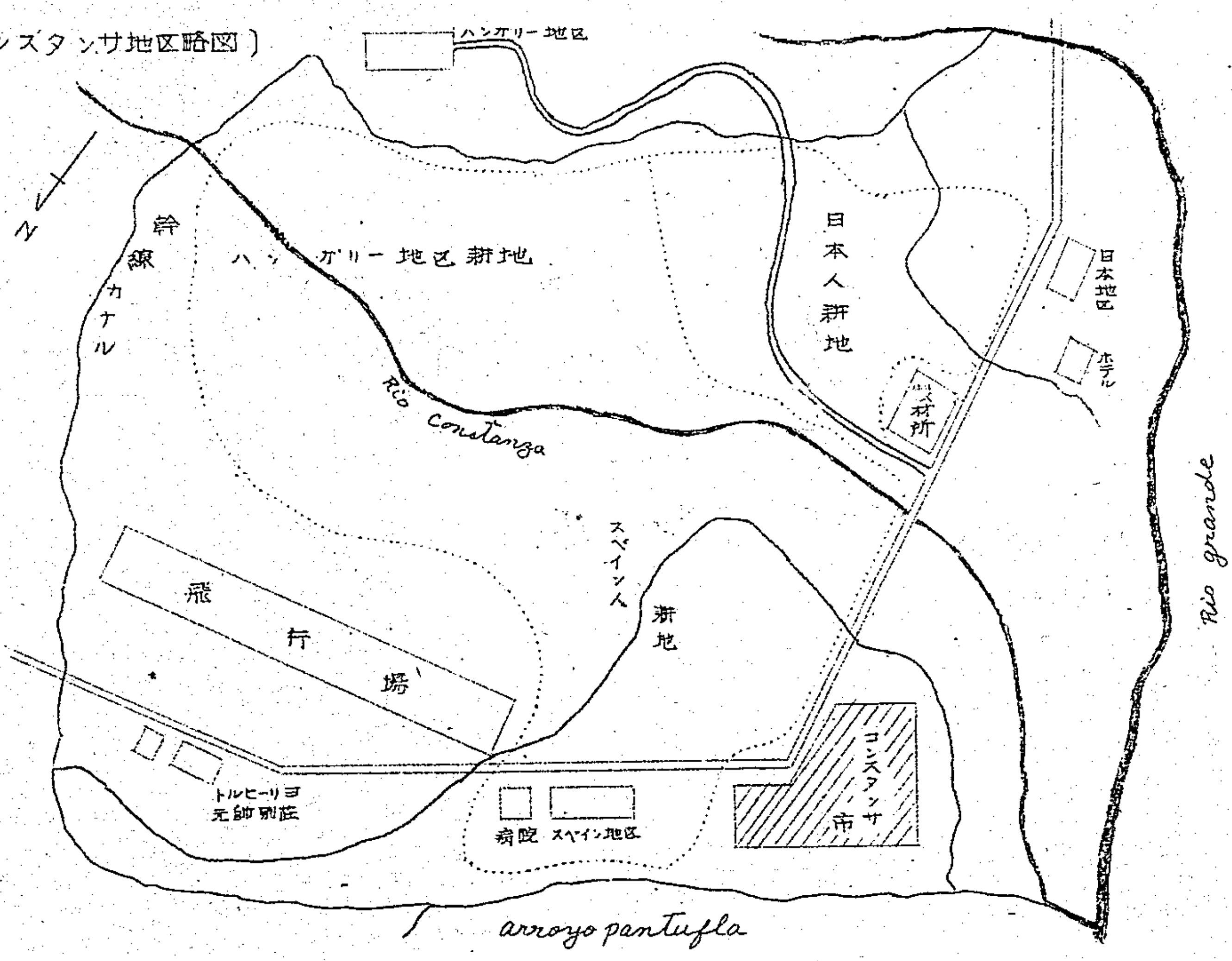
在ボリビアは経済統制をしておらず貿易も自由であつて大抵のものも容易に入手出来る．価格も，移住者が高い運賃を支払つて携行してくるものよりは安い（ただし，衣料品は日本製をもつてきた方が割安になる）。従つて換金物資として余分の品物をもつてくる事は損であり，農業機械にしてもすぐにも使用出来ないハンド・トラクターや20家族の移住者集団中精米機が4台も5台もあるなどは愚である．このような機械類は正規の輸入品より原価が高くつくし，高価なものであるから処分するのも容易ではないし，原価を割つて売らざるを得なくなる．

§ コンスタンサ入植地営農状況

〔コンスタンサ及びハラバコア位置図〕



〔コンスタンサ地区略図〕


ハンガリー地区
N
幹線カナル
ハンガリー地区新地
日本人新地
日本地区
ホテル
製材所
Rio Constanza
スペイン人新地
飛行場
トルヒーリヨ元帥別荘
病院
スペイン地区
コンスタンサ市
Rio grande
arroyo pantufla

1. (イ) 位　置

本地区は国土のほぼ中央に位置し、中央山脈中の盆地である。（標高1,230米）

首部トルヒーリョ市の北西約170粁、ハラバコアの南々西48粁のところにあたる。

なお、当地区はハラバコアと同様、ラ・ベーガ県に属す。

(ロ) 面　積　（1タレア＝0.6反）

総面積　7,829タレア　（約470町）

（内　訳）	スペイン人	4,096	タレア
	日本人	1,779	〃
	ドミニカ人	1,636	〃
	ハンガリー人	318	〃

コロニア用地は、全部農耕地である。

2. 土地配分状況

日本地区では、昨年2月　本コロニアから、邦人移住者14家族がハラバコアに転出後、土地の追加配分を日本人の手で行うことを許されたため、移住者間で、土地　条件　位置　面積　等を考慮して話し合いで配分を決定した。

従って面積は、最少67タレア、最大157タレアで一様ではない。（平均面積110タレア、約6.6町歩）

3. 災　害

病虫害が比較的多く、絶えず注意し農薬撒布をしなければならぬ。

（根切虫、ナメクジ、ネマトーダ、油虫等、疫病、瘡痂病（ジャ

ガイモ）炭疽病（トマト）バイラス（アビチュエラ）等が多い）

4.（イ）土　　壌

表土は厚さ約50糎、主として黒褐色或は黒色弱酸性であり、壌土ないし埴壌土が多い。

（ロ）気　　候

当地区は、ド国の代表的高冷地であり、日中はかなり気温は上る（最高気温31度）が朝夕は涼しく冬季には6〜7度まで下る（最低気温2度）

	A	B	C	D	註
1　月	25.2 °C	9.9 °C	17.6 °C	41.3 mm	A. 1946から47年の平均
2　月	29.3	9.1	17.7	28.4	最高気温
3　月	30.4	8.2	19.3	29.8	B. 1946から47年の平均
4　月	28.8	9.5	19.4	87.4	最低気温
5　月	28.4	11.2	19.8	203.8	C. 1946から47年の平均
6　月	28.7	13.0	20.7	120.9	気温
7　月	28.9	11.4	20.3	83.4	D. 1946から53年までの
8　月	29.4	11.9	20.7	83.3	8年間の平均降雨量
9　月	29.8	12.2	21.0	147.3	
10　月	29.8	13.1	21.2	136.8	
11　月	27.6	10.8	19.1	60.4	
12　月	26.9	10.3	18.0	41.1	
	28.4	10.9	19.5	1,063.9	

5.（イ）道　　路

日本地区住宅東側をコンスタンサからサン・ホセ・デ・オコ

アを通りバニーに通じる巾8米の国道が走っている。

耕地内には4米の幹線農道があり、これは又ハンガリー地区への道路に連絡している。

(ロ) 水　利

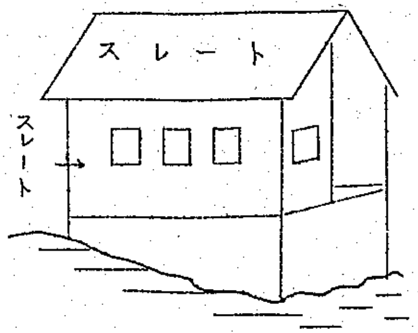
本コロニアではグランデ川の水をカナルによって導き灌漑を行っているが、灌漑耕地面積が比較的少いため、現在の水量で十分であり、ダハボン・オイバに於けるような用水不足問題は皆無であった。

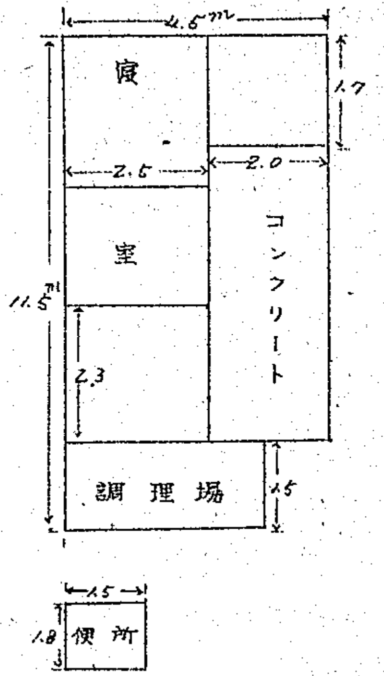
但し現在は渇水期であり、且つ耕地の拡大が著しいため一時的に配水の調節を行っている。

当地区のカナルは、ド農務省水利局コンスタンサ水利事務所の管轄下にあり、同事務所より毎月30日に各人関係カナル及び排水路を清浄するよう指令を受けている。

6. 住　宅

日本地区の住宅は、ダハボンの住宅と同様、木造(側面スレート)スレート葺家屋であるが、ハンガリー地区はハラバコアと同型である。





7. その他の施設

(イ) 光　熱　源

当地区はハラバコアと同様、電力豊富な地帯であり，各戸に電灯が設置されている。電灯料は有料であり，月1戸1～3ペソである。但し，ハンガリー地区は現在のところ無料である。

(ロ) 飲　料　水

各戸に水道があり，飲料水の取得は容易である。

(ハ) 教　　育

ハンガリー地区には分教場があるが，日本地区の子弟は町の小学校に通学している。

(ニ) 医　　療

ハンガリー地区に診療所がある。(昨年12月開設)

(ホ) 倉　　庫

日本地区に農務省の倉庫（８×２５ｍ）がある．

8．市場と輸送関係

現在は、生産物は全てコロニア内で商人に販売している。

本コロニア在住の一日本人がトラック１台、小型トラック１台を使用して週３・４回定期的にトルヒーリョ、サンチャゴ、プエルト・プラタ、バルベルデ等々の都市で販売するほか、随時他の商人（ドミニカ人）がトラックで買付に来る。

9．営農収支概算

本コロニアには、５６年１０月入植の１０家族と、５６年１２月入植の６家族がいるが、入植第２年として５８年１月初めから１２月末までの営農収支状態について考察する．

右期間以前に生活補給金を打切られた者、その後も生活補給金（全額の者と一部の者とがある）を継続された者（その後除々に打切られ現在貰っているのは１・２家族である）とがあり、又、経営方法、稼働力、作物の販売時期等夫々異なり、その収入、支出額には大きな差がみられるが、一応平均な状態をみてみよう。

コンスタンサ入植者営農収支（14家族の平均）

収入		支出		
農業粗収入	3.468ペソ（1.248千円）87.2%	営農費	2.183ペソ（786千円）	62.3%
生活補給金	260ペソ（94千円）6.6%	内訳		
前年度余剰金	200ペソ（72千円）5%	人夫賃		28.5%
借入金	51ペソ（18千円）1.3%	肥料代		23.2%
		種子代		16.8%
		農薬代		9.3%
		開墾費		10.6%
		農機具購入費		6.9%
		家畜購入費		0.6%
		その他		4.1%
		生活費	1.056ペソ（380千円）	30.3%
		旅行費	92ペソ（33千円）	2.0%
		教育費	54ペソ（19千円）	1.5%
		雑費	135ペソ（49千円）	3.9%
計	3.979ペソ（1.432千円）100%	計	3.520ペソ（1.267千円）	100%

農業純収益（農業粗収入から営農費をさしひいたもの）は、1.300ペソで、これは生活費、旅行費、教育費その他の費用を大体まかなうものである、なお実際に金を残した者は4〜5名（400乃至2.000ペソ）で他の者は、差引零というところであり、大体、農業のみで生活していける段階に達したといえる。

営農収支概算（その一）

コンスタンサ在住11家族の平均

収入			支出		
生活補給金	259ペソ	（93千円）	生活費	1.060ペソ	（382千円）
携行資金	200	（72）	旅行費	90	（32）
農業粗収入	3.450	（1.242）	教育費	55	（20）
トマト	1.520	（547）	営農費	2.200	（792）
キャベツ	735	（265）	種子代	365	（131）
ジャガイモ	500	（180）	肥料代	510	（184）
チシャ	175	（63）	農薬代	205	（74）
カリフラワー	150	（54）	人夫賃	620	（223）
レモラーチャ	90	（32）	農機具	150	（54）
ピーマン	80	（29）	開墾費	230	（83）
ニンニク	70	（25）	家畜費	15	（5）
アビチュエラ	70	（25）	その他	90	（32）
花	50	（18）	雑費	135	（48）
キウリ	35	（13）			
その他	15	（5）			
借入金	50	（18）			
合計	3.959ペソ	（1.425千円）	合計	3.540ペソ	（1.274千円）

差引残高　419ペソ　（151千円）

営農収支概算（その二）

成績上位の家族

耕地　157タレア

家族　夫婦子供　4人

稼働力　2.6

収	入		支	出	
農業粗収入	6.950ペソ	(2.502千円)	生活費	1.500ペソ	(540千円)
トマト	5.800	(2.088)	旅行費	100	(36)
ジャガイモ	600	(216)	教育費	100	(36)
アビチュエラ	350	(126)	営農費	2.800	(1.008)
キャベツ	180	(65)	人夫賃	700	(252)
ニンジン	20	(7)	種子代	650	(234)
			肥料代	300	(108)
			農薬代	340	(122)
			農機具代	430	(155)
			開墾費	390	(140)
			雑費	360	(130)
合計	6.950ペソ	(2.502千円)	合計	4.860ペソ	(1.750千円)

差引残高　2.090ペソ　(752千円)

営農収支概算（その三）

成績中位の家族

耕地　　１０ｱ タレア

家族　　夫婦、子供１人、弟１人

稼働力　　2.2人

メリーテーラー　　１台

収	支		支	出	
生活補給金	530ペソ	(191千円)	生活費	1.325ペソ	(477千円)
前年度剰余金	250	(90)	営農費	3.390	(1.220)
農業粗収入	4.605	(1.658)	人夫賃	1.180	(425)
トマト	3.035	(1.093)	種子代	510	(184)
ジャガイモ	930	(335)	肥料代	650	(234)
キャベツ	410	(148)	農薬代	370	(133)
チシャ	110	(40)	開墾費	260	(94)
その他	120	(43)	材料代	270	(97)
			動力代	100	(36)
			その他	50	(18)
			雑費	180	(65)
合計	5.385ペソ	(1.939千円)	合計	4.895ペソ	(1.762千円)

差引残高　　655ペソ（236千円）

営農収支概算（その四）

成績下位の家族

耕地　　55タレア

家族　　夫婦・子供　4人

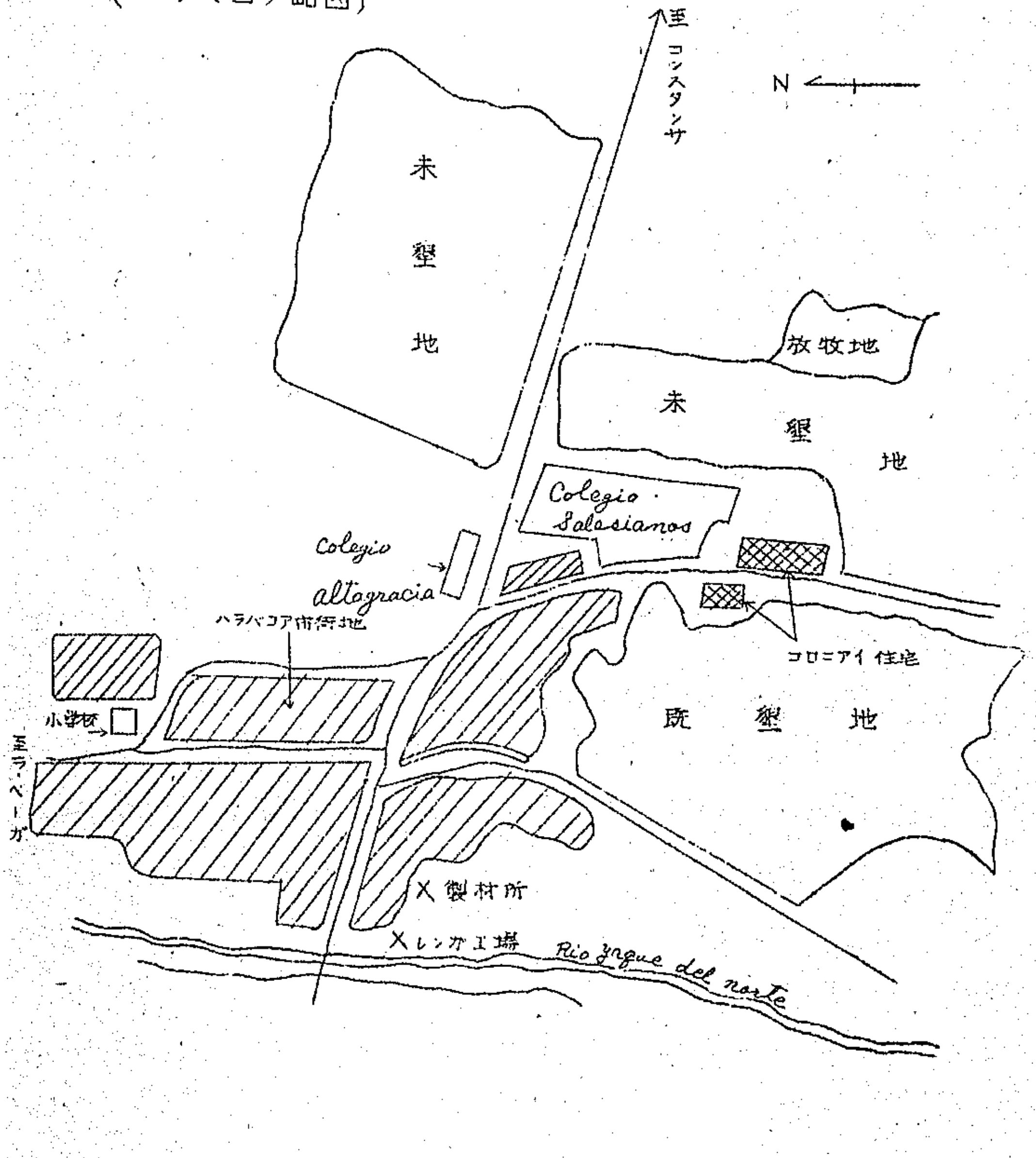
稼働力　　1.6人

収入			支出		
生活補給金	360ペソ	(130千円)	生活費	480ペソ	(173千円)
農業粗収入	1,220	(439)	教育費	120	(43)
トマト	450	(162)	旅行費	50	(18)
キャベツ	450	(162)	営農費	830	(299)
レモラーチャ	150	(54)	人夫賃	240	(86)
ジャガイモ	50	(18)	種子代	60	(22)
チシヤ	50	(18)	肥料代	220	(79)
キウリ	50	(18)	農薬代	60	(22)
アビチュエラ	20	(7)	開墾費	100	(36)
			農機具	50	(18)
			その他	100	(36)
			雑費	90	(32)
合計	1,580ペソ	(569千円)	合計	1,570ペソ	(565)

差引残高　　10ペソ　（4千円）

§ ハラバコア入植地営農状況

〔ハラバコア略図〕



1. (イ) 位　　置

本コロニアは国土のほぼ中央に位置し、当ドミニカ国にある邦人コロニア中主要各都市に最も近く又交通の便も極めてよい。(標高約600米)

首都トルヒーリョ市の北々西160粁、シバオ平原の中心であり、ド国第二の都市サンチャゴの南々東60粁のところにある。

なお、当地区はラ・ベーガ県に属す。

(ロ) 面　　積

総面積		約	15,000タレア
内訳	住宅地		200
	既墾地		2,817
	本年度開墾予定地	約	3,000
	灌木林、草地等の未墾地	約	9,000

2. (イ) 土地所有関係

上記の土地(15,000タレア)は全て国有地であり、本コロニア入植の邦人、スペイン人移住者及びドミニカ人コロノは無償でその土地(既墾地2,817タレア)の使用を許されているのみである。

(ロ) 土地配分状況

昨年(1958年)4月、7月末入植の移住者13家族、2月初コンスタンサよりの転入者14家族、新婚者、独身者(夫々1名)ドミニカ人コロノに対し一斉に抽選によって土地配分が行われた。

その後希望者に対する土地交換が許された，しかし結果的には最良地を放てきして、自ら最悪地を選び、現在耕作困難で困窮している者もいる。

3. (イ) 災　害

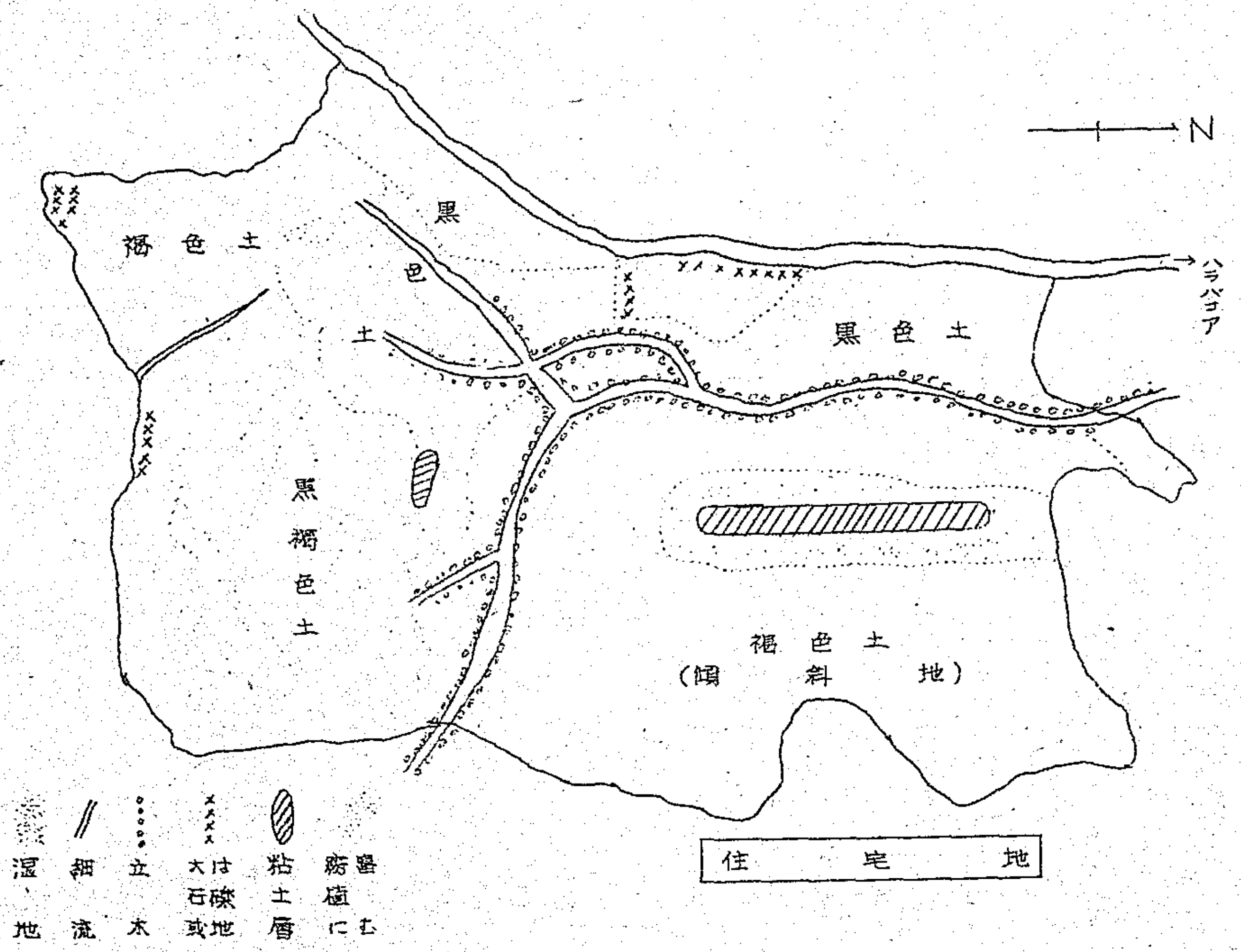
水　害　　多量の降雨がある場合（例えば5月の雨季）低い耕地は高所から流れ込む水によってはんらんする。

病虫害　　比較的多い．従って絶えず注意し、農薬撒布をしなければならない。

（根切虫、ネマトーダ、油虫等
瘡痂病（ジャガイモ）、炭疽病（トマト）等）

4. (イ) 土　壌

表土は褐色、黒褐色或は黒色で、弱酸性乃至酸性、厚さは30乃至50糎、土性は主として壌土乃至埴壌土であるが、一部は粘土、礫土、（或は大石を含む）である。又腐植に富む箇所と少ない所に大別される。


N
ハラバゴア
黒色土
黒色土
褐色土
黒褐色土
褐色土
(傾斜地)
住宅地
湿地
細流
立木
大石或は礫地
粘土層
腐植に富む

(ロ) 気　候

当地区はトルヒーリヨ、ダハボン、ネイバ等のような熱帯低地程暑くなく（最高気温３３度）又冬季に於てもコンスサンタ程寒くない。（最低気温１１度）

降水量は年間1,000乃至1,800粍　平均1,500粍弱でド国に於ては、比較的雨の多い地域であり、雨の多い時期を利用して天水農業を行うことが可能である。

	A	B	C	D	E	註
1月	26.3 ℃	14.1 ℃	20.2 ℃	165.1 mm	137.9 mm	A. 1958年最高平
2月	26.3	15.4	20.4	97.5	153.4	均気温
3月	30.0	15.2	22.6	62.5	69.8	B. 1958年最低平
4月	30.3	17.1	23.7	128.6	130.7	均気温
5月	29.5	18.7	24.1	241.5	207.2	C. 1958年平均気
6月	29.4	14.7	22.0	87.6	103.4	温
7月	29.9	17.8	23.9	98.5	96.7	D. 1946～1953
8月	32.2	18.0	25.1	60.0	78.0	年の8年間の平
9月	31.1	17.8	24.5	112.4	97.4	均降雨量
10月	30.3	16.9	23.6	118.7	141.5	E. 1946～1958
11月	29.6	16.8	22.7	133.6	118.8	年の13年間の
12月	27.8	13.6	20.7	150.5	136.9	平均降雨量
	29.3	16.3	22.8	1,456.5	1,470.7	

最多風向、北東の風（約６割）東風（約２割５分）である。最大風速についてはデーターがないため不明であるが、作物に害を与えるような強風は殆んどない。又当地区は、ハリケーンに

よる被害は皆無といってよい。

5. (イ) 道　路

巾6米の公道がコロニア住宅地の中を横切っており、耕地内の農道はこれに連絡している。なお農道は関係入植者が設置維持するものである。

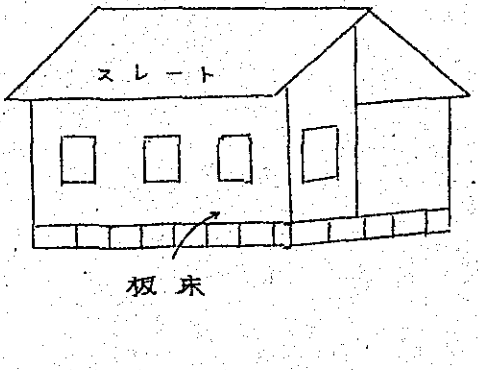
(ロ) 水　利

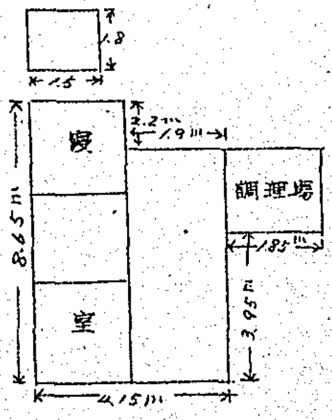
既墾地内の幹線用水路の工事は大体完了した。又ド国農務省は1万3千ドルの予算で排水路を設置する計画である。

6. 住　宅

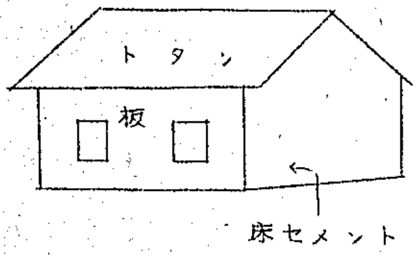
ハンガリー、スペイン、日本人移住者用として建設された木造スレート葺家屋60戸とドミニカ人用としての木造トタン葺家屋50戸がある。

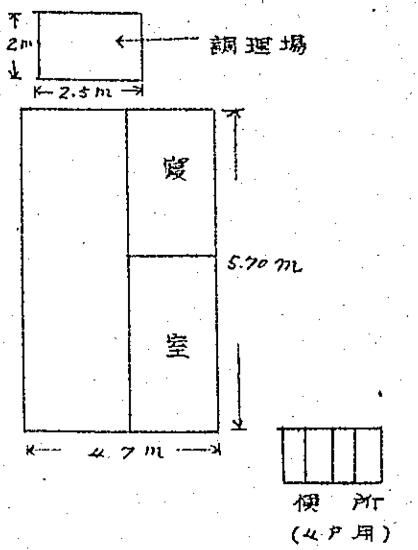
〔移住者用家屋〕





〔ドミニカ人用家屋〕





7. その他の施設

(イ) 光熱源

当地区は、ハラバニア近郊に水力発電所(ヒメノア)があるため電力は豊富であり、各戸に電灯が設置されている。現在は電灯料は無料であるが近く支払わねばならなくなるだろう。

(ロ) 飲料水

各戸に水道があり、飲料水の取得は容易である。

(ハ) 教育

コロニア内には分教場はないが、移住者子弟は町にある学校に通学している。

(ニ) 倉庫

コロニア内に農務省の倉庫(8×25m)がある。

8. 市場と輸送関係

現在の段階では次のように大別できる。

(イ) コロニア内

(a) 商人　　ジャガイモ、アビィチュエラ、トマト等の野菜を
商人が買付に来る。

(b) 一般市民　　少量の疏菜を買いに来る。

(ロ) ハラバコア

毎朝、リャカー或は自転車で疏菜を売り歩く。

(ハ) ラ・ベーガ市

現在、青年2名がラ・ベーガ市にてリヤカーで売り歩く。ラ・ベーガまでの輸送は毎日タクシーを使う。

運賃は1キンタル　25セント

9. 営農収支概算

本コロニアでは土地配分農場整備等の関係上第一回作付は4月及至5月に行われたが、入植(58年1月末或は2月初)後1年間の営農収支について考察する。

本コロニアの配分地の土地条件には甚しい差があり、又経営方法も異ることから、農業粗収入は皆無から2千余ペソまでの差がみられるが、ここでは、平均的状態をみてみよう。

ハラバコア入植者営農収支概算

収入			支出		
生活補給金	670ペソ(241千円)	49.7%	生活費	667ペソ(240千円)	50.3%
農業粗収入	424(153)	31.4	営農費	473(170)	35.6
携行資金	235(85)	17.4	人夫賃	125(45)	26.5
借入金	20(7)	1.5	種子代	104(37)	21.9
			肥料代	71(26)	15.1
			農機具代	48(17)	10.3
			農薬代	36(13)	7.5
			開墾代	30(11)	6.4
			家畜購入費	25(9)	5.3
			その他	32(12)	7.0
			資材費	67(24)	5.0
			旅行費	50(18)	3.8
			その他	70(25)	5.3
計	1,349ペソ(486千円)		計	1,327ペソ(478千円)	

差引残高　22ペソ　(8千円)

生活費は、生活補給金内でまかなわれているが、農業粗収入は営農支出を下廻る程度であり、営農面での赤字及び旅行、医薬、娯楽、教育、資材費等々のために携行資金が消費され、現在の手持金は僅少という状態である。

営農収支概算（その一）

５８年１月、２月の入植者中 １６家族の平均

収入			支出		
生活補給金	670ペソ	(241千円)	生活費	670ペソ	(241千円)
携行資金	235	(85)	旅行費	50	(18)
農業粗収入	420	(151)	教育費	20	(7)
トマト	170	(61)	資材費	70	(25)
蔬菜	45	(16)	営農費	470	(169)
ジャガイモ	50	(18)	種苗代	100	(36)
落花生	100	(36)	肥料代	70	(25)
アセチエラ	50	(18)	農薬代	35	(13)
その他	5	(2)	開墾費	30	(11)
借入金	20	(7)	人夫賃	125	(45)
			農機具代	50	(18)
			家畜購入費	30	(11)
			その他	30	(11)
			雑費	40	(14)
合計	1,345ペソ	(484千円)	合計	1,320ペソ	(475千円)

差引残高　25ペソ（9千円）

営農収支概算（その二）

成績上位の家族

耕地　150クレア

家族　夫婦・子供3人・甥1人

稼働力　3.0人

収		入	支		出
生活補給金	840ペソ	(302千円)	生活費	905ペソ	(324千円)
携行資金	290	(104)	旅行費	75	(27)
農業粗収入	2,710	(976)	教育費	15	(5)
トマト	1,610	(580)	資材費	180	(65)
ジャガイモ	590	(212)	営農費	2,240	(806)
落花生	280	(101)	種子代	490	(176)
人参	120	(43)	肥料代	440	(158)
アフイシス	40	(14)	農薬代	155	(56)
赤カブ	25	(9)	人夫賃	540	(194)
ナス	25	(9)	農機具代	325	(117)
キウリ	20	(7)	材料代	120	(43)
			家畜購入費	70	(25)
			その他	15	(5)
			雑費	45	(16)
合計	3,840ペソ	(1,382千円)	合計	3,505ペソ	(1,262千円)

差引残高　335ペソ　(121千円)

営農収支概算（その三）

成績中位の家族

耕地　509レア

家族　夫婦と子供4人

稼働力　1.8

収入			支出		
生活補給金	770ペソ	(277千円)	生活費	800ペソ	(288千円)
携行資金	35	(13)	旅行費	30	(11)
農業粗収入	490	(176)	教育費	60	(22)
トマト	35	(13)	営農費	345	(124)
キャベツ	40	(14)	種子代	80	(29)
ジャガイモ	40	(14)	肥料代	30	(11)
落花生	105	(38)	農薬代	25	(9)
アピチュエラ	160	(58)	人夫賃	130	(47)
蔬菜	90	(32)	農機具代	35	(13)
その他	20	(7)	その他	45	(16)
			雑費	55	(20)
合計	1,295ペソ	(466千円)	合計	1,290ペソ	(464千円)

差引残高　5ペソ　(2千円)

営農収支概算(その四)

成績下位の家族

耕地　　50タレア

家族　　夫婦と子供４人

稼働力　　3.5

収	入		支	出	
生活補給金	820ペソ	(295千円)	生活費	750ペソ	(270千円)
携行資金	210	(76)	旅行費	50	(18)
農業収入	――――		教育費	20	(7)
			営農費	185	(67)
			種苗代	※	
			開墾費	120	(43)
			人夫賃	15	(5)
			家畜購入費	30	(11)
			その他	20	(7)
			雑費	20	(7)
合計	1,030ペソ	(371千円)	合計	1,025ペソ	(369千円)

差引残高　　5ペソ　(2千円)

※　落花生6キンタール、アビチュエラ200ポンドの種子現物未払分がある。

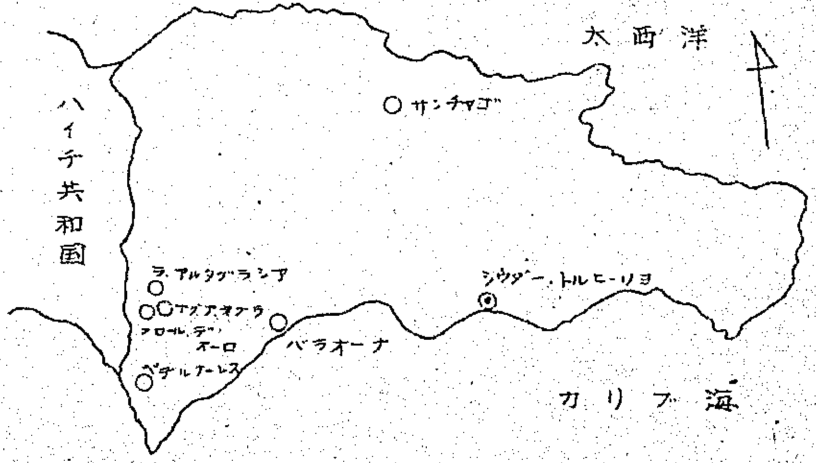
排水不備のため降雨期に水が耕地にはんらんし、落花生、アビチュエラ等の作物は殆んど全滅した。

(海協連ドミニカ支部の報告による)

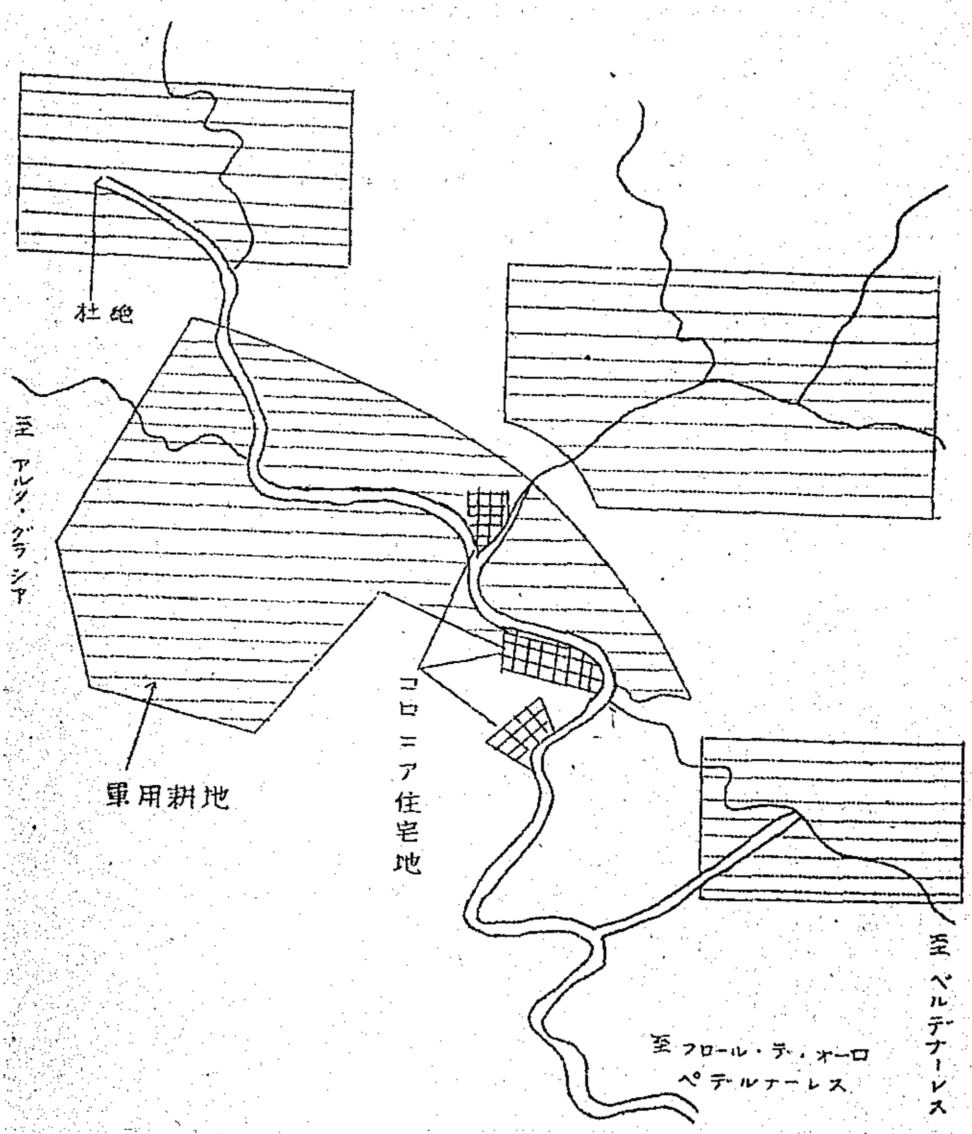
§ アグア・ネグラ入植地について

（外務省移住局実施の移住地実態調査
および海協連ドミニカ支部の報告による）

1. アグア・ネグラ入植地位置図



2. 入植地内略図



3. 土地について

当入植地は総面積約9.000タレア（約540町歩であり、そのうち3.000タレア（約180町歩）は傾斜地又は岩石のため耕地として利用されない。土地の利用についてはコーヒー園1.000タレア（約60町歩）、果樹4.000タレア（約240町歩）、蔬菜（主に豆）1.000タレア（約60町歩）が予定されている。

バオルーコ山脈に隣接する地帯であるため複雑な地形をなし、標高750mから950mの地点にある。

入植地9.000タレアのうち、約5.000タレア（300町歩）は原生林又は再生林で10～30年生 樹径20～30cmのアカシヤ科の灌木がある。

4. 気候について

入植地における6～10月の観測記録によると気温は別表の通りである。降雨量については記録がないが乾期は7～8月で一般に降雨量・湿気ともに多い。

月別	最高気温	最低気温	平均気温
6月	32.0	13.0	23.0
7月	35.0	15.0	25.0
8月	36.0	15.0	25.0
9月	35.0	14.0	24.0
10月	34.0	14.0	23.0

5. 生活について

邦人入植者のための住宅は、その他の施設とともに集団をなし

て建設されており木造（松材）、トタン屋根である。光源としてはランプを使用し、河水利用による共同水道がある。

又入植地内には、学校、倉庫、教会、簡易診療所等があり診療所には保健指導員１名が常駐している。

6. 入植者と営農法

当入植地は日本人移住者４５家族２４７名の他にドミニカ人３１世帯を含む混合入植地である。

現地人は果樹を陰影樹としてその下にコーヒーを栽培している。又とうもろこしで養鶏、養豚を行う。一般に肥料は使用しない。